

5 身体活動・運動について

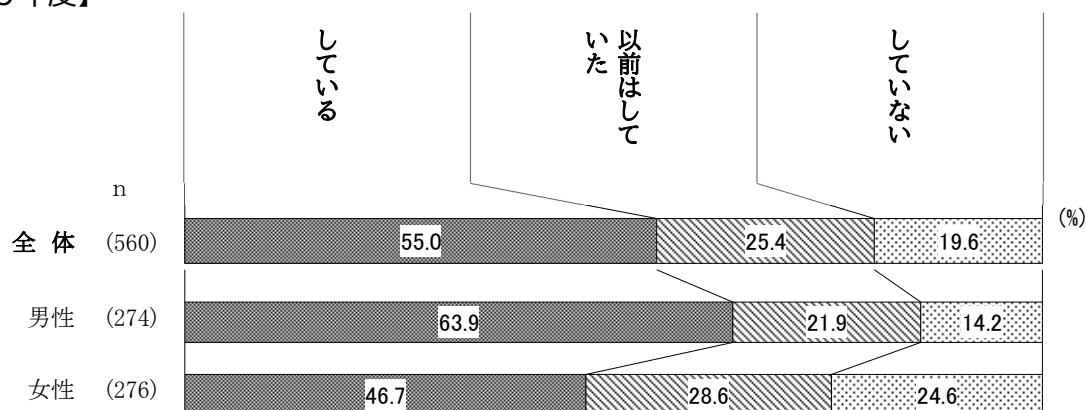
(1) 運動習慣の有無

◇「している」が5割台半ばで、「現在していない」が4割台半ば

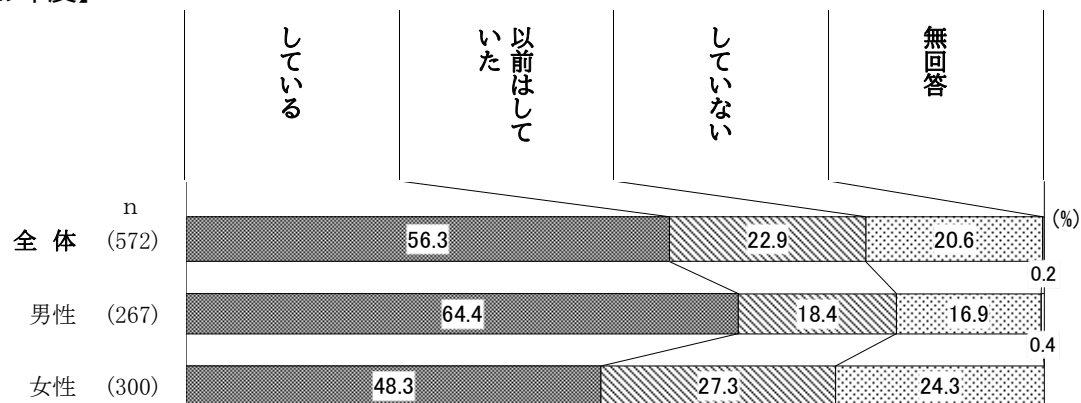
問29－1 あなたは、健康のために定期的に、または毎日、運動・スポーツ（部活を含み、体育の授業は除きます。）をしていますか。（○は1つだけ）

<図表Ⅳ－5－1>運動習慣の有無

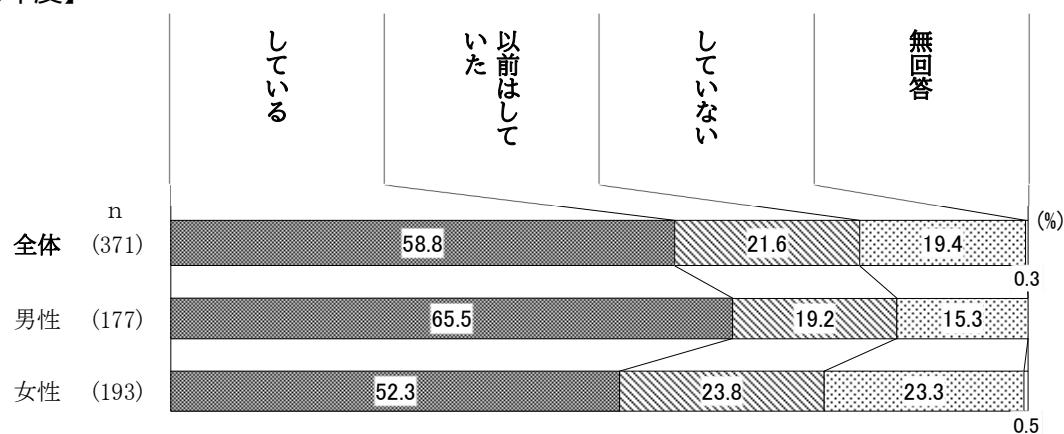
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



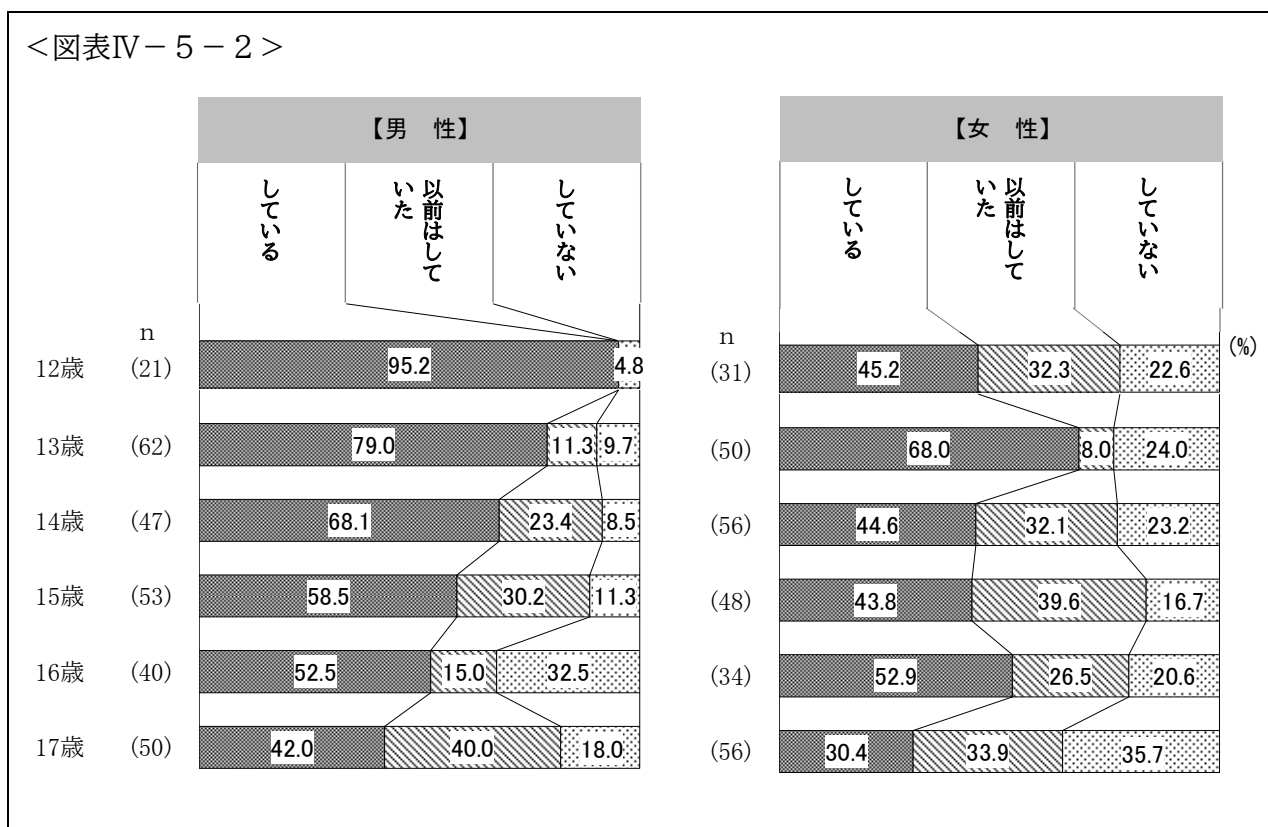
運動習慣の有無を聞いたところ、「している」(55.0%)は5割台半ばとなっている。一方、「以前はしていた」(25.4%)と「していない」(19.6%)を合わせた《現在していない》(45.0%)は4割台半ばとなっている。

性別でみると、「している」は男性が女性より17ポイント高く、6割台半ば、《現在していない》は女性が男性より17ポイント高く、5割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では大きな違いはみられない。性別では、女性は平成25年度から「している」が漸減傾向で5ポイント減、《現在していない》が漸増傾向で6ポイント増となっている。(図表Ⅳ-5-1)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ-5-2>



男性では「している」は12歳が9割台半ばと最も高く、年齢が上がるにつれ減少している。《現在していない》は、17歳が約6割と高く、年齢が上がるにつれ増加している。女性では「している」は、13歳が約7割と最も高く、16歳でも5割を超える。《現在していない》は、17歳が約7割と最も高くなっている。(図表Ⅳ-5-2)

(2) 1回あたりの運動時間

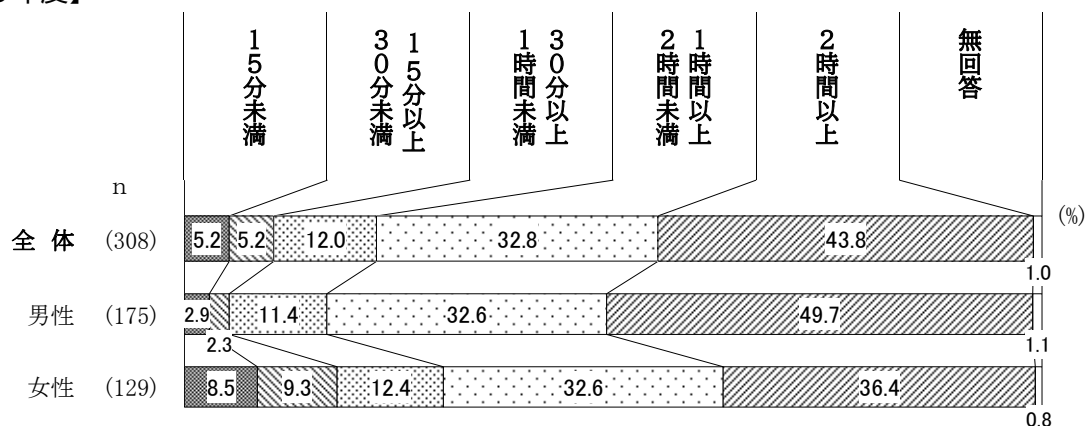
◇「2時間以上」が4割台半ばで最も高い

(問29-1で、「1 している」とお答えの方に)

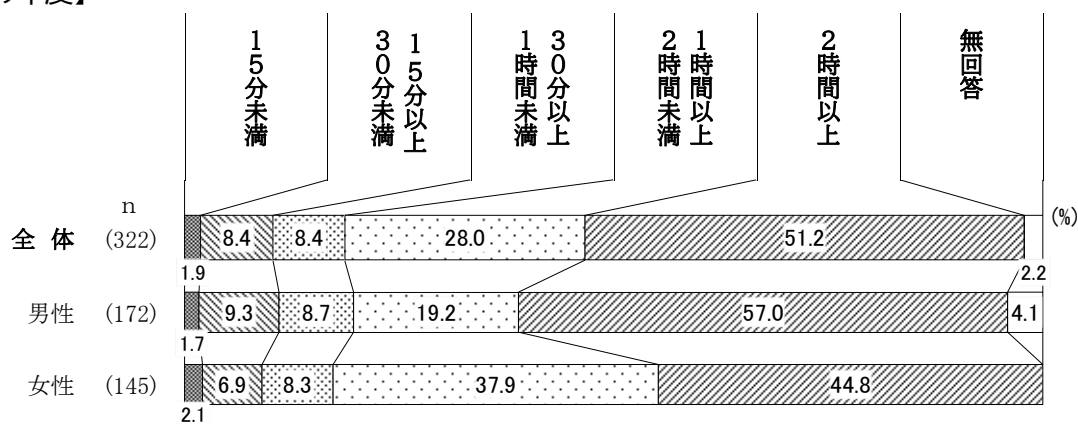
問29-2 1回あたりの運動時間はどれくらいですか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ-5-3> 1回あたりの運動時間

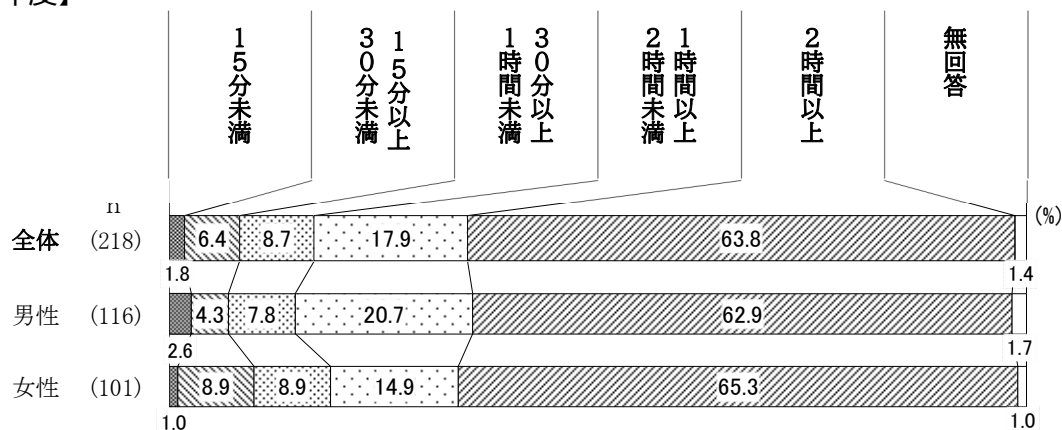
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



問29－1で、「1 している」と回答した人に1回あたりの運動時間を聞いたところ、「2時間以上」（43.8%）が4割台半ばで最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」（32.8%）が3割を超える。

性別でみると、「2時間以上」は男性が女性より13ポイント高く、約5割となっている。また、女性は男性より「15分未満」が5ポイント、「15分以上30分未満」が7ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体、男女とも「2時間以上」が明確な減少傾向にあり、全体では平成25年度から20ポイント、平成29年度から7ポイント、男性では平成25年度から13ポイント、平成29年度から7ポイント、女性では平成25年度から28ポイント、平成29年度から8ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅳ－5－3）

(3) 運動の間隔

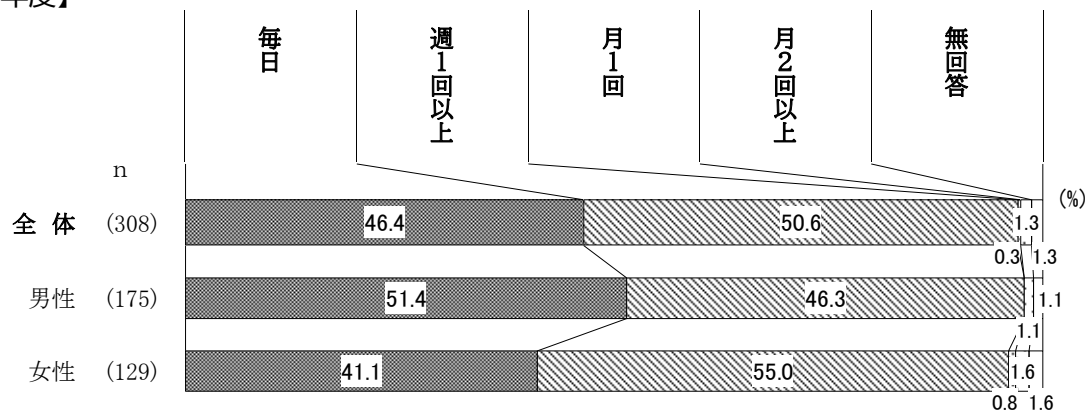
◇「週1回」が5割、「毎日」が4割台半ば

(問29-1で、「1 している」とお答えの方に)

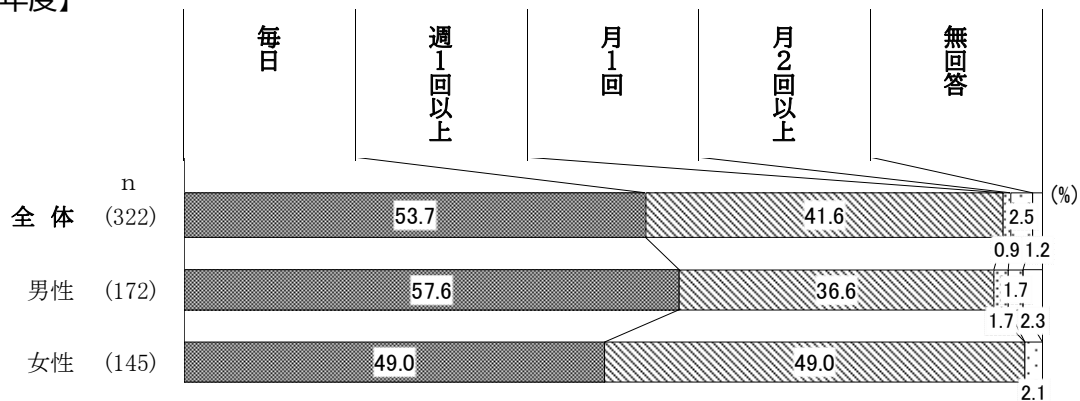
問29-3 運動はどのような間隔でしていますか (○は1つだけ)

<図表IV-5-4>運動の間隔

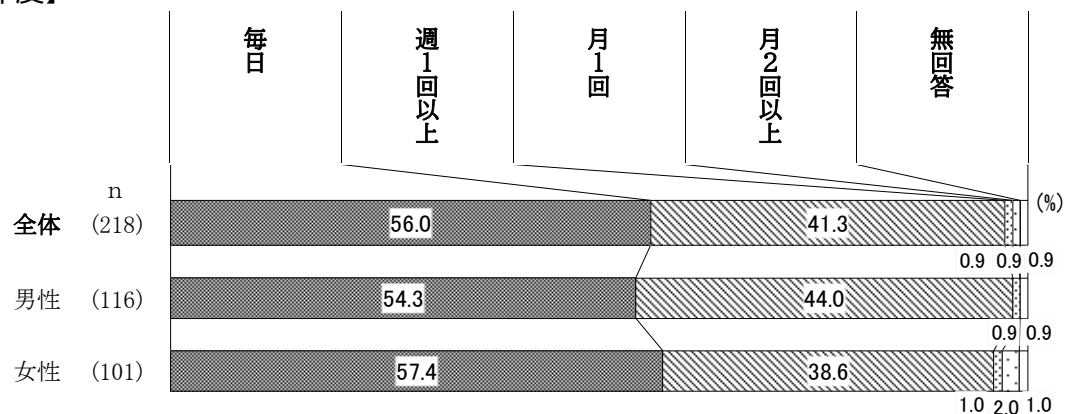
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



問29－1で、「1回以上している」と回答した人に運動の間隔を聞いたところ、「週1回以上」(50.6%)が5割、「毎日」(46.4%)が4割台半ばとなっている。

性別で見ると、「毎日」は男性が女性より10ポイント高く、5割を超えている。「週1回以上」は女性が男性より8ポイント高く、5割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成29年度から「毎日」は7ポイント減少、「週1回以上」が9ポイント増加している。性別では女性は「毎日」が減少傾向にあり、平成25年度から16ポイント、平成29年度から7ポイント減少している。なお、「毎日」は男性でも平成29年度から6ポイント減少している。また、「週に1回以上」は女性で増加傾向にあり、平成25年度から16ポイント、平成29年度から6ポイント増加している。男性は9ポイント増加し、前回、平成25年度から減少していたのを戻した形となっている。(図表Ⅳ－5－4)

(4) 運動する場所

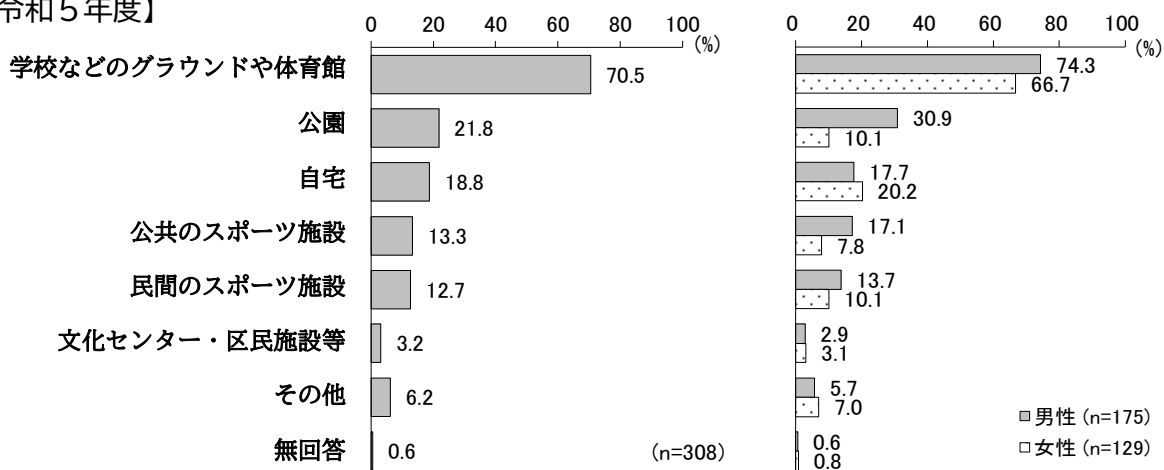
◇「学校などのグラウンドや体育館」が7割で突出

(問29-1で、「1 している」とお答えの方に)

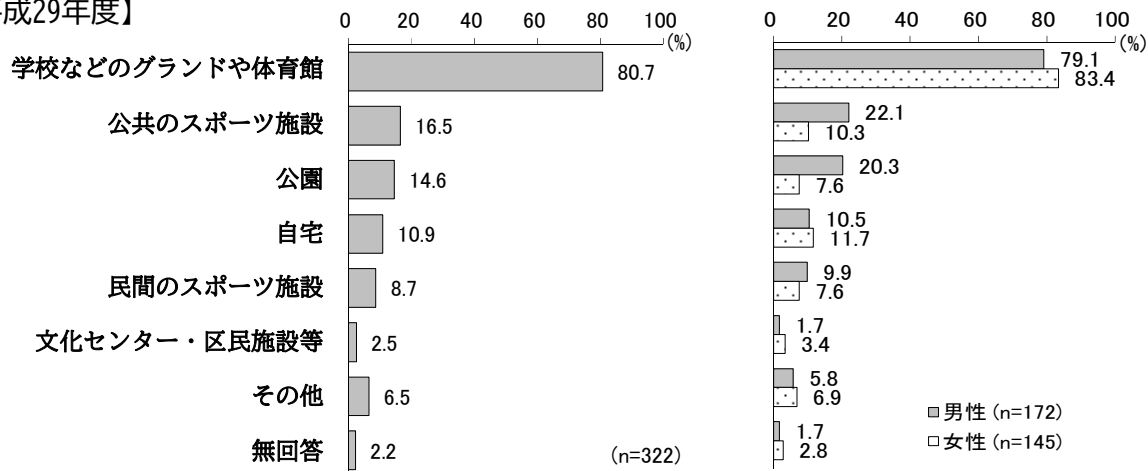
問29-4 主に運動をする場所はどこですか。(○はいくつでも)

<図表Ⅳ-5-5>運動する場所

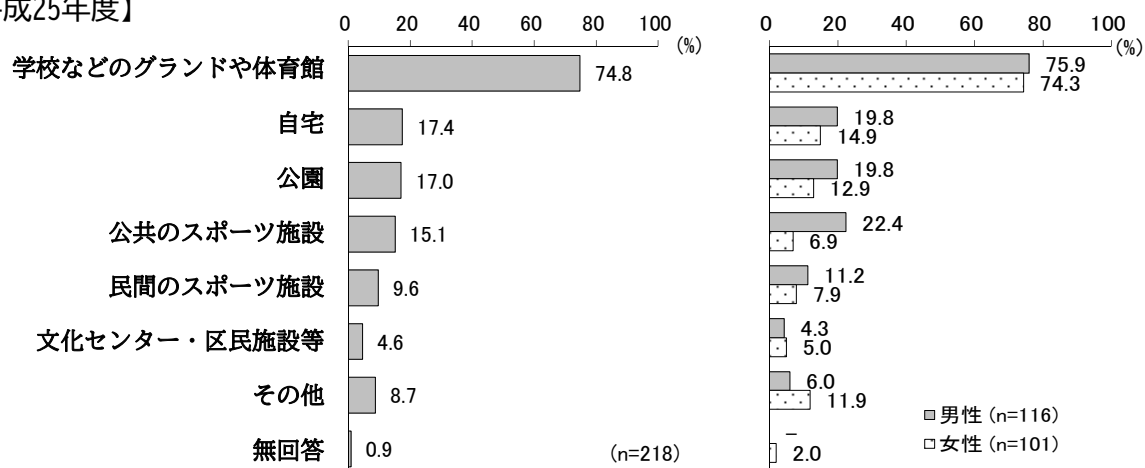
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



問29－1で、「1 している」と回答した人に運動する場所を聞いたところ、「学校などのグラウンドや体育館」(70.5%)が7割で最も高く、次いで「公園」(21.8%)が2割を超え、「自宅」(18.8%)が約2割となっている。

性別でみると、「学校などのグラウンドや体育館」は男性が女性より7ポイント高く、7割台半ばとなっている。また、「公園」と「公共のスポーツ施設」でも男性が女性より高く、それぞれ20ポイント、9ポイント差となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成29年度から「学校などのグラウンドや体育館」が10ポイント減少し、「公園」と「自宅」がともに7ポイント増加している。性別では、「学校などのグラウンドや体育館」は女性が平成29年度から16ポイント減少している。「公園」は男性が平成29年度から10ポイント増加している。「自宅」は男女とも平成29年度から増加し、男性7ポイント、女性8ポイント増となっている。また、「公共のスポーツ施設」は男性が平成29年度から5ポイント減少している。(図表Ⅳ－5－5)

(5) 運動を続ける理由

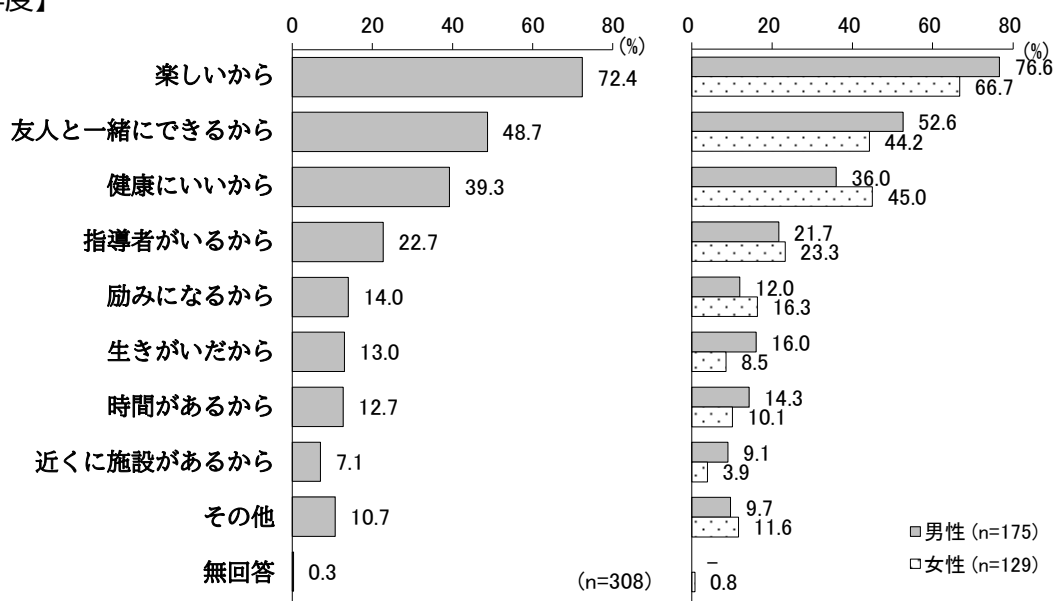
◇「楽しいから」が7割を超えて最も高く、次いで「友人と一緒にできるから」が約5割

(問29-1で、「1 している」とお答えの方に)

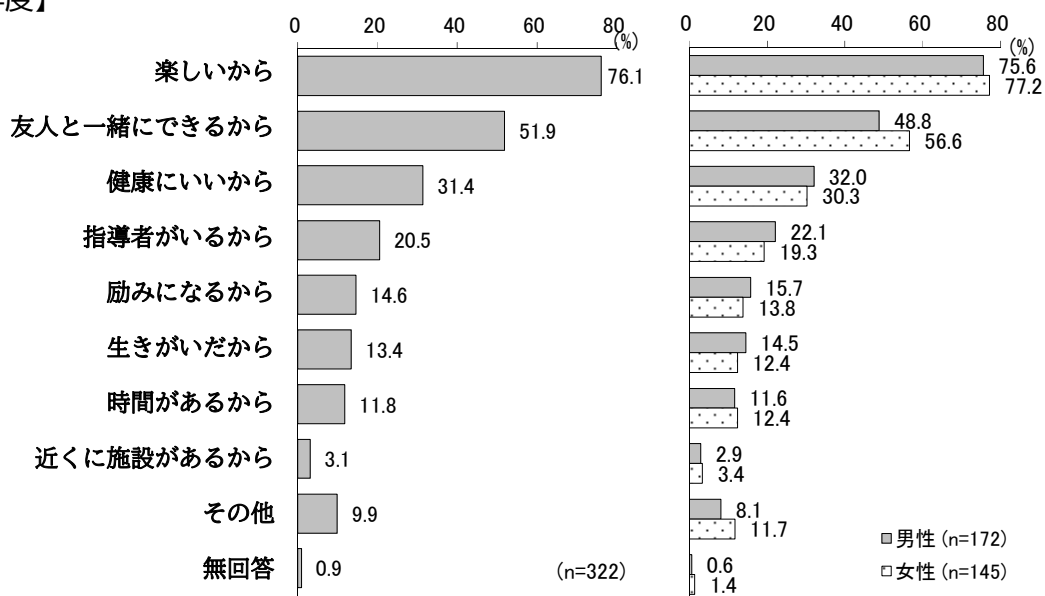
問29-5 運動を続ける理由は何ですか。(○はいくつでも)

<図表IV-5-6>運動を続ける理由

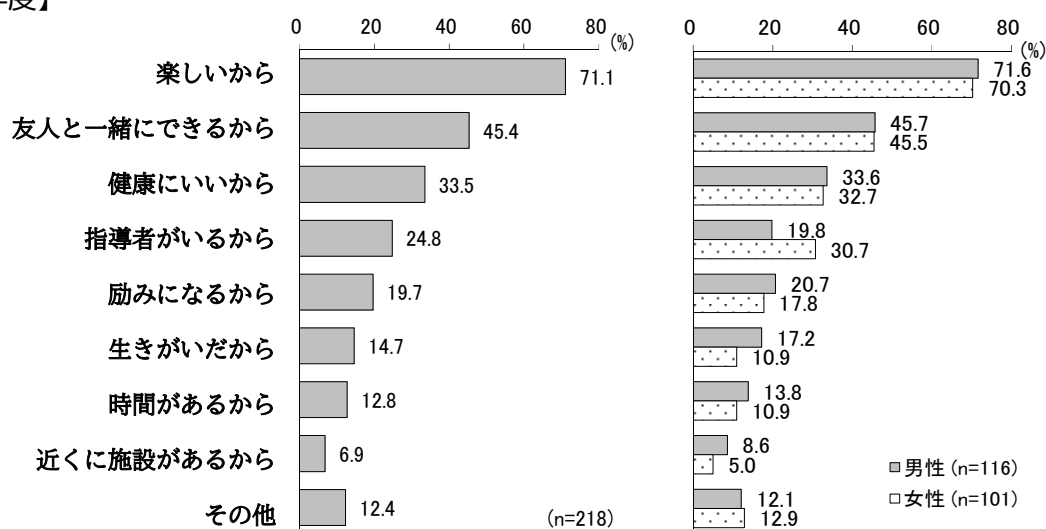
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



問29-1で、「1 している」と回答した人に運動を続ける理由を聞いたところ、「楽しいから」(72.4%)が7割を超えて最も高く、次いで「友人と一緒にできるから」(48.7%)が約5割、「健康にいいから」(39.3%)が約4割となっている。

性別でみると、男女差が目立ち、男性が女性より高い項目は「楽しいから」が9ポイント、「友人と一緒にできるから」が8ポイント、「生きがいだから」が7ポイント、「近くに施設があるから」が5ポイント、それぞれ高くなっている。また、「健康にいいから」は女性が男性より9ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「健康にいいから」が平成29年度から7ポイント増加している。性別では、女性で平成29年度から大きく変動している項目が多く、「健康にいいから」が14ポイント増加し、「楽しいから」が10ポイント、「友人と一緒にできるから」が12ポイント減少している。また、男性では「近くに施設があるから」が平成29年度から6ポイント増加している。(図表IV-5-6)

(6) 運動をしない理由ややめた理由

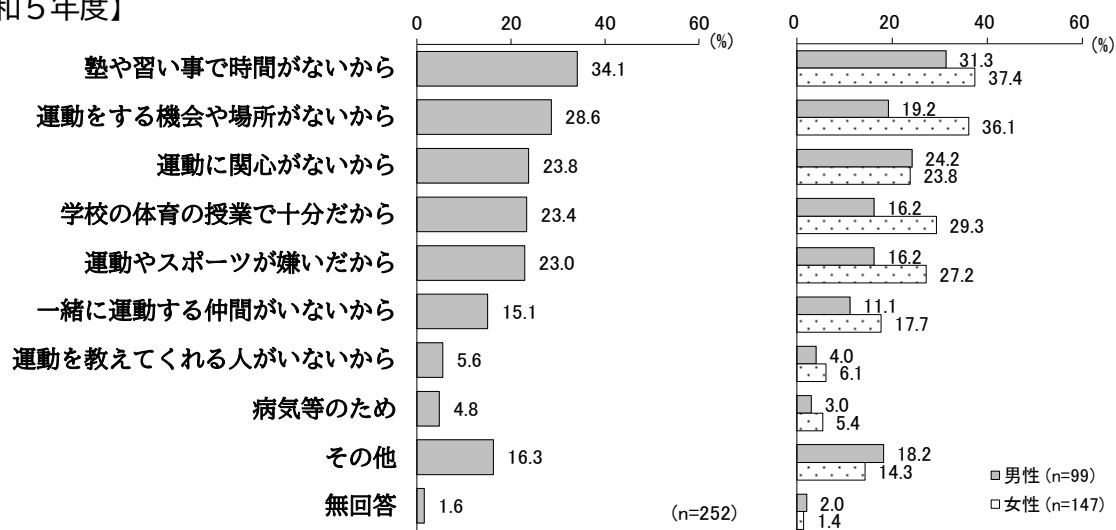
◇「塾や習い事で時間がないから」が3割台半ばで最も高い

(問29-1で、「2」か「3」とお答えの方に)

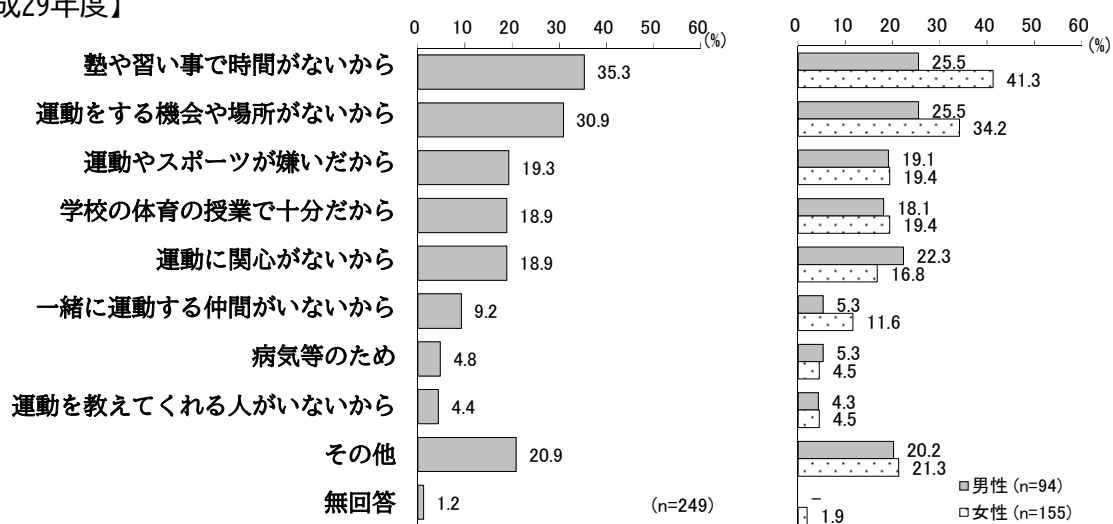
問29-6 運動をしない、またはやめた理由は何ですか。(○はいくつでも)

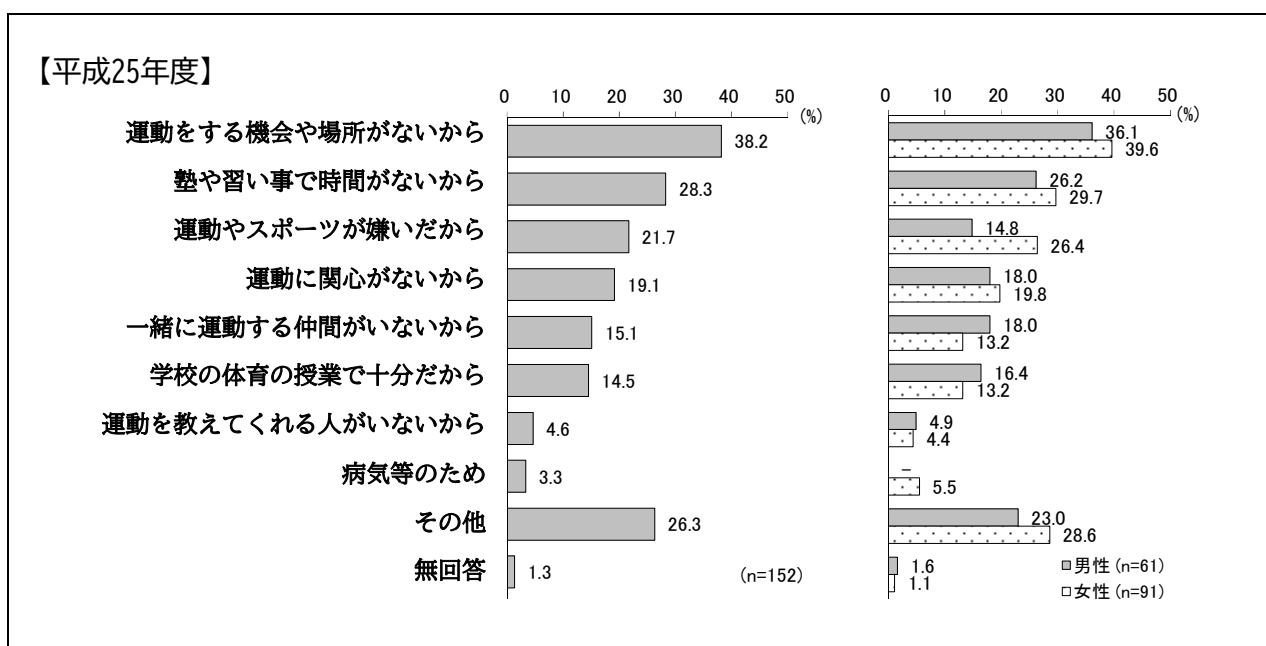
<図表Ⅳ-5-7>運動をしない理由ややめた理由

【令和5年度】



【平成29年度】





問29-1で、「2」か「3」と回答した人に運動をしない、またはやめた理由を聞いたところ、「塾や習い事で時間がないから」(34.1%)が3割台半ばで最も高く、次いで「運動をする機会や場所がないから」(28.6%)が約3割、「運動に関心がないから」(23.8%)、「学校の体育の授業で十分だから」(23.4%)、「運動やスポーツが嫌いだから」(23.0%)が2割台半ばとなっている。

性別でみると、ほとんどの項目で女性が男より高く、「運動をする機会や場所がないから」は16ポイント、「学校の体育の授業で十分だから」は13ポイント、「運動やスポーツが嫌いだから」は11ポイント、「塾や習い事で時間がないから」と「一緒に運動する仲間がいないから」は6ポイント、それぞれ高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「一緒に運動する仲間がいないから」が平成29年度から5ポイント増加している。性別では、男性は平成29年度から「塾や習い事で時間がないから」が5ポイント、「一緒に運動する仲間がいないから」が5ポイント増加し、「運動をする機会や場所がないから」が6ポイント減少している。女性では平成29年度から「学校の体育の授業で十分だから」が9ポイント、「運動に関心がないから」と「運動やスポーツが嫌いだから」がともに7ポイント、「一緒に運動する仲間がいないから」が6ポイント、それぞれ増加している。また、「学校の体育の授業で十分だから」は平成25年度からは16ポイント増と、増加傾向がみられる。(図表IV-5-7)

また、ここでは性別によって比率の高い順が比較的異なっており、男女の上位5項目を整理すると、次のようになる。ただし、「その他」と「無回答」は除いている。（図表Ⅳ－5－8）

<図表Ⅳ－5－8>性別順位表（上位5項目）

	男性	%		女性	%
第1位	塾や習い事で時間がないから	31.3	第1位	塾や習い事で時間がないから	37.4
第2位	運動に関心がないから	24.2	第2位	運動をする機会や場所がないから	36.1
第3位	運動をする機会や場所がないから	19.2	第3位	学校の体育の授業で十分だから	29.3
第4位	学校の体育の授業で十分だから	16.2	第4位	運動やスポーツが嫌いだから	27.2
//	運動やスポーツが嫌いだから	16.2	第5位	運動に関心がないから	23.8

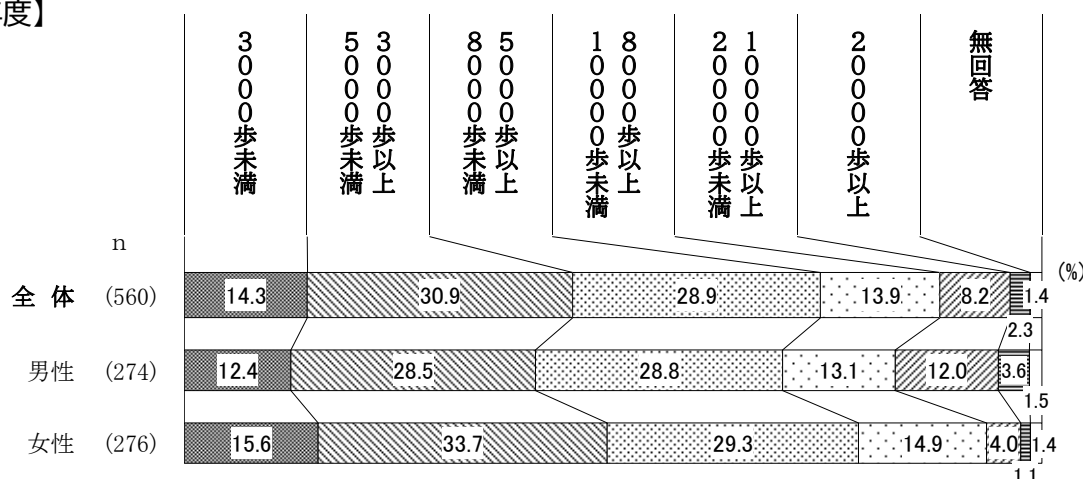
(7) 一日の平均歩行数

◇「3000歩以上5000歩未満」と「5000歩以上8000歩未満」が3割前後

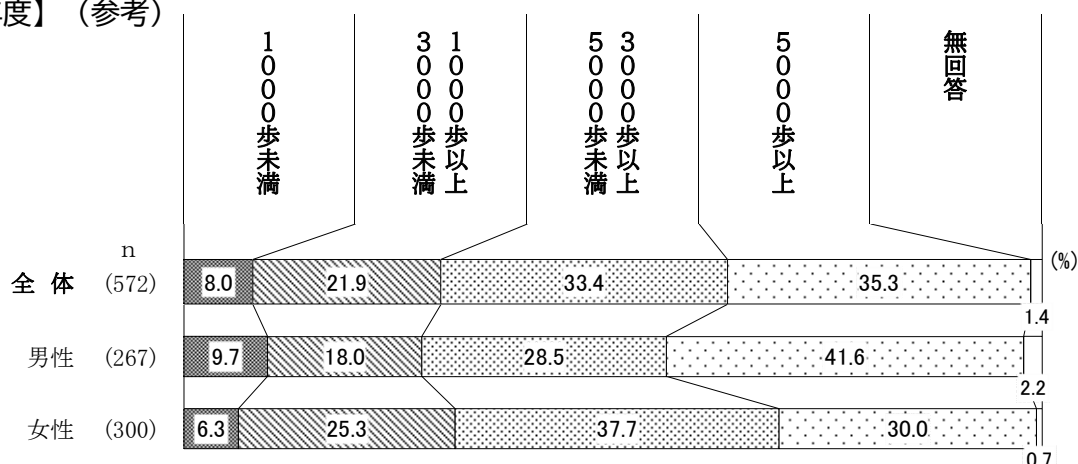
問30 あなたは、一日に平均してどれくらい歩きますか。(○は1つだけ。通学のための徒歩、室内の移動、散歩を含む)

<図表IV-5-9>一日の平均歩行数

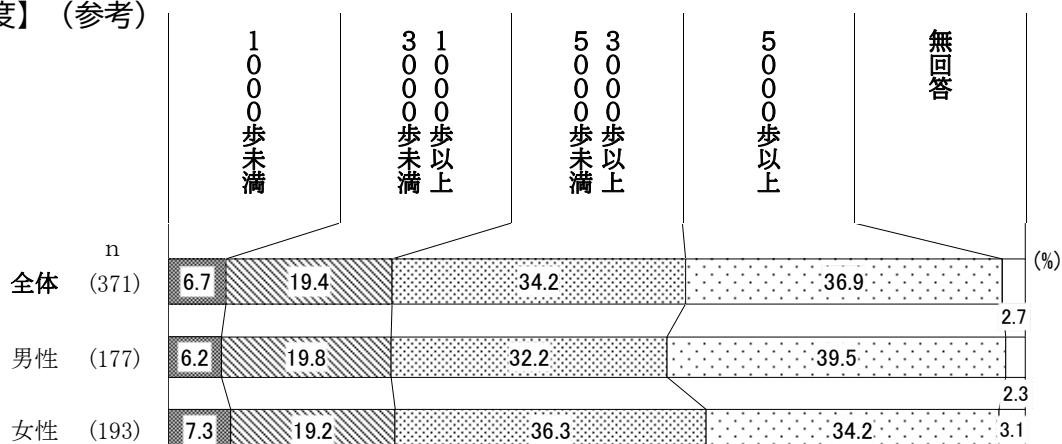
【令和5年度】



【平成29年度】(参考)



【平成25年度】(参考)



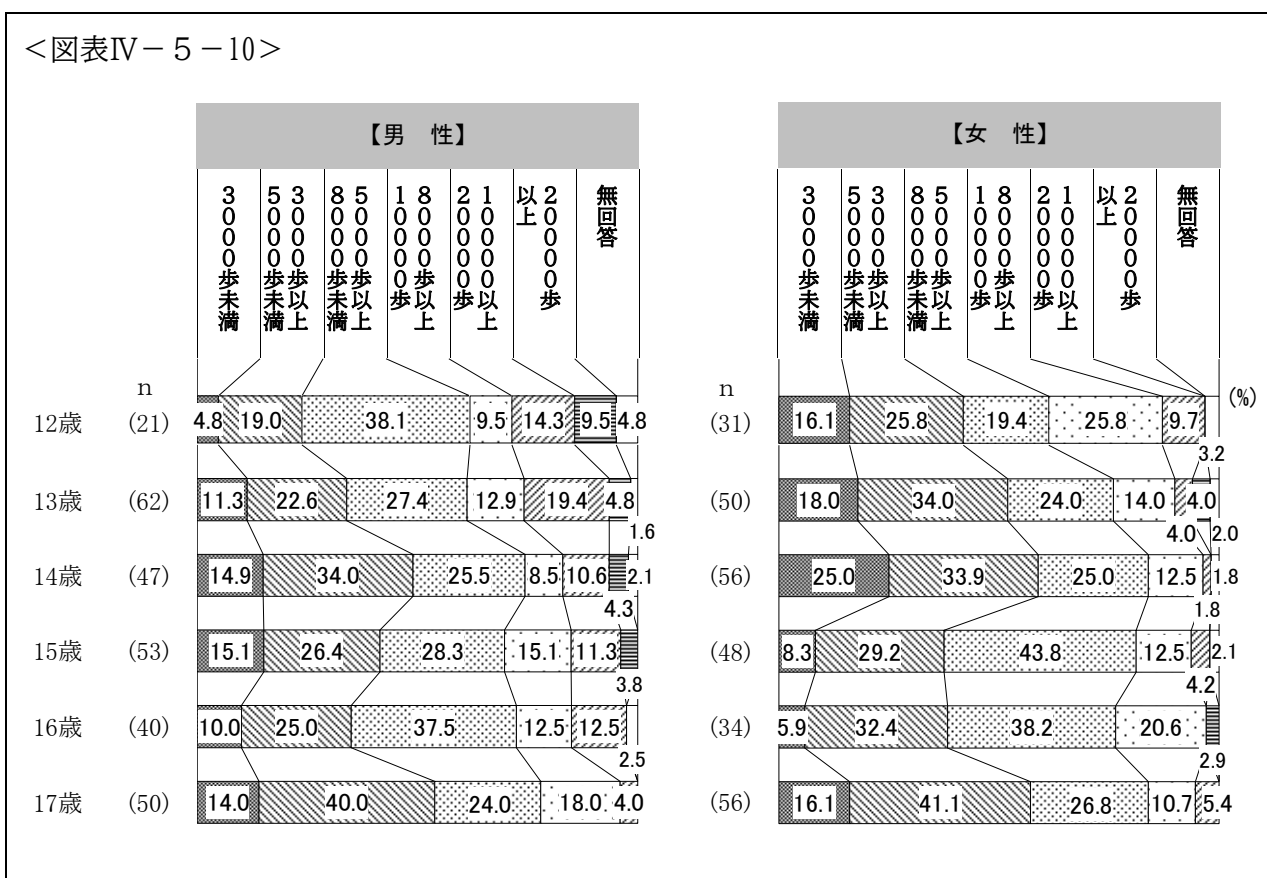
一日の平均歩行数を聞いたところ、「3000歩以上5000歩未満」（30.9%）が3割、「5000歩以上8000歩未満」（28.9%）が約3割となっている。

性別でみると、「3000歩以上5000歩未満」は女性が男性より5ポイント高く、3割台半ば、「10000歩以上20000歩未満」は男性が女性より8ポイント高く、1割を超える。

過去の調査結果との比較では、選択肢が異なるため参考に留める（図表Ⅳ－5－9）

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－5－10>



男性では「3000歩以上5000歩未満」は、17歳で4割、「5000歩以上8000歩未満」は、12歳、16歳で約4割と高くなっている。女性では「3000歩未満」は、14歳が2割台半ばと高くなっている。「3000歩以上5000歩未満」は、17歳が4割を超えて高く、「5000歩以上8000歩未満」は、15歳が4割台半ばと高く、16歳でも約4割となっている。（図表Ⅳ－5－10）

6 こころの健康・休養について

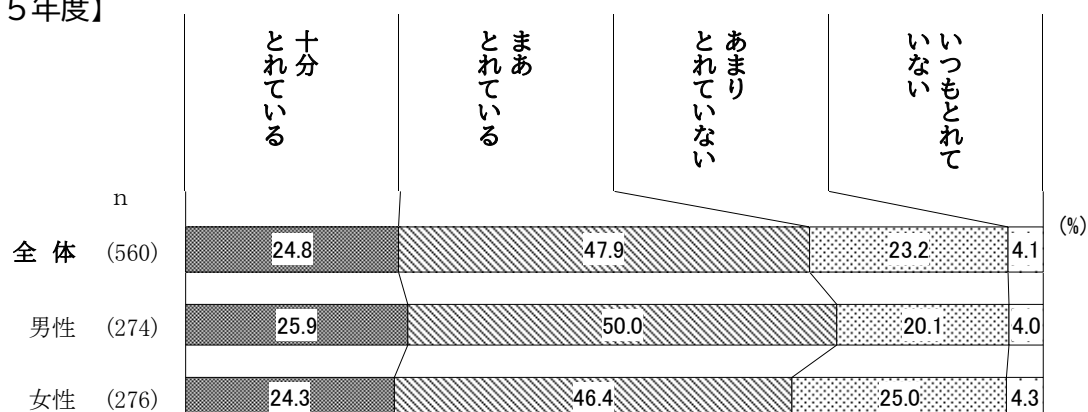
(1) こころと体の休養の充足度

◇《とれている》が7割を超える一方、《とれていない》は約3割

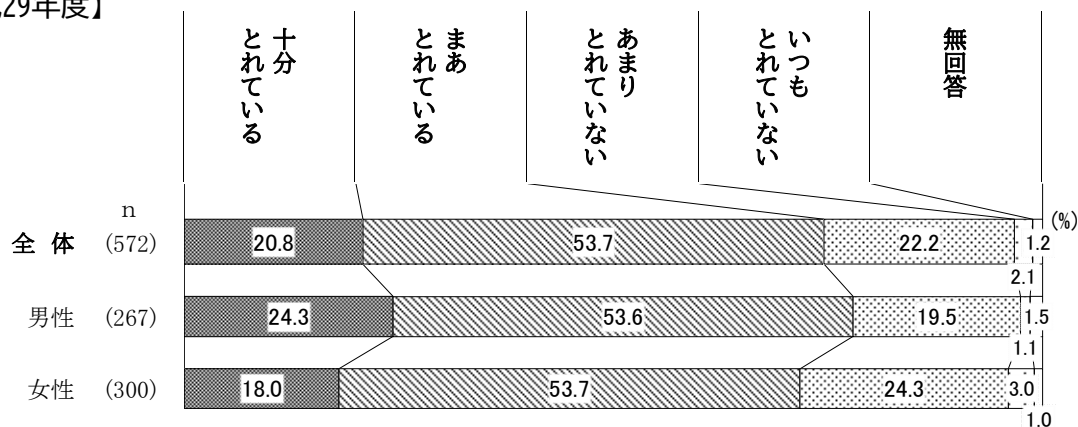
問31 あなたは、こころと体の休養が十分とれていると思いますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－6－1>こころと体の休養の充足度

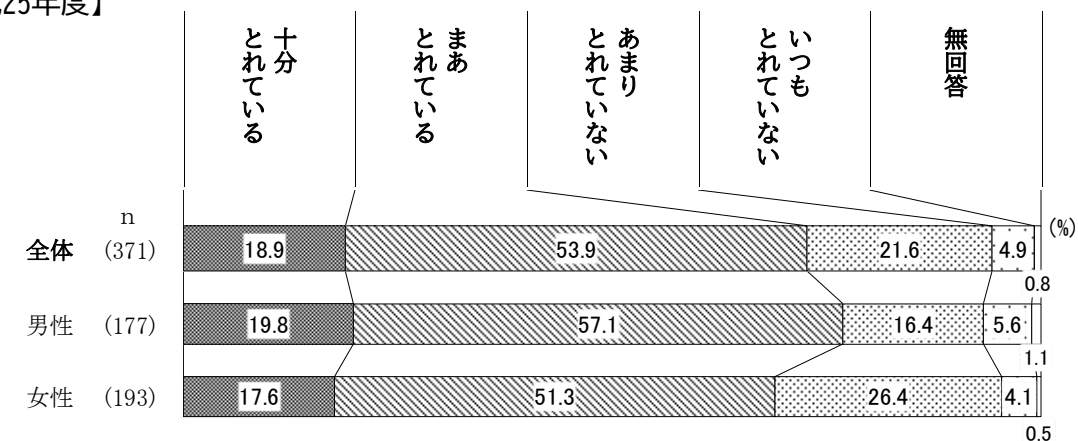
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



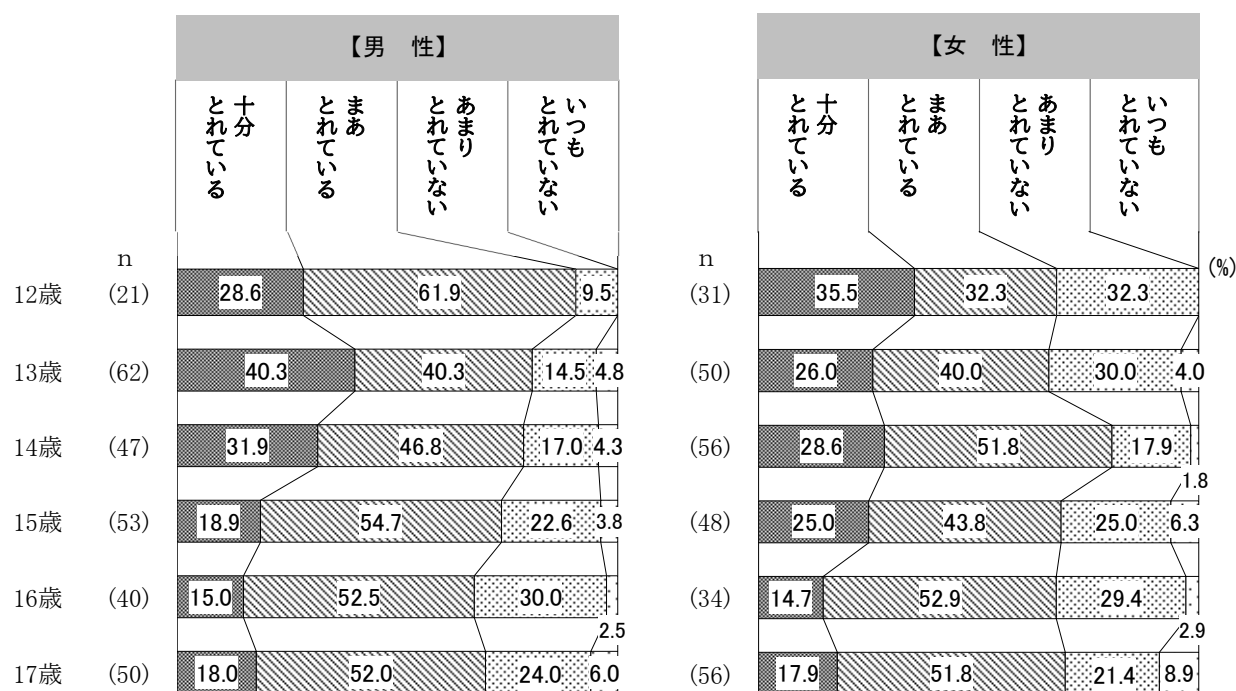
こころと体の休養の充足度としては、「十分とれている」(24.8%)と「まあとれている」(47.9%)を合わせた《とれている》(72.7%)が7割を超えている。一方、「あまりとれていない」(23.2%)と「いつもとれていない」(4.1%)を合わせた《とれていない》(27.3%)は約3割となっている。

性別でみると、《とれている》は男性が女性より5ポイント高く、7割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では大きな違いはみられない。性別では、女性が平成29年度から「十分とれている」が6ポイント増加し、「まあとれている」が7ポイント減少している。(図表Ⅳ－6－1)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－6－2>



男性では《とれている》は12歳の9割が最も高く、年齢が上がるにつれ、おおむね漸減していく。《とれていない》は、16歳、17歳が3割台となっている。女性では《とれている》が14歳で8割と最も高く、《とれていない》は14歳を除き、3割台となっている。(図表Ⅳ－6－2)

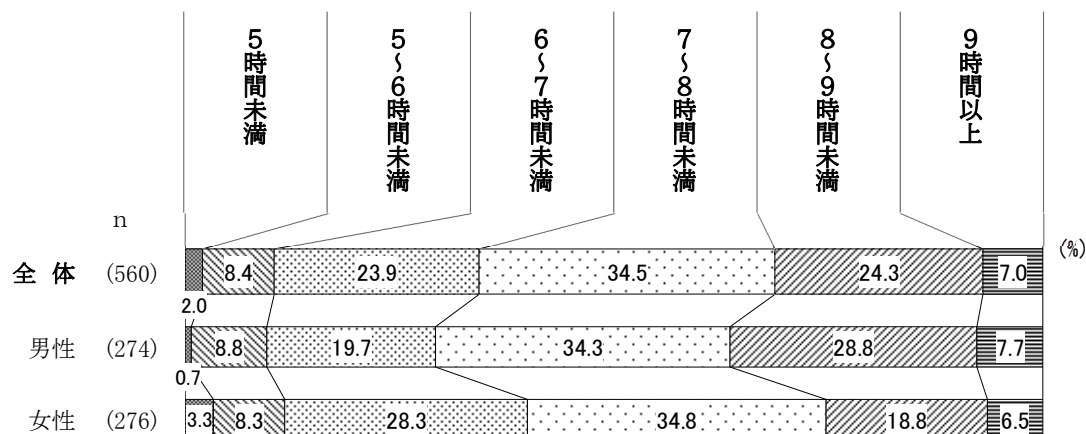
(2) 平均睡眠時間

◇平均睡眠時間は6.9時間

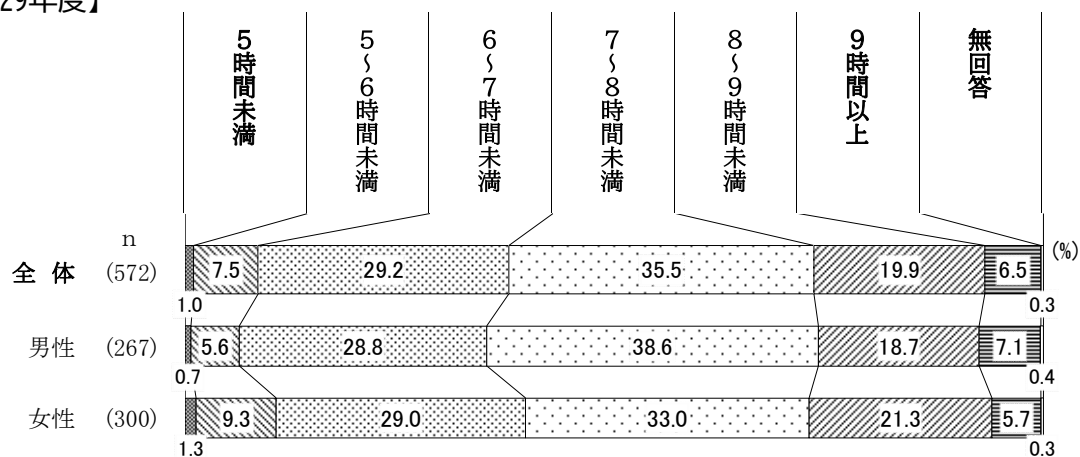
問32 あなたの平均睡眠時間は何時間ですか。整数でご記入ください。

<図表Ⅳ－6－3>平均睡眠時間

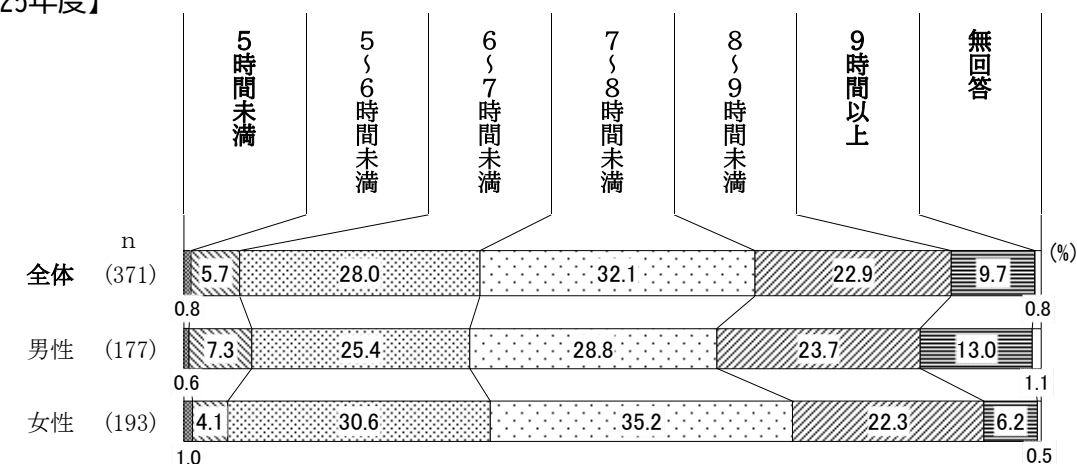
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



平均睡眠時間は6.9時間で、構成比は「7～8時間未満」（34.5%）が3割台半ばで最も高く、次いで「8～9時間未満」（24.3%）、「6～7時間未満」（23.9%）が2割台半ばとなっている。

性別でみると、男性の平均睡眠時間は7.1時間で、女性は6.8時間である。構成比でみると、「6～7時間未満」は女性が男性より8ポイント高く、約3割、「8～9時間未満」は男性が女性より10ポイント高く、約3割となっている。

平成29年度と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、男性は「8～9時間未満」が10ポイント増加している。（図表Ⅳ－6－3）

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－6－4>

〔平均睡眠時間〕

		(時間)					
	全体	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
全体	<u>6.9</u>	<u>7.6</u>	<u>7.6</u>	<u>7.0</u>	<u>6.8</u>	<u>6.4</u>	<u>6.4</u>
男性	<u>7.1</u>	7.9	7.7	7.2	6.9	6.6	6.3
女性	<u>6.8</u>	7.5	7.5	6.9	6.6	6.1	6.3

※「全体」には、太字で下線を施している。

男性は、年齢が上がるほど平均睡眠時間が短くなり、17歳で6.3時間となっている。最も平均睡眠時間の長い12歳と短い17歳の差は1.6時間である。一方、女性もおおむね年齢が上がるほど平均睡眠時間が短くなり、12歳、13歳で7.5時間と最も長く、16歳が6.1時間で最も短くなっている。従って、最も平均時間の長い12歳と短い16歳の差は1.4時間である。（図表Ⅳ－6－4）

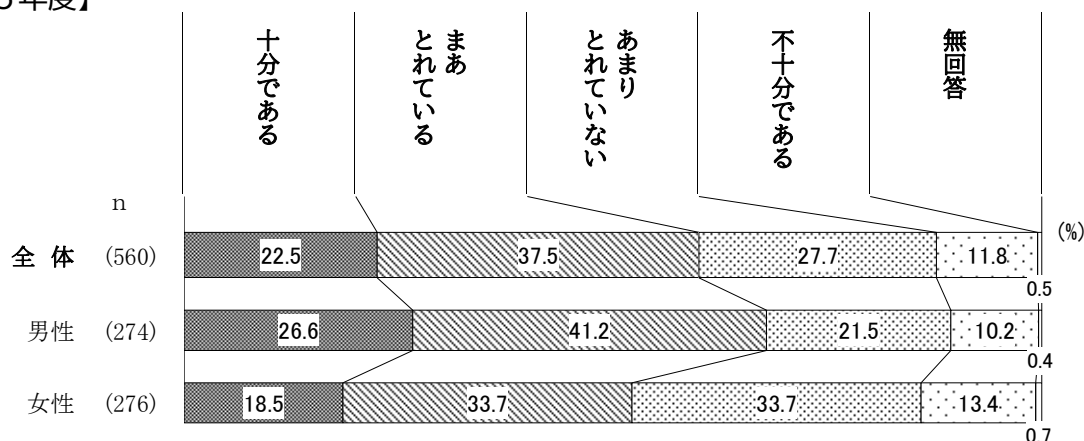
(3) 睡眠時間の充足度

◇《とれている》は6割、一方、《とれていない》は約4割

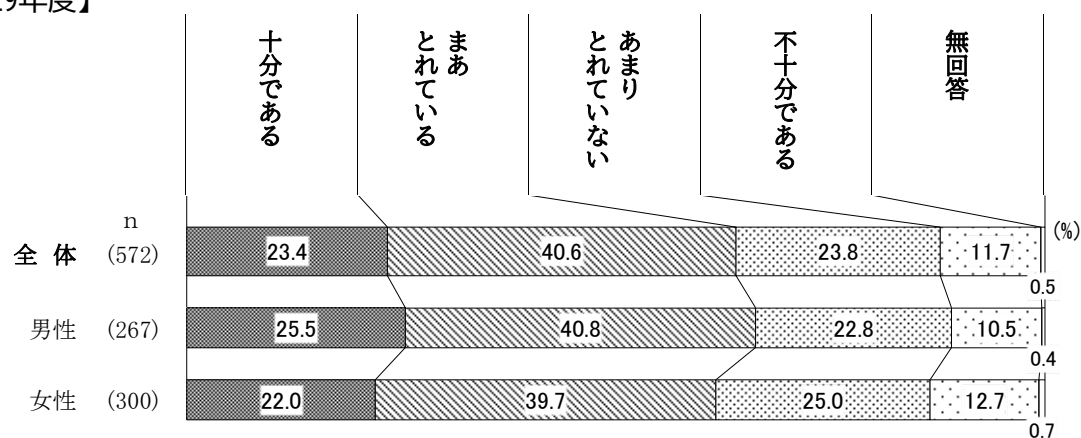
この睡眠時間は、あなたにとって十分な時間ですか。（○は1つだけ）

<図表Ⅳ－6－5>睡眠時間の充足度

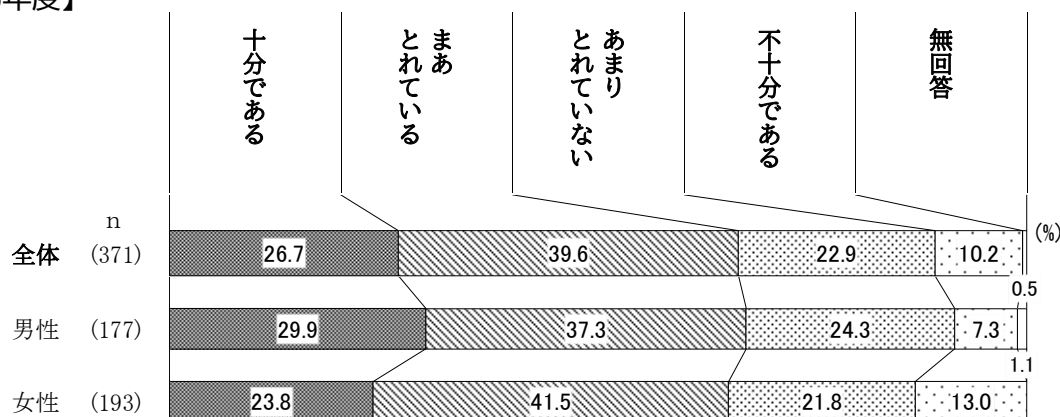
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

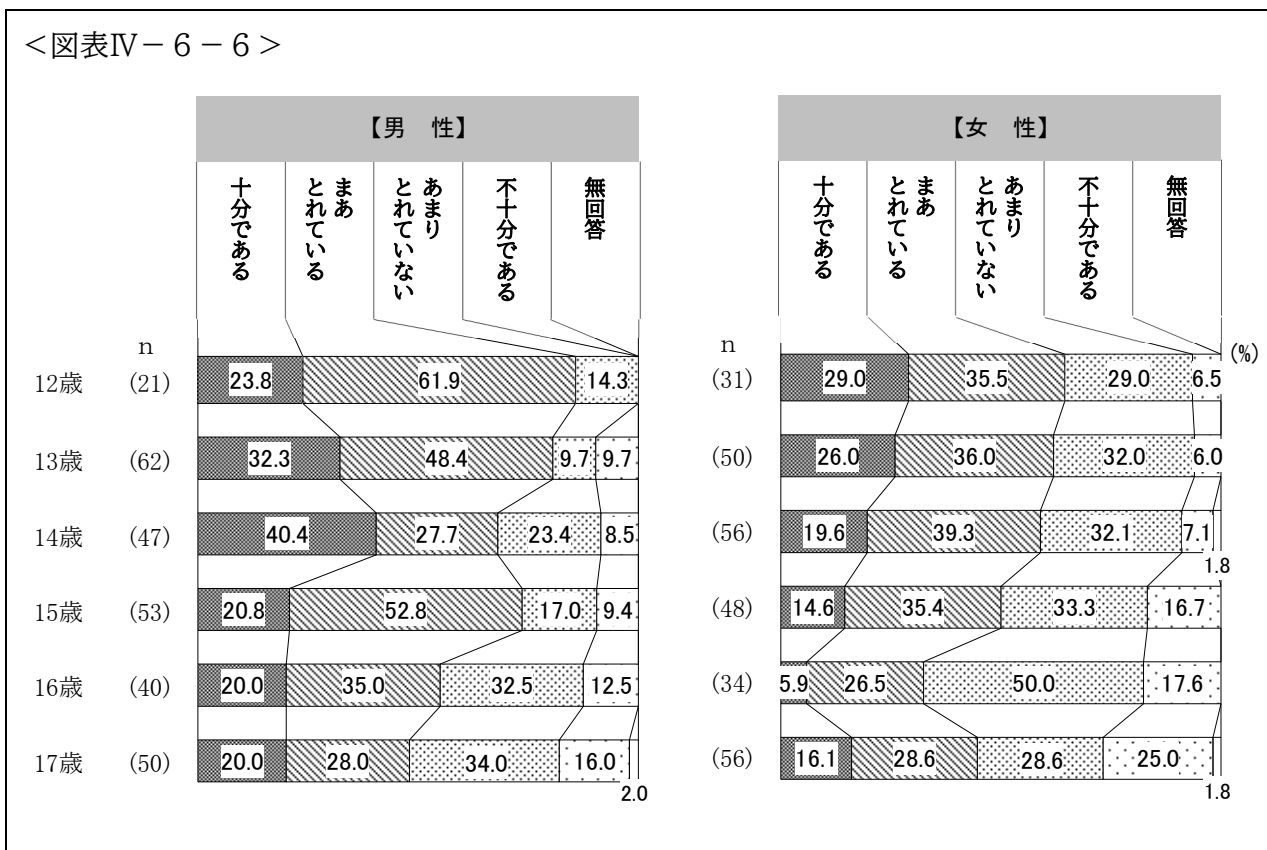


睡眠時間の充足度としては、「十分である」（22.5％）と「まあとれている」（37.5％）を合わせた《とれている》（60.0％）が6割となっている。一方、「あまりとれていない」（27.7％）と「不十分である」（11.8％）を合わせた《とれていない》（39.5％）は約4割となっている。

性別では、《とれている》は男性が女性より15ポイント高く、約7割、《とれていない》は女性が男性より15ポイント高く、約5割となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成25年度から《とれている》が6ポイント減少の漸減傾向、結果《とれていない》が6ポイント増加の漸増傾向にある。性別では、女性がより明確にその傾向にあり、《とれている》が平成25年度から13ポイント、平成29年度から9ポイント減少し、《とれていない》は平成25年度から12ポイント、平成29年度から9ポイント増加している。（図表Ⅳ－6－5）

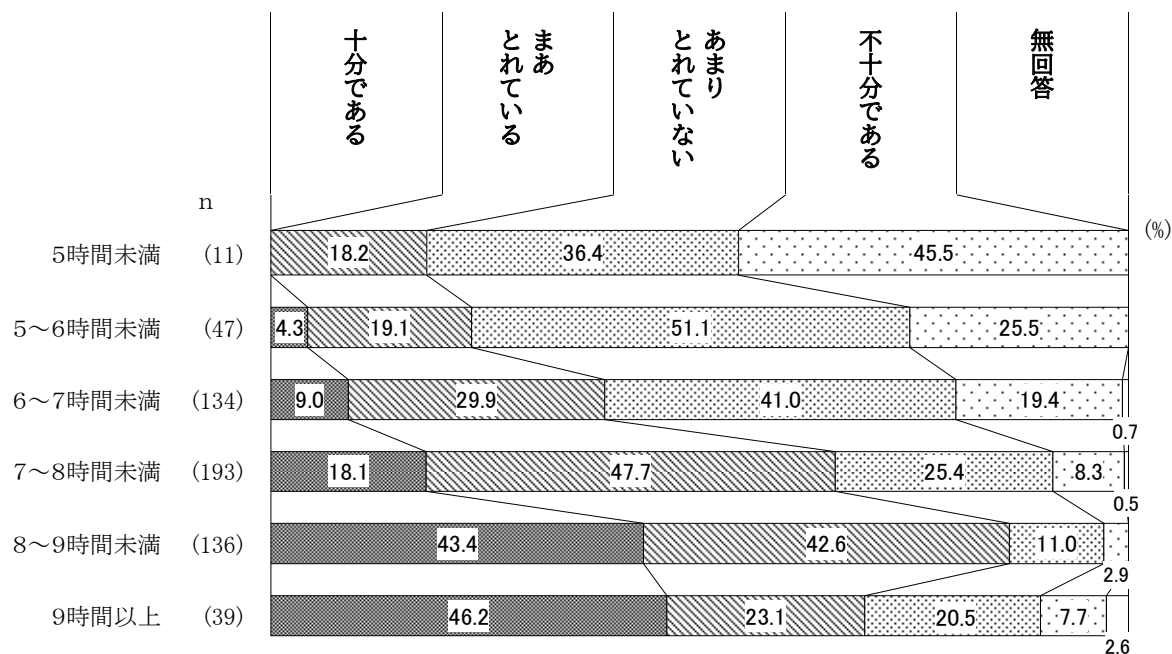
【性／年齢別】



男性では《とれている》は、12歳が8割台半ばと最も高く、13歳でも8割となっている。《とれていない》は、17歳が5割と高く、16歳が4割台半ばとなっている。女性では《とれている》は、12歳が6割台半ばと最も高く、13歳でも6割を超えている。《とれていない》は、16歳が約7割と最も高くなっている。（図表Ⅳ－6－6）

【睡眠時間別】

<図表Ⅳ－6－7>



※5時間未満は30人に満たないため、参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

前述の『(2) 平均睡眠時間』(P.345)の回答別で睡眠時間の充足度をみたところ、8～9時間未満までは睡眠時間が長い人ほど《とれている》が高く、逆に、睡眠時間が短い人ほど《とれていない》が高い。また、9時間以上では《とれている》は約7割となっており、8～9時間未満の8割台半ばよりも低くなっている。(図表Ⅳ－6－7)

(4) 悩みやストレスの有無

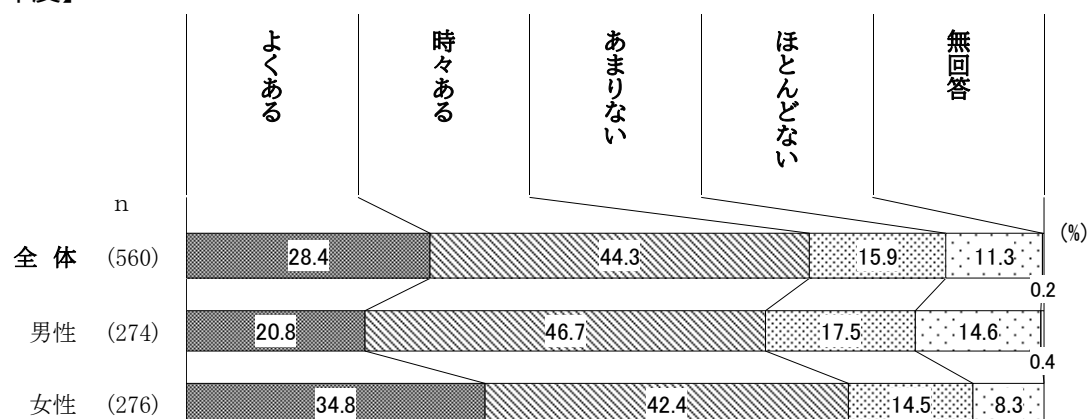
◇《ある》が7割を超える

問33-1 あなたは毎日の中で悩みがあったりストレスを感じることがありますか。

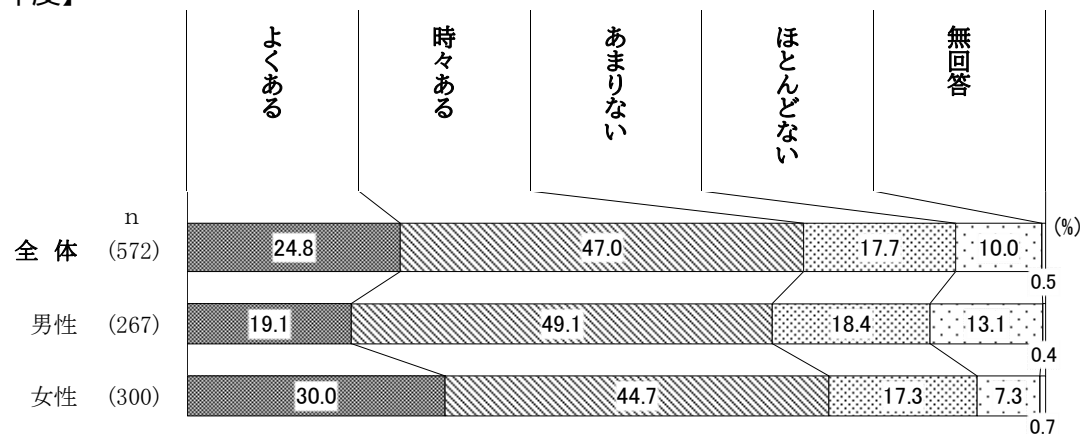
(○は1つだけ)

<図表Ⅳ-6-8> 悩みやストレスの有無

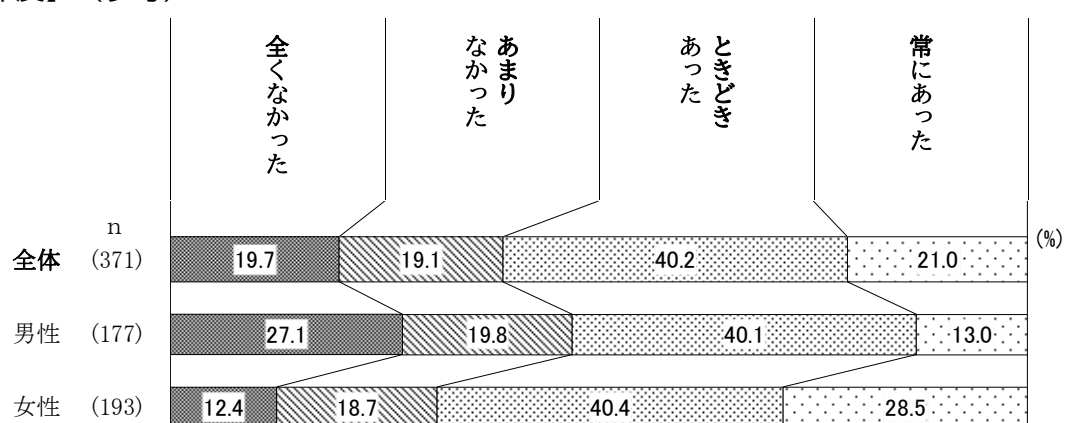
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】 (参考)



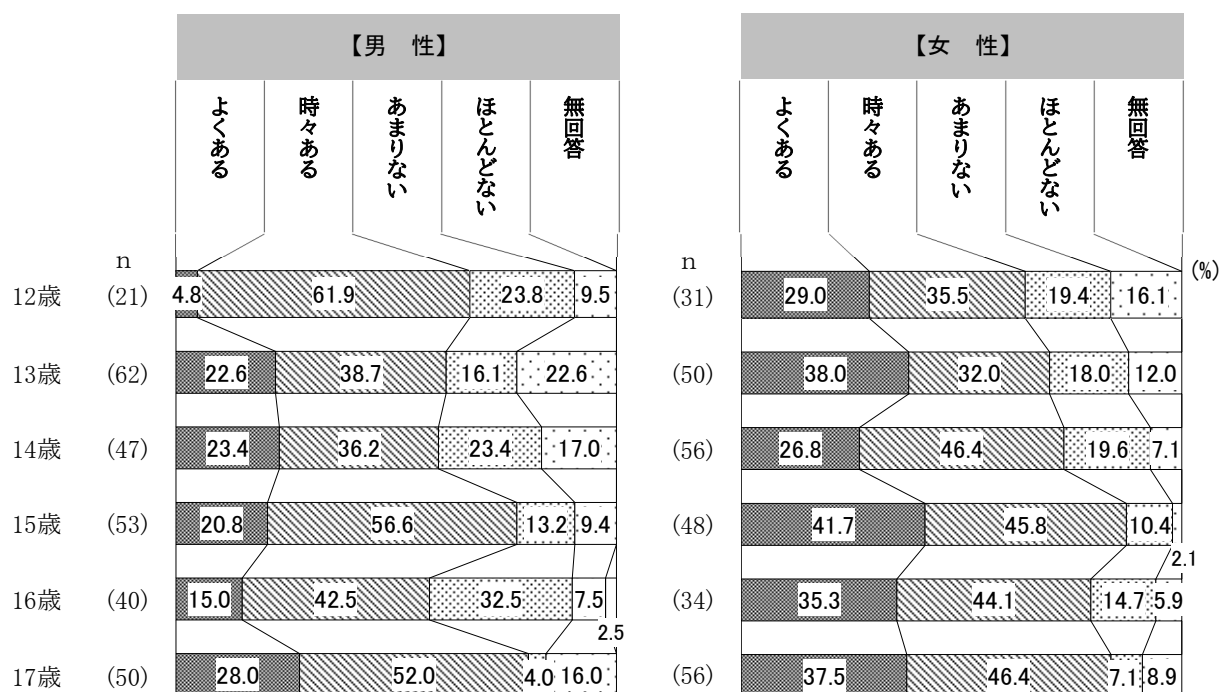
悩みやストレスの有無について聞いたところ、「よくある」(28.4%)と「時々ある」(44.3%)を合わせた《ある》(72.7%)は7割を超えている。一方、「あまりない」(15.9%)と「ほとんどない」(11.3%)を合わせた《ない》(27.2%)は約3割となっている。

性別でみると、《ある》は女性が男性より9ポイント高く、約8割、一方、《ない》は男性が女性より9ポイント高く、3割を超えている。

過去の調査結果との比較では、全体、性別とも大きな違いはみられない。なお、平成25年度調査では選択肢が異なるため参考までに留める。(図表Ⅳ－6－8)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－6－9>



男性では《ある》は、17歳が8割、15歳が約8割と高く、《ない》は、13歳、14歳、16歳が4割前後となっている。女性では《ある》は、15歳が約9割を占め、17歳でも8割台半ばとなっている。《ない》は、12歳が3割台半ばとなっている。(図表Ⅳ－6－9)

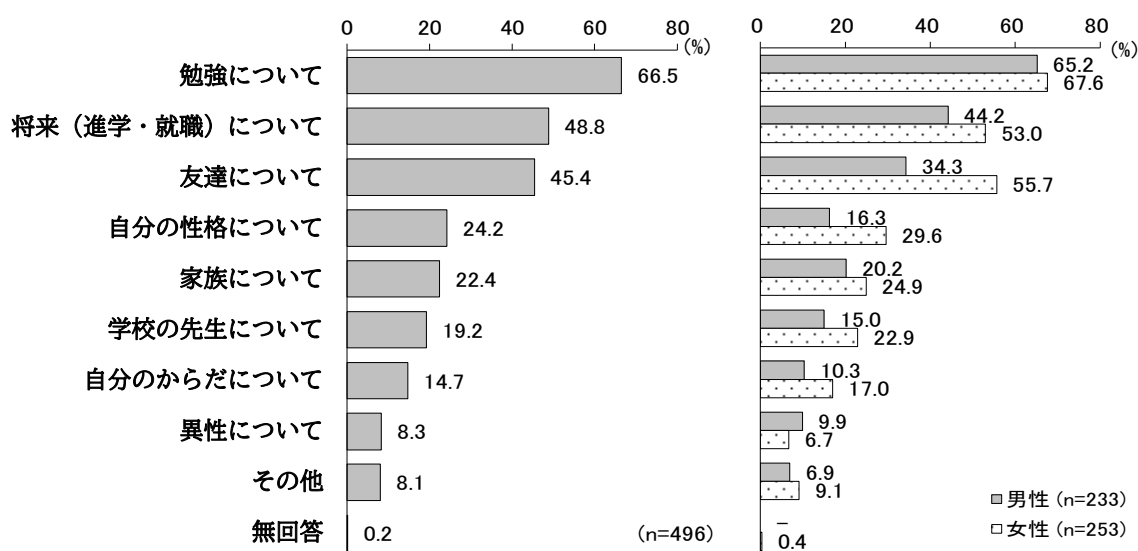
(5) 悩みやストレスの原因

◇「勉強について」が6割台半ばで最も高い

(問33-1で「1」～「3」とお答えの方)

問33-2 それは、どんなことが原因ですか。(○はいくつでも)

<図表Ⅳ-6-10>悩みやストレスの原因



問33-1で「1」～「3」と回答した人に悩みや不安、ストレスの原因を聞いたところ、「勉強について」(66.5%)が6割台半ばで最も高く、次いで「将来(進学・就職)について」(48.8%)が約5割、「友達について」(45.4%)が4割台半ばとなっている。

性別でみると、ほとんどの項目で女性が男性より高く、「友達について」が21ポイント、「自分の性格について」が13ポイント、「将来(進学・就職)について」が8ポイント、「学校の先生について」が7ポイント、「自分のからだについて」が6ポイント、それぞれ差ができています。(図表Ⅳ-6-10)

また、男女の上位5項目を整理すると、次のようになる。(図表Ⅳ-6-11)

<Ⅳ-6-11>性別順位表(上位5項目)

	男性	%	女性	%
第1位	勉強について	65.2	勉強について	67.6
第2位	将来(進学・就職)について	44.2	友達について	55.7
第3位	友達について	34.3	将来(進学・就職)について	53.0
第4位	家族について	20.2	自分の性格について	29.6
第5位	自分の性格について	16.3	家族について	24.9

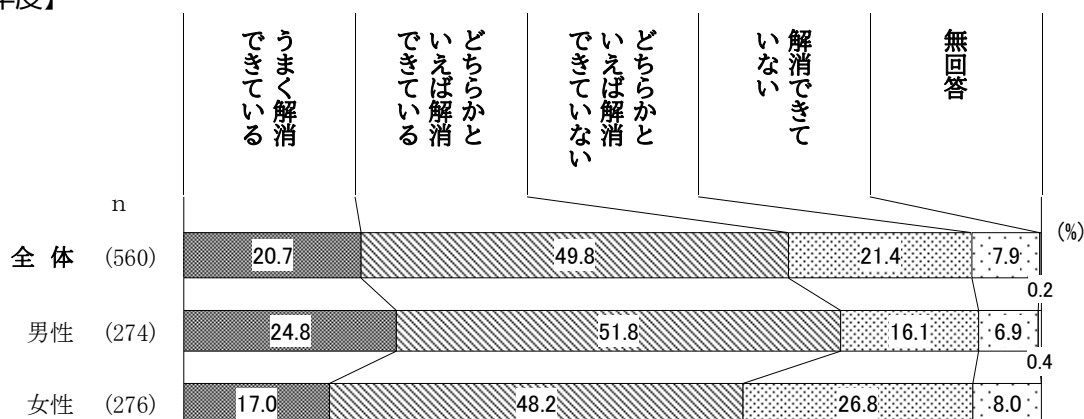
(6) ストレス解消の有無

◇《解消できている》が7割

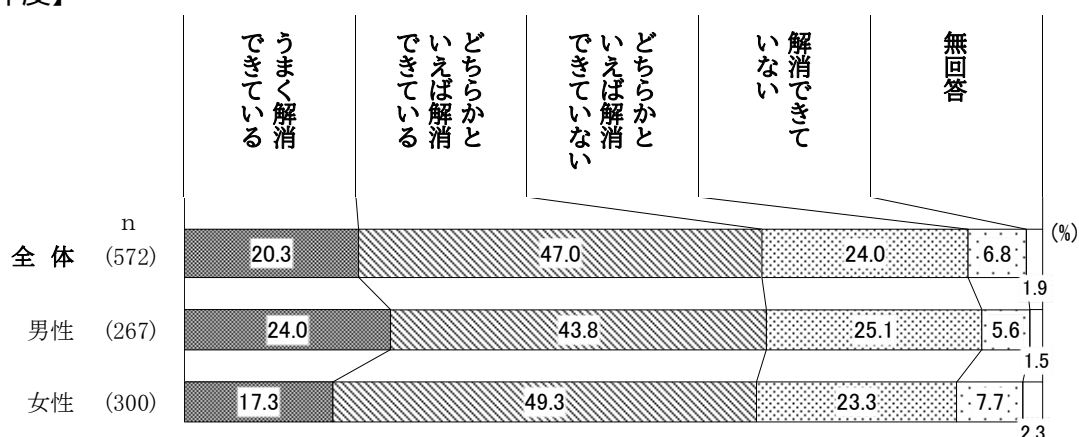
問34 あなたはストレスの解消ができていますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－6－12> ストレス解消の有無

【令和5年度】



【平成29年度】



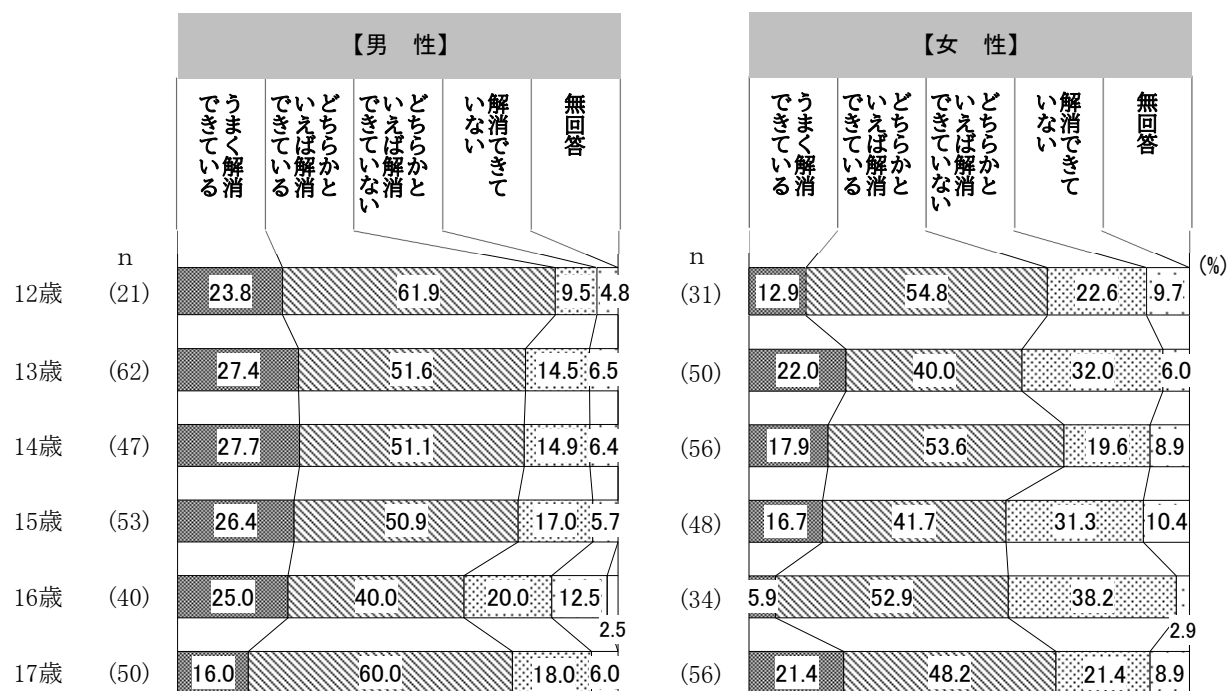
ストレス解消の有無について聞いたところ、「うまく解消できている」(20.7%)と「どちらかといえば解消できている」(49.8%)を合わせた《解消できている》(70.5%)は7割となっている。一方、「どちらかといえば解消できていない」(21.4%)と「解消できていない」(7.9%)を合わせた《解消できていない》(29.3%)は約3割となっている。

性別でみると、男性が女性より「うまく解消できている」は7ポイント、《解消できている》でも11ポイント高く、7割台半ばとなっている。また、女性が男性より「どちらかといえば解消できていない」は10ポイント、《解消できていない》でも11ポイント高く、3割台半ばとなっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では大きな違いはみられない。性別では、男性は「どちらかといえば解消できている」は8ポイント、《解消できている》でも8ポイント増加している。(図表Ⅳ－6－12)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－6－13>



男性では《解消できている》は、12歳が8割台半ばと高く、他の年齢層は16歳を除き、7割台半ばから約8割となっている。《解消できていない》は、16歳が3割を超えている。女性では《解消できている》は、14歳が7割を超え、12歳、17歳でも約7割となっている。《解消できていない》は、15歳、16歳が4割を超えて高くなっている。（図表Ⅳ－6－13）

(7) ストレスを感じたときの解消方法

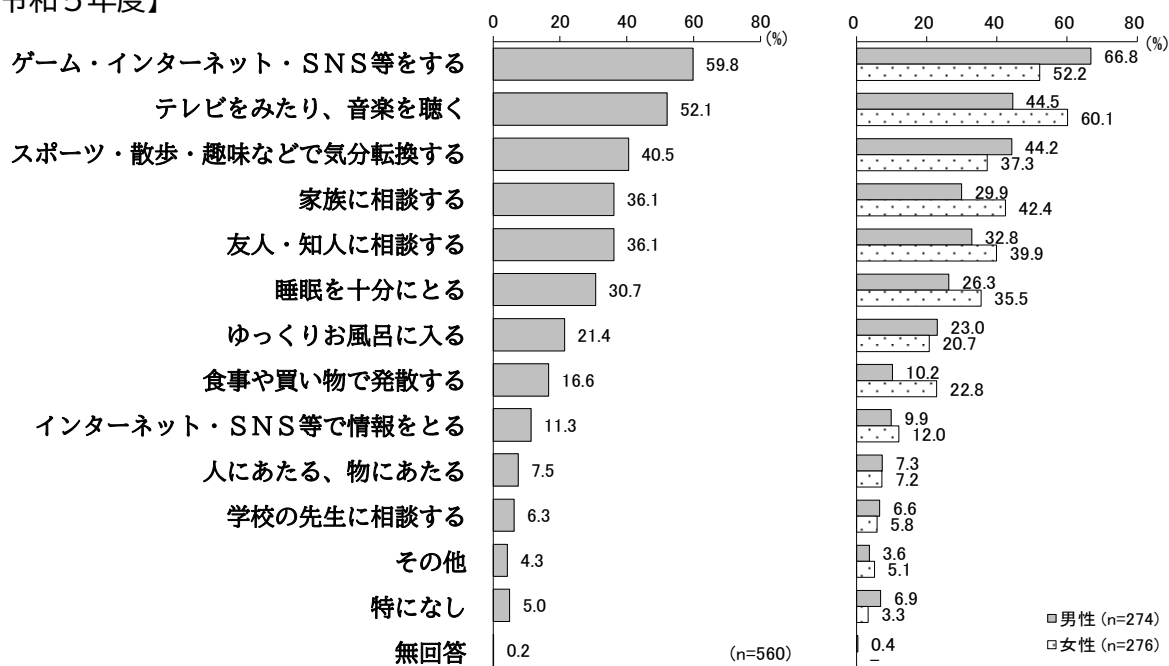
◇「ゲーム・インターネット・SNS等をする」が約6割で最も高い

問35 悩みや不安、ストレスを感じたとき、どのようにして対処していますか。

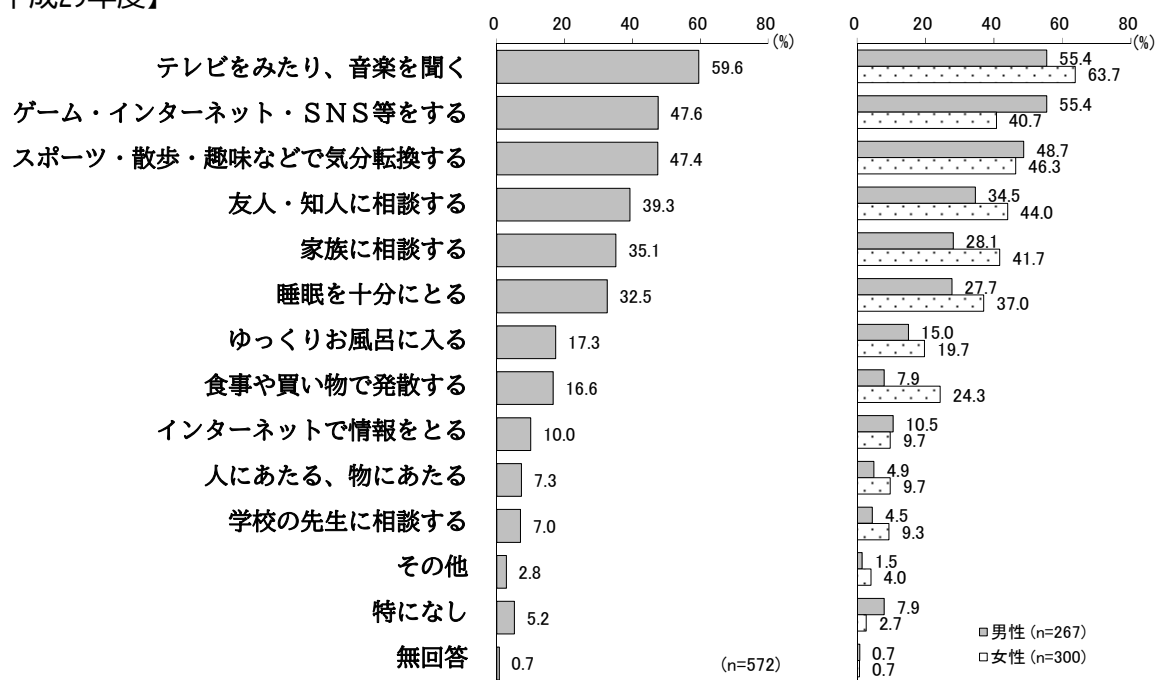
(○はいくつでも)

<図表Ⅳ－6－14> ストレスを感じたときの解消方法

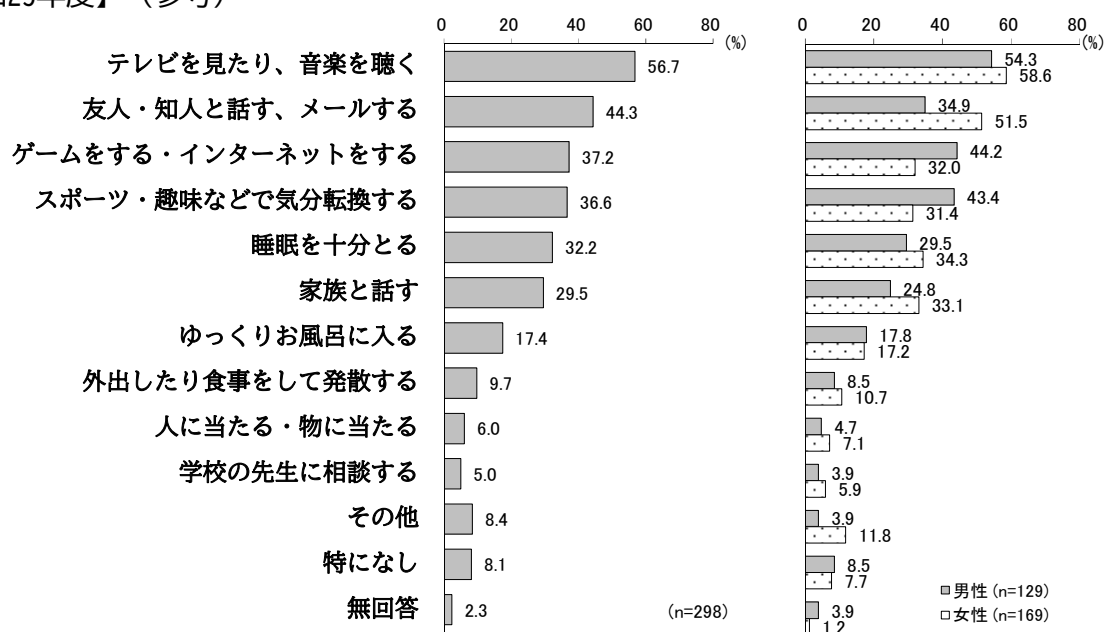
【令和5年度】



【平成29年度】



【令和25年度】（参考）



悩みや不安、ストレスを感じたときの解消方法を聞いたところ、「ゲーム・インターネット・SNS等をする」（59.8%）が約6割で最も高く、次いで「テレビをみたり、音楽を聴く」（52.1%）が5割を超え、「スポーツ・散歩・趣味などで気分転換する」（40.5%）が4割となっている。

性別でみると、女性が男性より高い主な項目は、「テレビをみたり、音楽を聴く」が15ポイント差で6割、「家族に相談する」が12ポイント差で約4割、「食事や買い物で発散する」が12ポイント差で2割台半ばなどとなっている。また、男性が女性より高い項目は、「ゲーム・インターネット・SNS等をする」が14ポイント差で6割台半ば、「スポーツ・散歩・趣味などで気分転換する」が6ポイント差で4割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成29年度から「ゲーム・インターネット・SNS等をする」は12ポイント増加し、「テレビをみたり、音楽を聴く」が7ポイント、「スポーツ・散歩・趣味などで気分転換する」が6ポイント減少している。性別では、男性は平成29年度から「ゲーム・インターネット・SNS等をする」は11ポイント、「ゆっくりとお風呂に入る」が8ポイント増加し、「テレビをみたり、音楽を聴く」が10ポイント減少している。女性は平成29年度から「ゲーム・インターネット・SNS等をする」は11ポイント増加し、「スポーツ・散歩・趣味などで気分転換する」が平成29年度から9ポイント減少している。（図表Ⅳ－6－14）

また、ここでは性別によって比率の高い順が比較的異なっており、男女の上位5項目を整理すると、次のようになる。（図表Ⅳ－6－15）

<図表Ⅳ－6－15>性別順位表（上位5項目）

	男性	%	女性	%
第1位	ゲーム・インターネット・SNS等をする	66.8	テレビをみたり音楽を聴く	60.1
第2位	テレビをみたり音楽を聴く	44.5	ゲーム・インターネット・SNS等をする	52.2
第3位	スポーツ・散歩・趣味などで気分転換する	44.2	家族に相談する	42.4
第4位	友人・知人に相談する	32.8	友人・知人に相談する	39.9
第5位	家族に相談する	29.9	スポーツ・散歩・趣味などで気分転換する	37.3

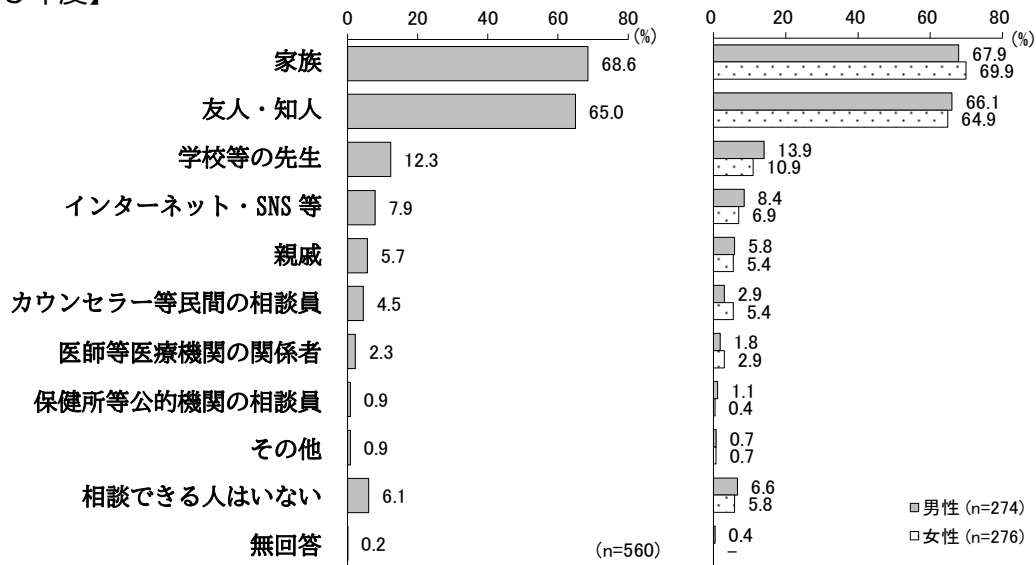
(8) 悩みやストレスの相談相手

◇「家族」が約7割、「友人・知人」が6割台半ば

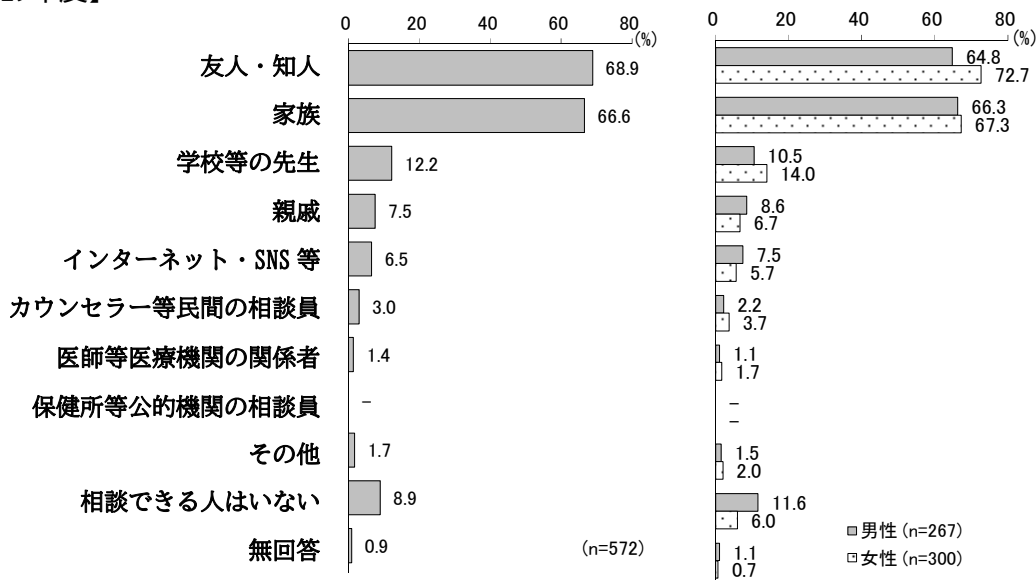
問36 あなたが悩みやストレスを相談できる人は誰ですか。(○はいくつでも)

<図表Ⅳ－6－16> ストレスを感じたときの相談相手

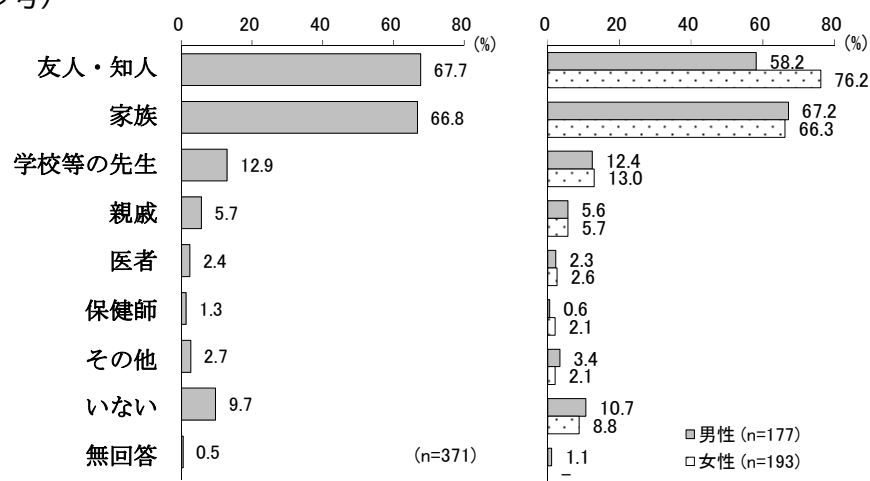
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】（参考）



悩みの相談相手を聞いたところ、「家族」（68.6％）が約7割、「友人・知人」（65.0％）が6割台半ばと、この2項目が突出している。

性別では、特に大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では大きな違いはみられない。性別では、平成25年度から「友人・知人」が男性で7ポイント増加の漸増傾向、女性で11ポイント減少の漸減傾向がみられる。（図表Ⅳ－6－16）

7 たばこ・アルコールについて

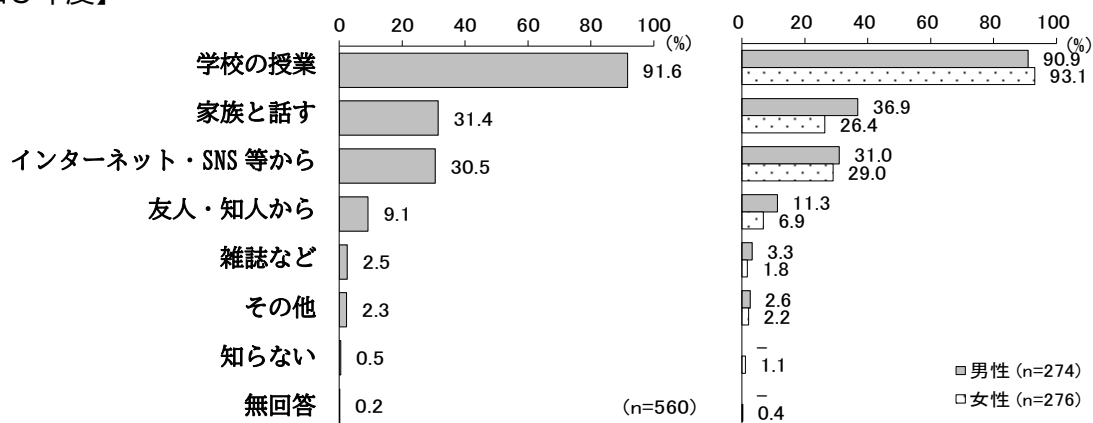
(1) 喫煙が健康に及ぼす影響についての情報源

◇「学校の授業」が9割を超える

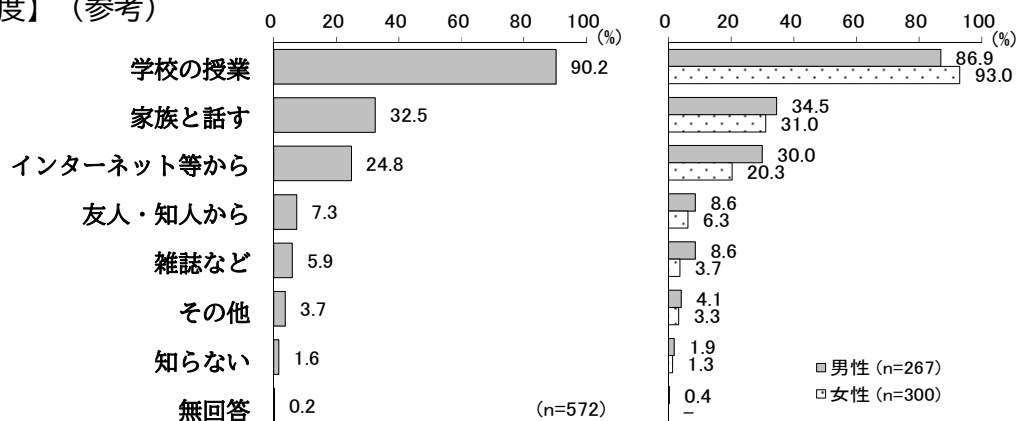
問37 たばこが健康に及ぼす影響について何で知りましたか。(〇はいくつでも)

<図表Ⅳ－7－1> 喫煙が健康に及ぼす影響についての情報源

【令和5年度】



【平成29年度】(参考)



喫煙が健康に及ぼす影響についての情報源について聞いたところ、「学校の授業」(91.6%)が9割を超えて最も高く、「家族と話す」(31.4%)が3割を超え、「インターネット・SNS等から」(30.5%)が3割となっている。

性別でみると、「家族と話す」は男性が女性より10ポイント高く、3割台半ばとなっている。

平成29年度の調査結果の比較では、全体、性別とも大きな違いはみられない。なお、「インターネット・SNS等から」は、前回と表記が異なるため参考までに留める。(図表Ⅳ－7－1)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－7－2>

			(%)								
			n	学校の授業	家族と話す	友人・知人から	インターネット・SNS等から	雑誌など	その他	知らない	無回答
性／年齢別	男性	12歳	21	90.5	42.9	14.3	28.6	－	－	－	－
		13歳	62	87.1	48.4	4.8	25.8	3.2	4.8	－	－
		14歳	47	97.9	27.7	8.5	27.7	2.1	－	－	－
		15歳	53	86.8	39.6	17.0	37.7	7.5	－	－	－
		16歳	40	90.0	37.5	20.0	40.0	5.0	2.5	－	－
		17歳	50	94.0	26.0	8.0	28.0	－	6.0	－	－
	女性	12歳	31	83.9	38.7	3.2	32.3	－	6.5	－	－
		13歳	50	90.0	26.0	4.0	16.0	－	4.0	2.0	－
		14歳	56	98.2	25.0	7.1	25.0	5.4	－	－	－
		15歳	48	97.9	25.0	10.4	37.5	－	－	－	－
		16歳	34	97.1	23.5	5.9	44.1	－	－	－	－
		17歳	56	89.3	23.2	8.9	26.8	3.6	3.6	3.6	1.8

※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では「学校の授業」は、14歳がほぼ全数で、17歳が9割台半ばとなっている。「家族と話す」は、13歳で約5割と高くなっている。「インターネット・SNS等から」は、16歳が4割、15歳が約4割となっている。

女性では「学校の授業」は、14歳～16歳がほぼ全数となっている。「インターネット・SNS等から」は、16歳で4割台半ばと高くなっている。「家族と話す」は12歳で約4割と高いものの、13歳で2割台へ下がり、以降年齢が上がるにつれ漸減している。（図表Ⅳ－7－2）

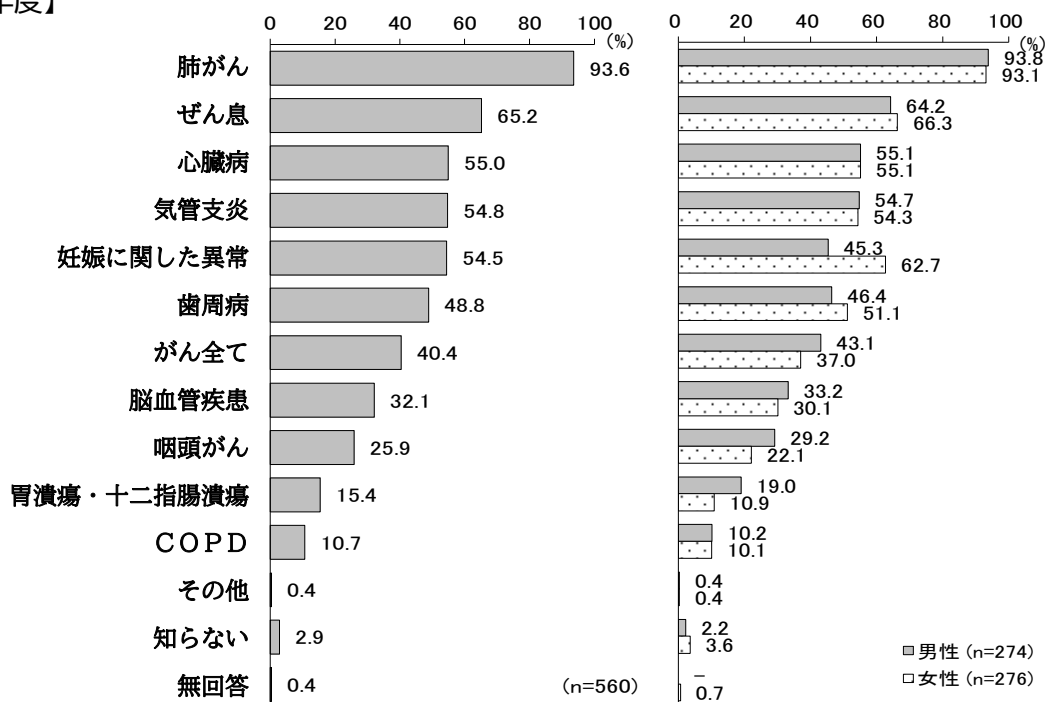
(2) 喫煙が悪影響を及ぼす疾病の認知度

◇「肺がん」が9割台半ばを占める

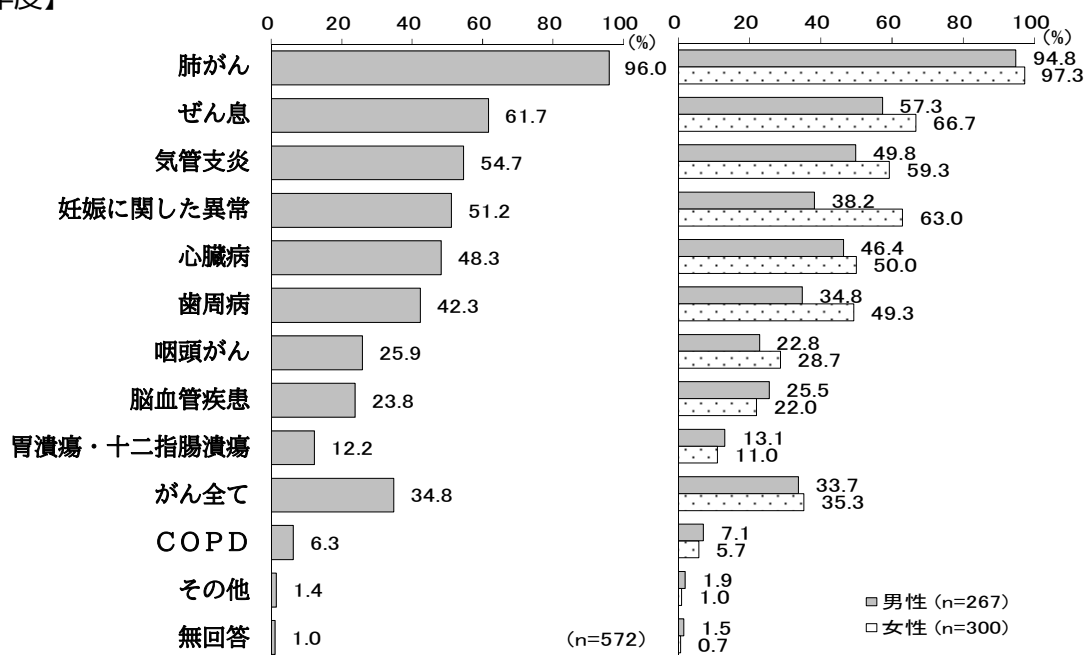
問38 たばこが健康に及ぼす影響について知っていることを、次の中から選んでください。
(○はいくつでも)

<図表Ⅳ－7－3> 喫煙が悪影響を及ぼす疾病の認知度

【令和5年度】



【平成29年度】



喫煙が悪影響を及ぼす疾病の認知度を聞いたところ、「肺がん」(93.6%)が9割台半ばで最も高く、次いで「ぜん息」(65.2%)が6割台半ば、「心臓病」(55.0%)、「気管支炎」(54.8%)、「妊娠に関する異常」(54.5%)が5割台半ばとなっている。

性別でみると、「妊娠に関する異常」は女性が男性より17ポイント高く、6割を超えている。「がん全て」と「咽頭がん」は男性が女性より高く、それぞれ6ポイント高い4割台半ば、7ポイント高い約3割となっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では「脳血管疾患」が8ポイント、「心臓病」と「歯周病」が6ポイント、「がん全て」が5ポイント、それぞれ増加している。性別では、男性に増加している項目が多く、主なものとして、「歯周病」が11ポイント、「心臓病」が8ポイント増などとなっている。女性は「心臓病」が5ポイント増加し、「気管支炎」が5ポイント減少している。(図表Ⅳ-7-3)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ-7-4>

			(%)														
			n	肺がん	ぜん息	気管支炎	心臓病	脳血管疾患	胃潰瘍・十二指腸潰瘍	妊娠に関する異常	歯周病	咽頭がん	がん全て	COPD	その他	知らない	無回答
性／年齢別	男性	12歳	21	90.5	47.6	42.9	47.6	33.3	14.3	33.3	38.1	19.0	33.3	-	-	4.8	-
		13歳	62	93.5	59.7	38.7	56.5	25.8	8.1	33.9	38.7	21.0	53.2	9.7	-	1.6	-
		14歳	47	95.7	61.7	55.3	63.8	36.2	21.3	44.7	55.3	34.0	42.6	6.4	-	4.3	-
		15歳	53	96.2	69.8	64.2	60.4	37.7	34.0	54.7	56.6	47.2	45.3	20.8	-	3.8	-
		16歳	40	92.5	77.5	75.0	52.5	40.0	17.5	55.0	55.0	27.5	40.0	10.0	2.5	-	-
		17歳	50	92.0	64.0	54.0	46.0	30.0	18.0	48.0	34.0	22.0	36.0	8.0	-	-	-
	女性	12歳	31	96.8	77.4	48.4	61.3	12.9	9.7	48.4	45.2	12.9	29.0	6.5	-	3.2	-
		13歳	50	86.0	50.0	32.0	54.0	30.0	12.0	56.0	38.0	14.0	38.0	8.0	-	10.0	-
		14歳	56	89.3	60.7	53.6	55.4	26.8	7.1	55.4	51.8	19.6	37.5	7.1	-	3.6	1.8
		15歳	48	100.0	75.0	66.7	68.8	39.6	12.5	66.7	64.6	27.1	41.7	14.6	-	-	-
		16歳	34	100.0	76.5	61.8	44.1	32.4	5.9	79.4	58.8	26.5	32.4	11.8	-	-	-
		17歳	56	91.1	66.1	62.5	48.2	33.9	16.1	71.4	50.0	30.4	39.3	12.5	1.8	3.6	1.8

※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を で区別するようにした。

男性では「肺がん」は15歳がほぼ全数で、他の年齢も9割台と高い。「ぜん息」は16歳が約8割と高く、次いで15歳が約7割となっている。また、「気管支炎」は16歳が7割台半ば、「胃潰瘍・十二指腸潰瘍」は15歳が3割台半ば、「COPD」は15歳で2割と、それぞれ他の年齢と比較して高くなっている。

女性では「肺がん」は15歳、16歳が全数となっている。「ぜん息」は12歳が約8割と高く、15歳、16歳でも7割台半ばとなっている。「妊娠に関する異常」は16歳が約8割と高く、17歳でも7割を超えている。(図表Ⅳ-7-4)

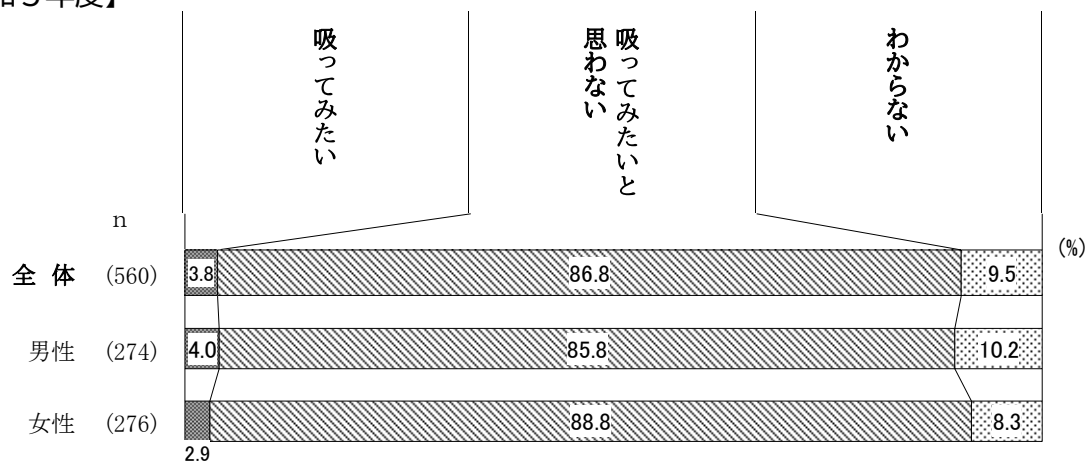
(3) 成人後の喫煙意向

◇「吸ってみたいと思わない」が8割台半ば

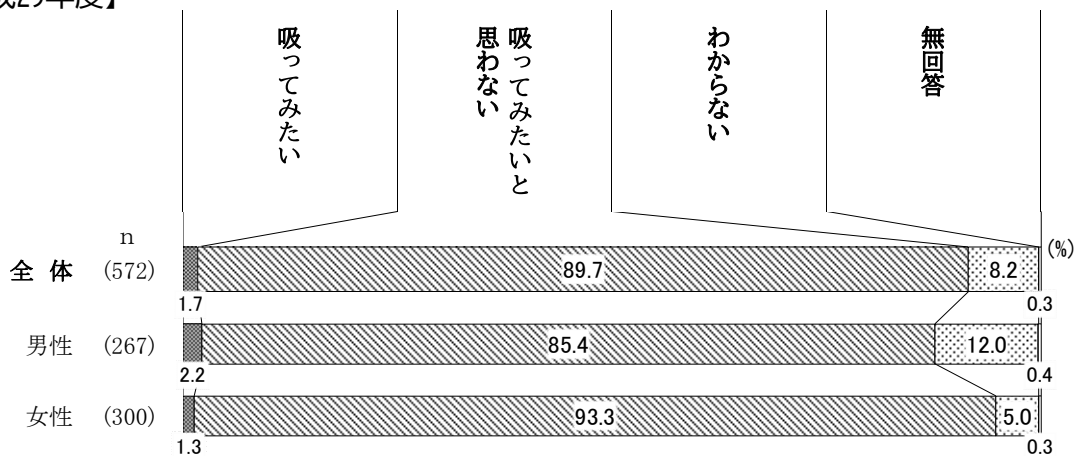
問39 成人したらたばこを吸いたいですか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－7－5>成人後の喫煙意向

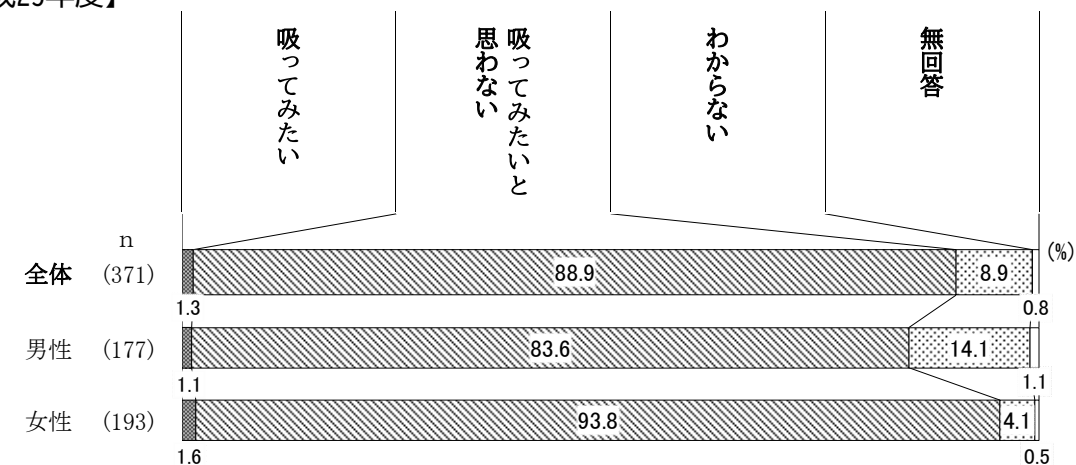
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

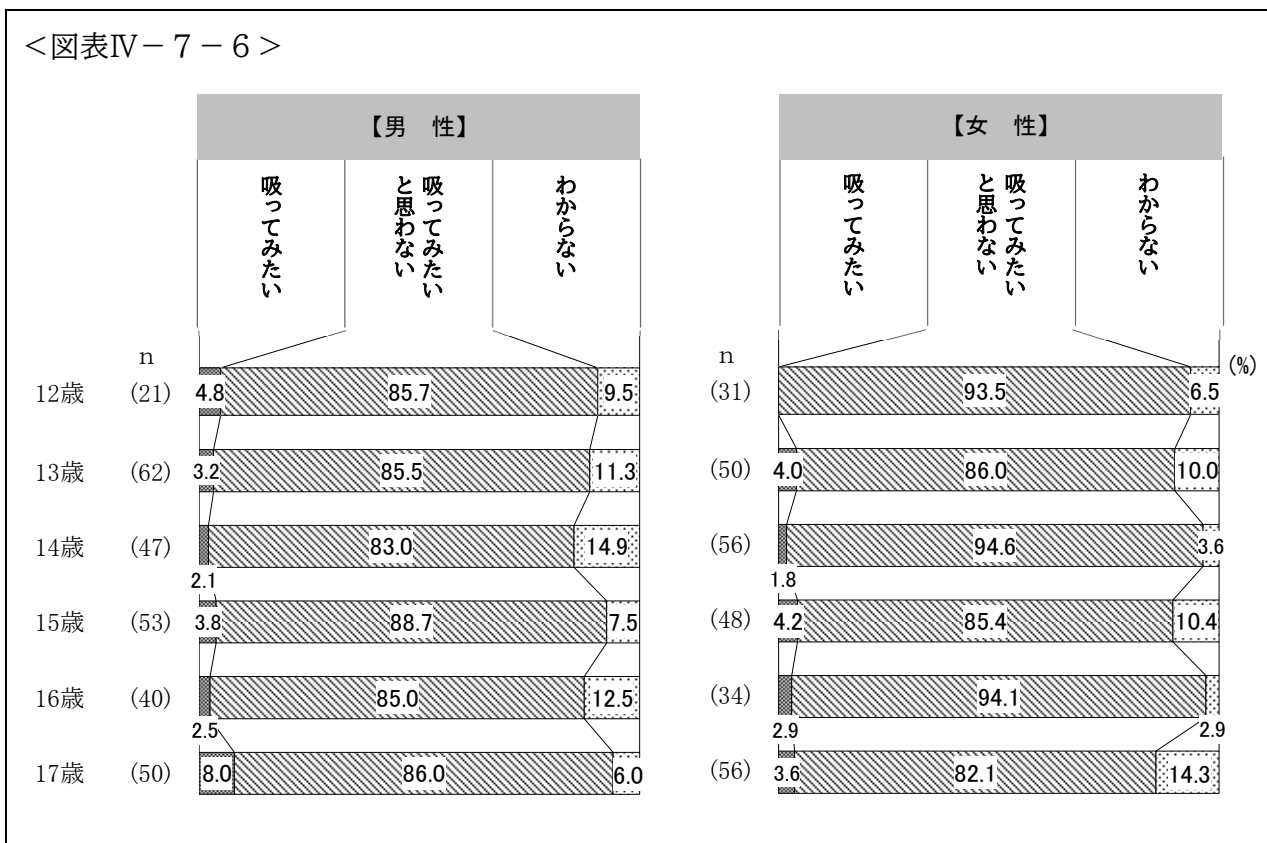


成人後の喫煙意向を聞いたところ、「吸ってみたいと思わない」（86.8%）が8割台半ば、「吸ってみたい」（3.8%）は1割未満となっている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果との比較では、全体、性別とも大きな違いはみられない。（図表Ⅳ－7－5）

【性／年齢別】



男性では「吸ってみたいと思わない」は、すべての年齢で8割台となっている。女性では「吸ってみたいと思わない」は、12歳、14歳、16歳が9割台半ばを占めている。（図表Ⅳ－7－6）

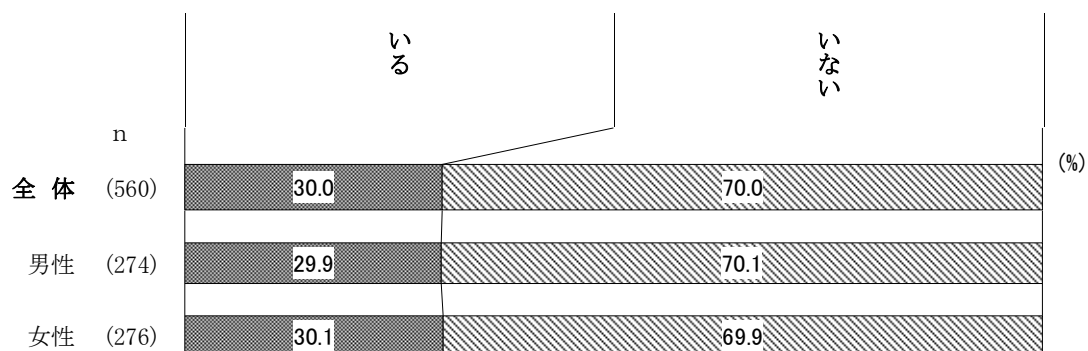
(4) 家族における喫煙者の有無

◇「いる」は3割

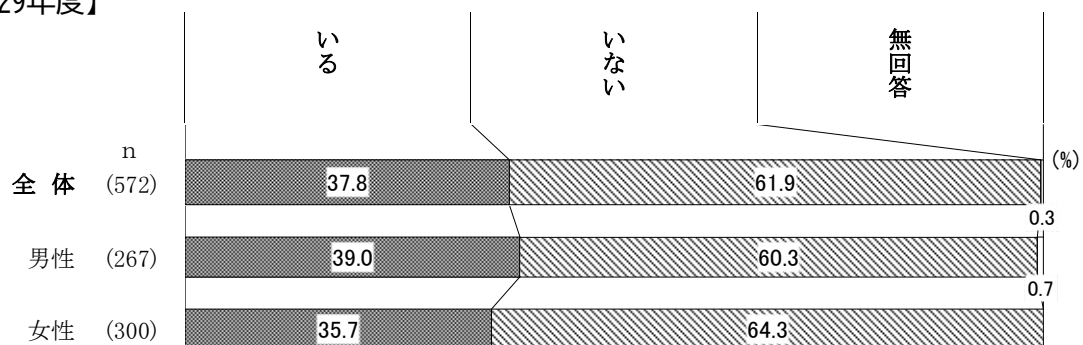
問40 家族の中でたばこを吸う人はいますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－7－7> 家族における喫煙者の有無

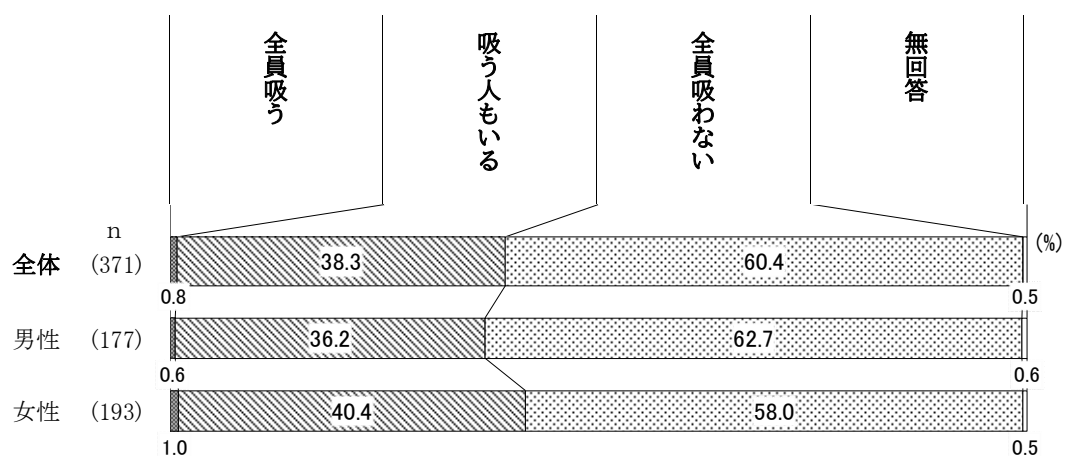
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】 (参考)



家族における喫煙者の有無を聞いたところ、「いる」（30.0％）は3割、「いない」（70.0％）は7割となっている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では「いる」は平成29年度から7ポイント減少している。性別では平成29年度から、男性は9ポイント、女性は5ポイント減少している。なお、平成25年度は、選択肢が異なるため参考までに留める。（図表Ⅳ－7－7）

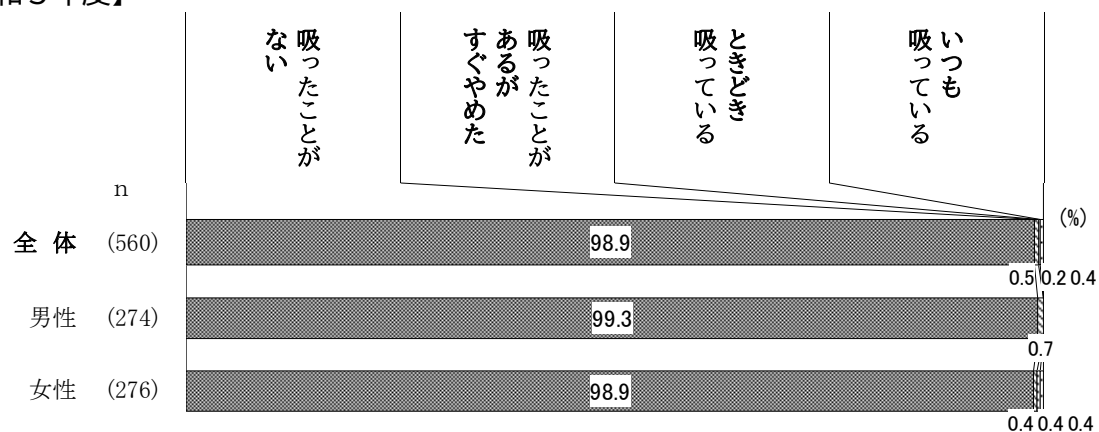
(5) 喫煙の有無

◇「吸ったことがない」がほぼ全数

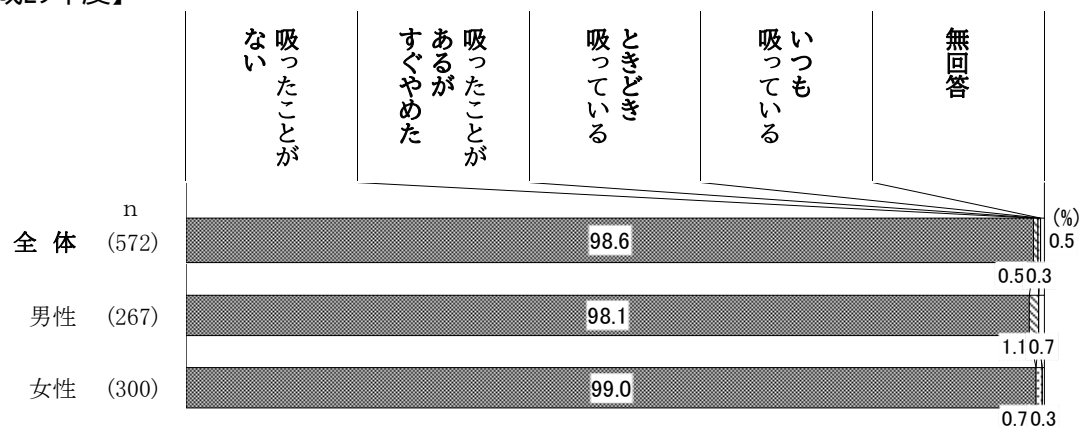
問41 あなたは、たばこを吸ったことがありますか。（○は1つだけ）

<図表Ⅳ－7－8>喫煙の有無

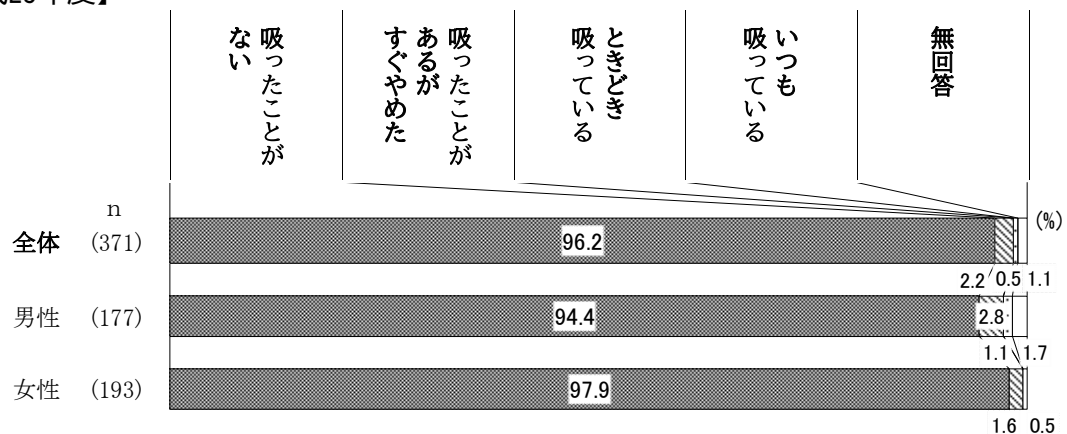
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

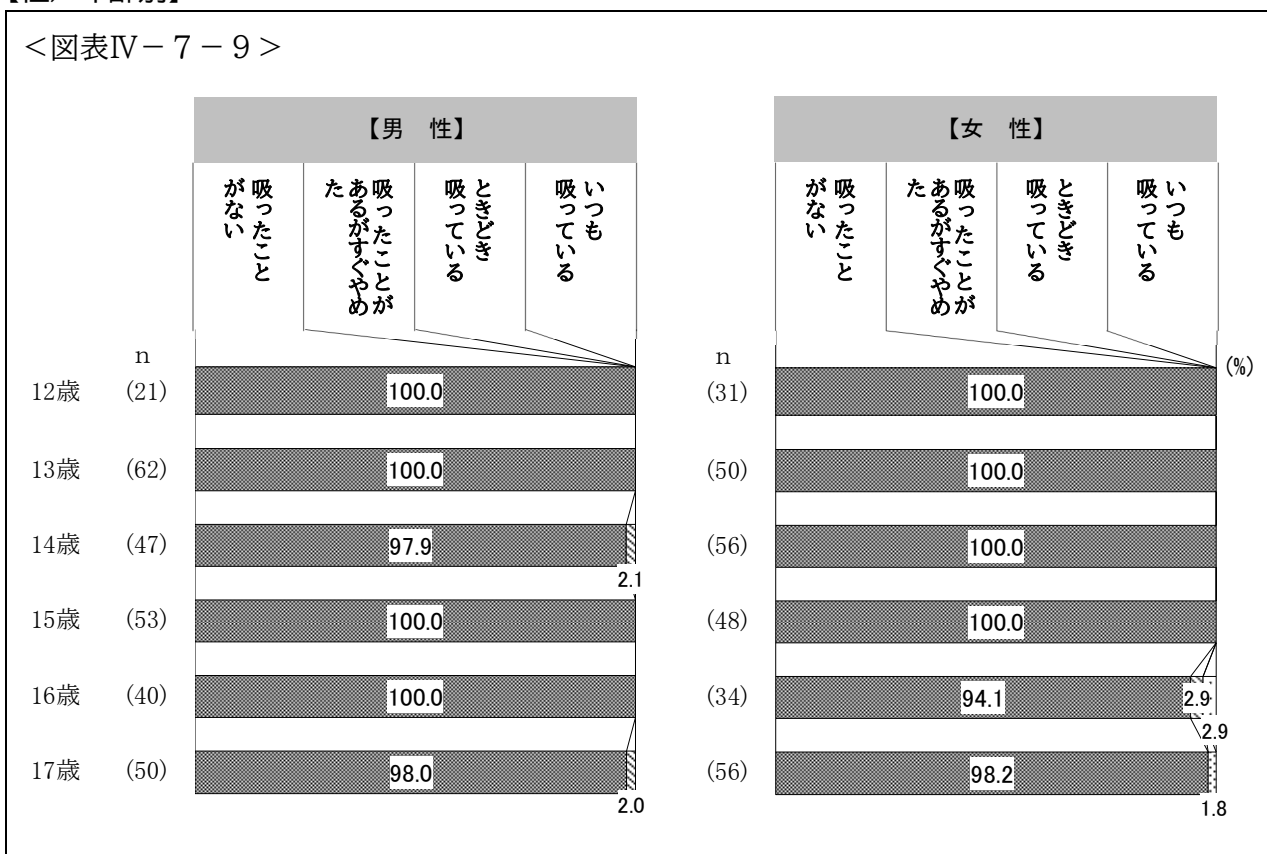


喫煙の有無を聞いたところ、「吸ったことがない」（98.9%）がほぼ全数となっている。一方、「吸ったことがあるがすぐやめた」（0.5%）、「ときどき吸っている」（0.2%）、「いつも吸っている」（0.4%）は、少数ながら存在している。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果との比較では、全体、性別ともに、大きな違いはみられない。（図表Ⅳ－7－8）

【性／年齢別】



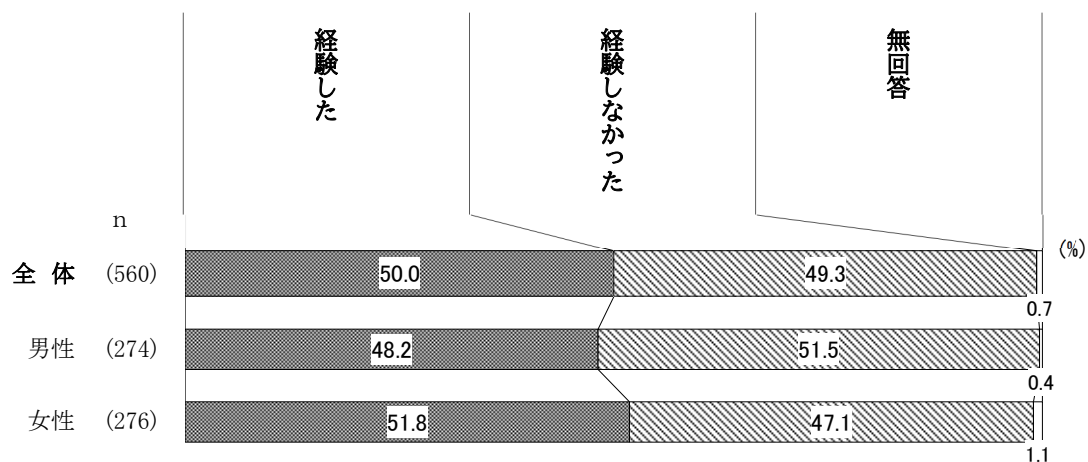
性・年齢別では、大きな違いはみられない。（図表Ⅳ－7－9）

(6) この1年間の受動喫煙の経験

◇「経験した」は5割

問42-1 あなたは、およそ1年の間に「受動喫煙」を経験しましたか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ-7-10> 受動喫煙の経験

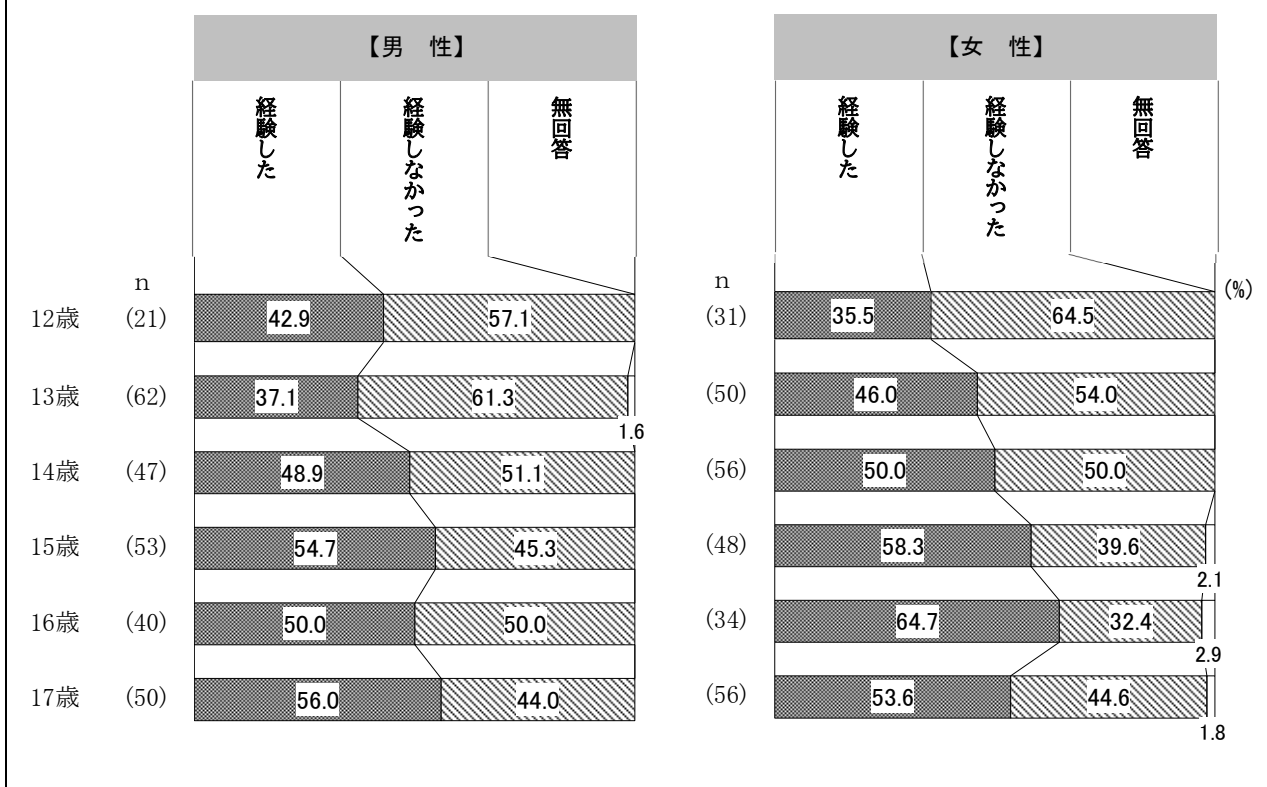


およそ1年の間に受動喫煙を経験したか聞いたところ、「経験した」(50.0%)は5割、「経験しなかった」(49.3%)は約5割となっている。

性別では、大きな違いはみられない(図表Ⅳ-7-10)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－7－11>



男性では「経験した」は、15歳、17歳が5割台半ばと高く、「経験しなかった」は13歳で6割を超えている。女性では、「経験した」が16歳で6割台半ばと高く、15歳でも約6割となっている。「経験しなかった」は12歳が6割台半ばと高くなっている。（図表Ⅳ－7－11）

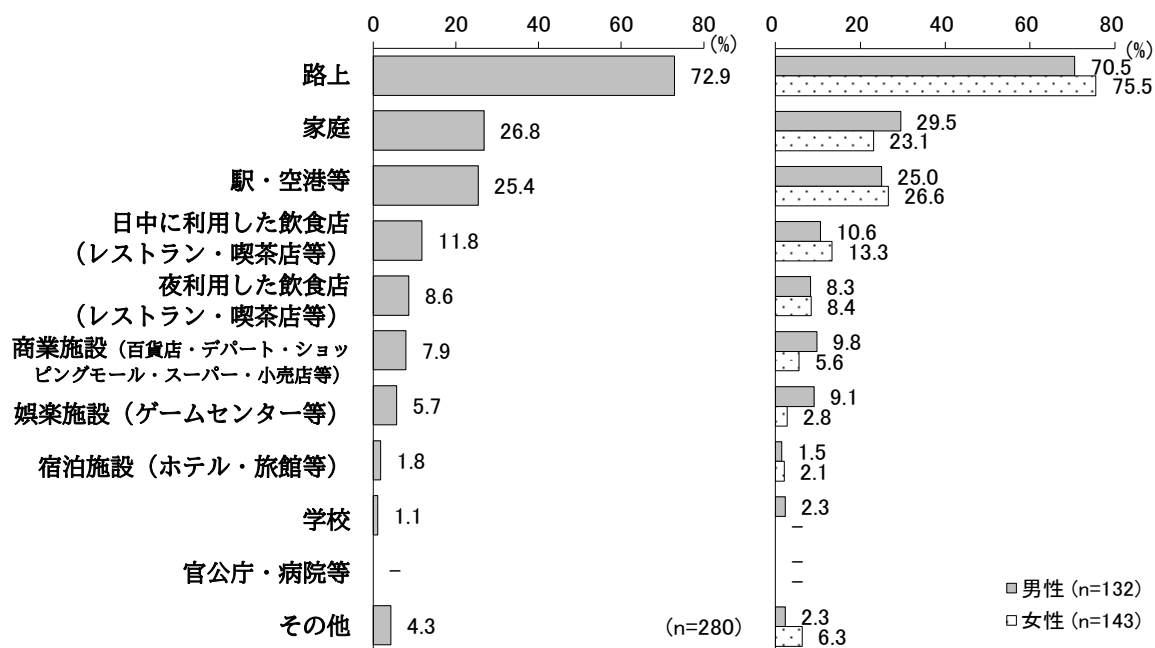
(7) 受動喫煙を経験した場所

◇「路上」が7割を超える

(問42-1で、「1 経験した」とお答えの方に)

問42-2 どこで受動喫煙を経験しましたか。(○はいくつでも)

<図表Ⅳ-7-12> 受動喫煙を経験した場所



受動喫煙を経験した場所を聞いたところ、「路上」(72.9%)が7割を超え、突出している。次いで「家庭」(26.8%)と「駅・空港等」(25.4%)が2割台半ばとなっている。

性別でみると、「路上」は女性が男性より5ポイント高く、7割台半ば、「娯楽施設(ゲームセンター等)」は男性が女性より6ポイント高くなっている。(図表Ⅳ-7-12)

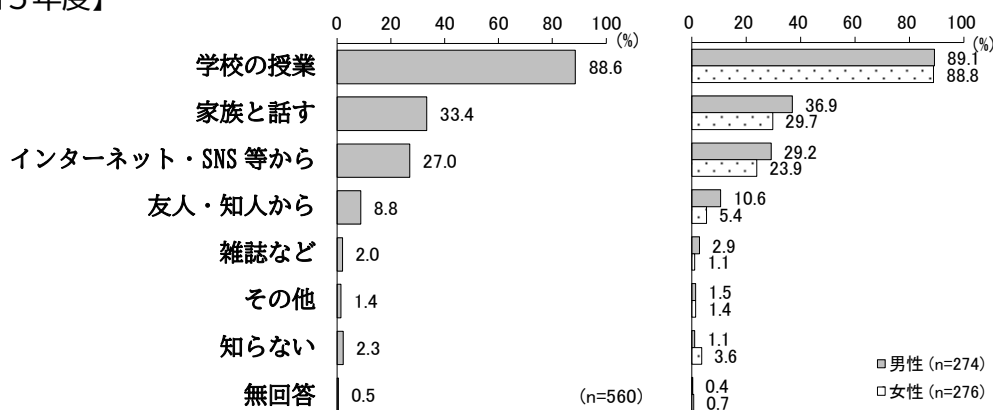
(8) アルコールが健康に及ぼす影響についての情報源

◇「学校の授業」が約9割で突出

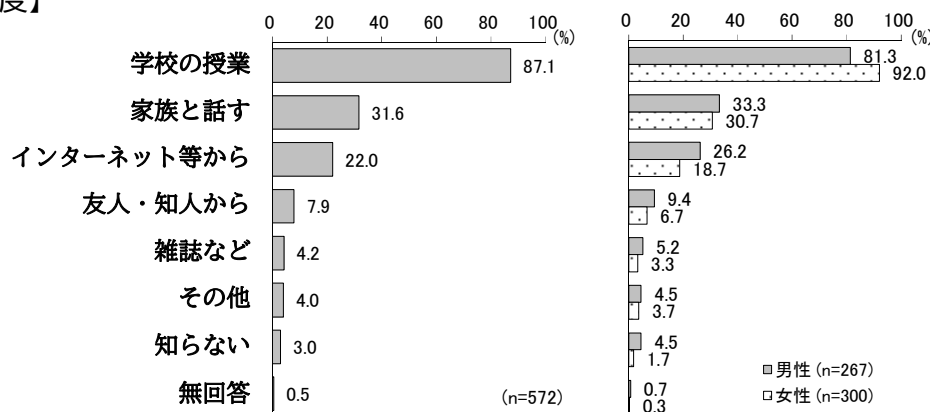
問43 お酒が健康に及ぼす影響について何で知りましたか。(○はいくつでも)

<図表Ⅳ－7－13> アルコールが健康に及ぼす影響についての情報源

【令和5年度】



【平成29年度】



アルコールが健康に及ぼす影響の情報源について聞いたところ、「学校の授業」（88.6%）が約9割で最も高く、次いで「家族と話す」（33.4%）が3割台半ば、「インターネット・SNS等から」（27.0%）が約3割となっている。

性別でみると、すべての項目で男性が女性より高く、「家族と話す」は7ポイント高く、3割台半ば、「インターネット・SNS等から」は5ポイント高く、約3割となっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では大きな違いはみられない。性別では男性は「学校の授業」が7ポイント増加している。なお、「インターネット・SNS等から」は、前回と選択肢表記が異なるので、参考までに留める。（図表Ⅳ－7－13）

(9) アルコールが悪影響を及ぼす疾病の認知度

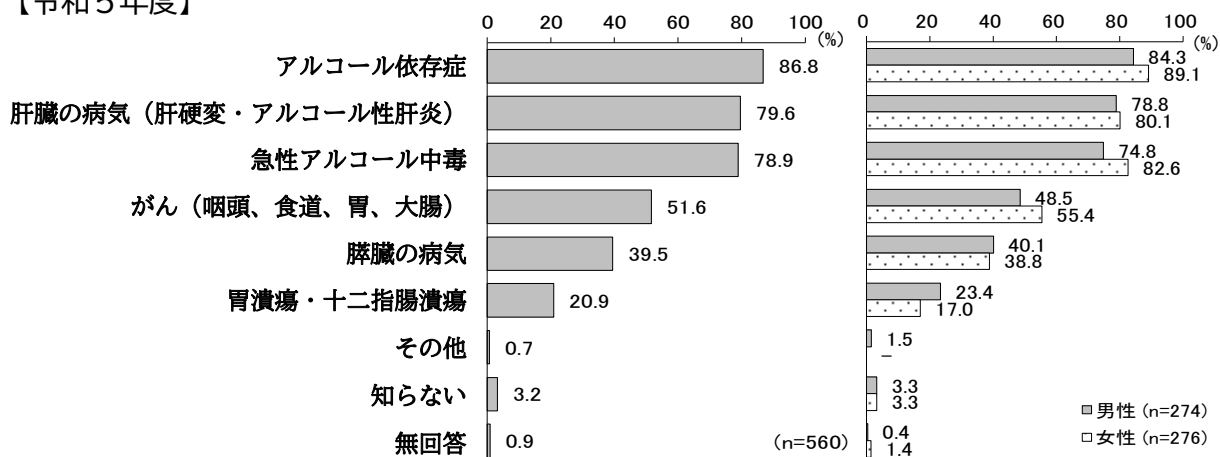
◇「アルコール依存症」が8割台半ばで最も高く、「肝臓の病気」と「急性アルコール中毒」が約8割

問44 お酒が健康に及ぼす影響について知っていることに○をつけてください。

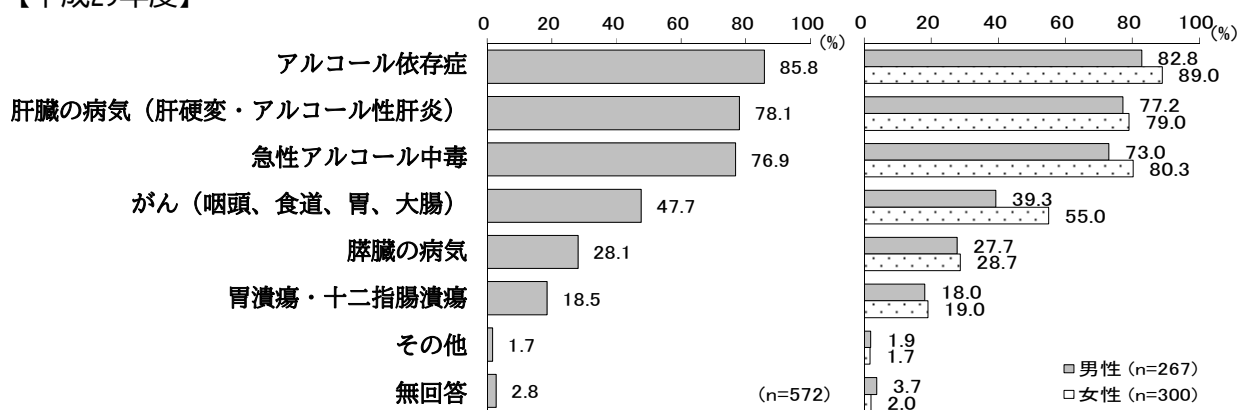
(○はいくつでも)

<図表Ⅳ－7－14> アルコールが悪影響を及ぼす疾病の認知度

【令和5年度】



【平成29年度】



アルコールが悪影響を及ぼす疾病の認知度は、「アルコール依存症」(86.8%)が8割台半ばで最も高く、次いで「肝臓の病気(肝硬変・アルコール性肝炎)」(79.6%)と「急性アルコール中毒」(78.9%)が約8割となっている。

性別では、上位項目は女性が男性より高く、「急性アルコール中毒」は7ポイント高く8割を超え、「がん(咽頭、食道、胃、大腸)」は6ポイント高い5割台半ばとなっている。「胃潰瘍・十二指腸潰瘍」は男性が女性より6ポイント高く、2割台半ばとなっている。

平成29年度と比較すると、全体では「膵臓の病気」が11ポイント増加している。性別では男性は「膵臓の病気」は12ポイント、「がん(咽頭、食道、胃、大腸)」は9ポイント増加している。女性は「膵臓の病気」が10ポイント増加している。(図表Ⅳ－7－14)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－7－15>

			(%)									
			n	肝臓の病気 (肝硬変・アルコール性肝炎)	膵臓の病気	胃潰瘍・十二指腸潰瘍	急性アルコール中毒	アルコール依存症	がん (咽頭、食道、胃、大腸)	その他	知らない	無回答
性／年齢別	男性	12歳	21	81.0	28.6	19.0	66.7	76.2	42.9	－	－	－
		13歳	62	62.9	29.0	14.5	66.1	79.0	48.4	1.6	8.1	－
		14歳	47	83.0	36.2	25.5	85.1	87.2	42.6	2.1	2.1	－
		15歳	53	79.2	49.1	30.2	75.5	83.0	50.9	1.9	3.8	1.9
		16歳	40	90.0	47.5	27.5	70.0	92.5	55.0	2.5	2.5	－
		17歳	50	84.0	48.0	24.0	84.0	86.0	50.0	－	－	－
	女性	12歳	31	80.6	32.3	12.9	61.3	83.9	61.3	－	－	6.5
		13歳	50	64.0	34.0	14.0	70.0	82.0	56.0	－	10.0	－
		14歳	56	83.9	33.9	12.5	89.3	89.3	58.9	－	3.6	－
		15歳	48	83.3	43.8	18.8	93.8	100.0	58.3	－	－	－
		16歳	34	97.1	38.2	26.5	94.1	97.1	58.8	－	－	－
		17歳	56	76.8	48.2	19.6	83.9	85.7	44.6	－	3.6	3.6

※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では、16歳は「アルコール依存症」が9割を超えて、「肝臓の病気」が9割となっている。「急性アルコール中毒」は14歳、17歳が8割台半ばと高くなっている。女性では「アルコール依存症」は15歳で全数、16歳でほぼ全数となっている。また、16歳は「肝臓の病気」がほぼ全数、「急性アルコール中毒」は9割台半ばと高くなっている。(図表Ⅳ－7－15)

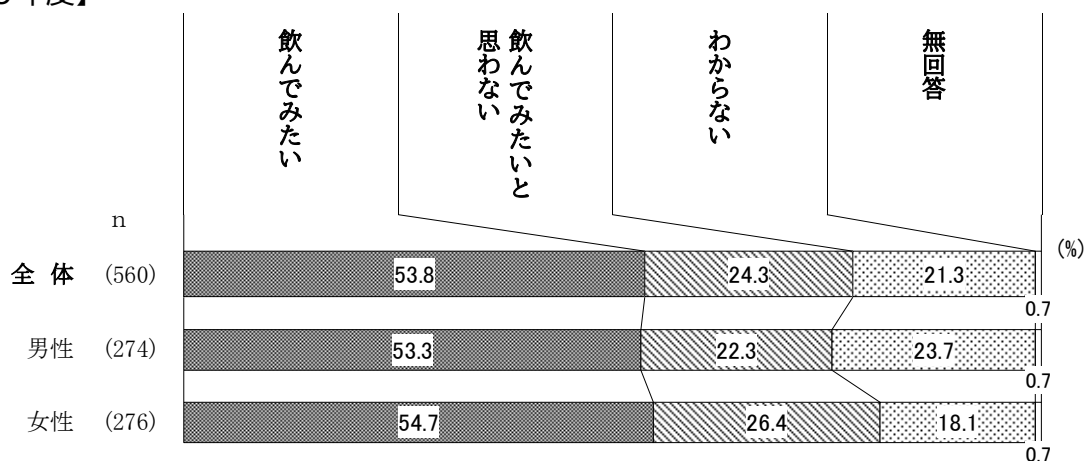
(10) 成人後の飲酒意向

◇「飲んでみたい」が5割台半ば

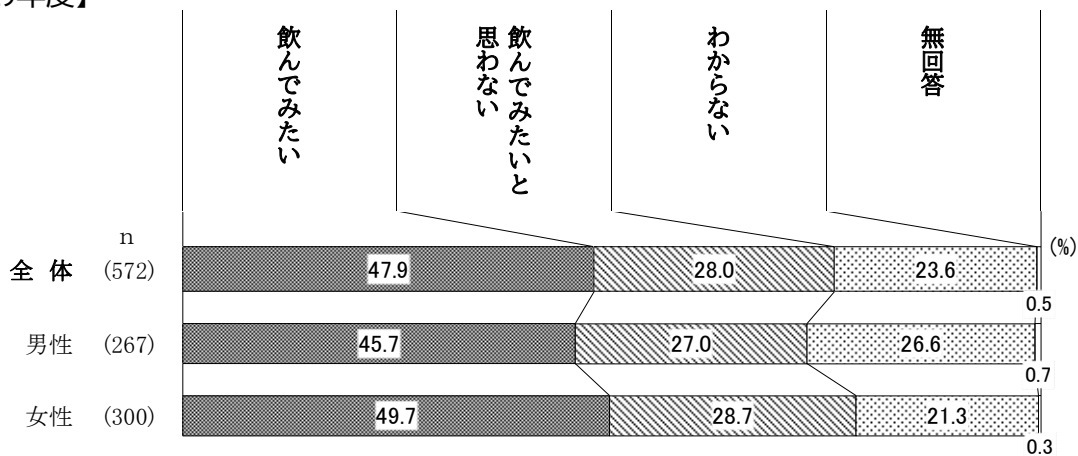
問45 成人したらお酒を飲みたいですか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－7－16>成人後の飲酒意向

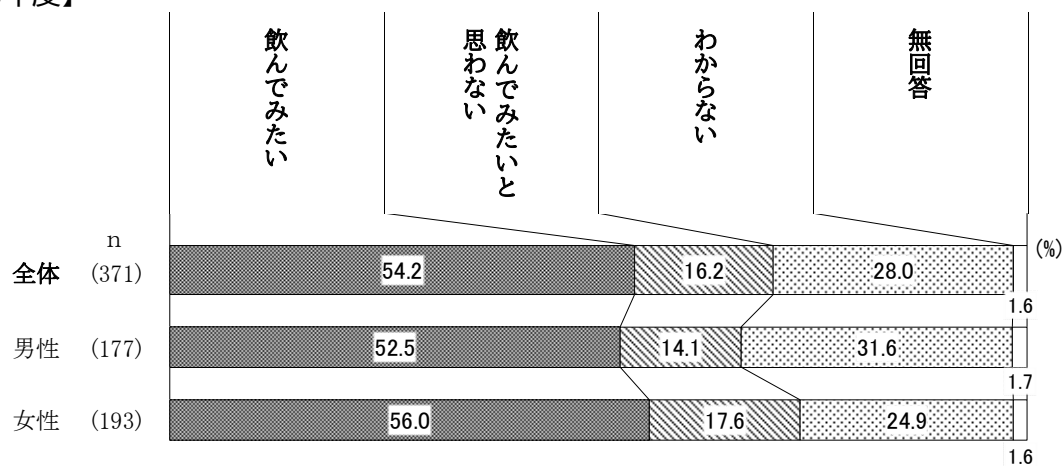
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



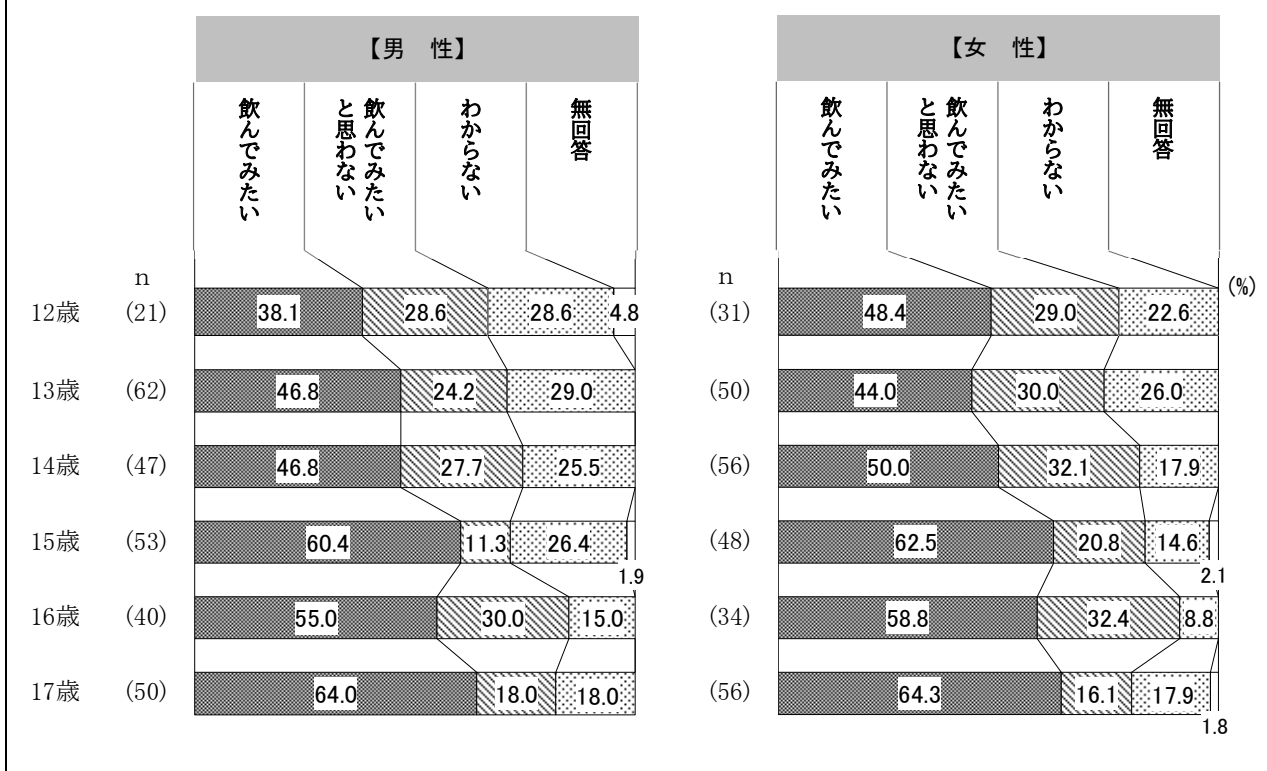
成人後の飲酒意向を聞いたところ、「飲んでみたい」（53.8%）が5割台半ば、「飲んでみたいと思わない」（24.3%）で2割台半ばとなっている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では「飲んでみたい」が平成29年度から5ポイント増加している。性別では、平成29年度から「飲んでみたい」は、男性が7ポイント、女性が5ポイント増加している。（図表Ⅳ－7－16）

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－7－17>



男性では「飲んでみたい」は17歳が6割台半ばと高く、15歳でも6割となっている。「飲んでみたいと思わない」は16歳が3割、12歳、14歳が約3割となっている。女性では「飲んでみたい」は17歳で6割台半ばと高く、15歳でも6割を超えている。「飲んでみたいと思わない」は14歳、16歳が3割を超えている。（図表Ⅳ－7－17）

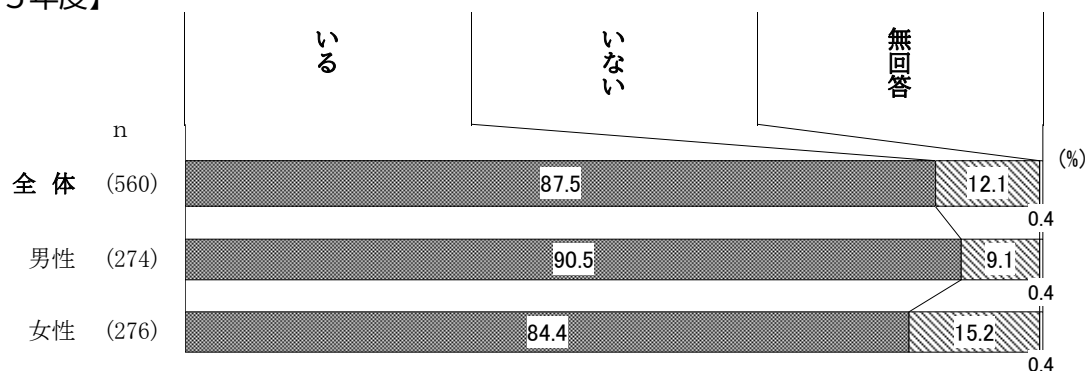
(11) 家族における飲酒者の有無

◇「いる」は約9割

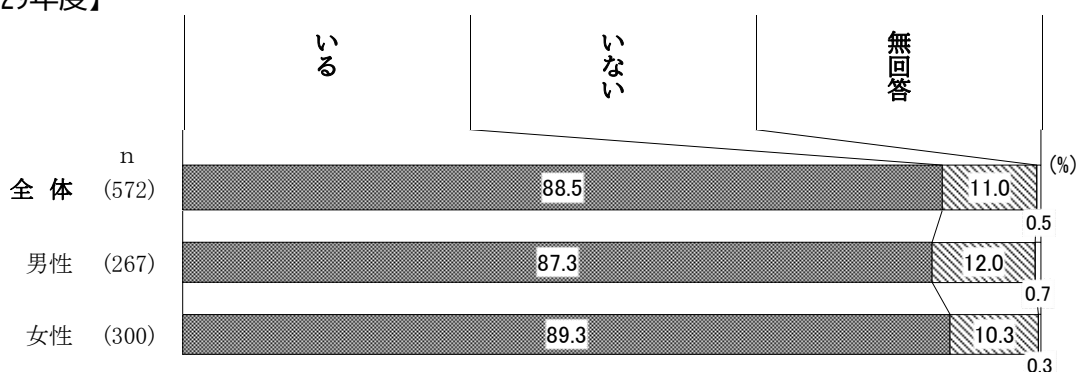
問46 家族の中でお酒を飲む人はいますか。（○は1つだけ）

<図表Ⅳ－7－18> 家族における飲酒者の有無

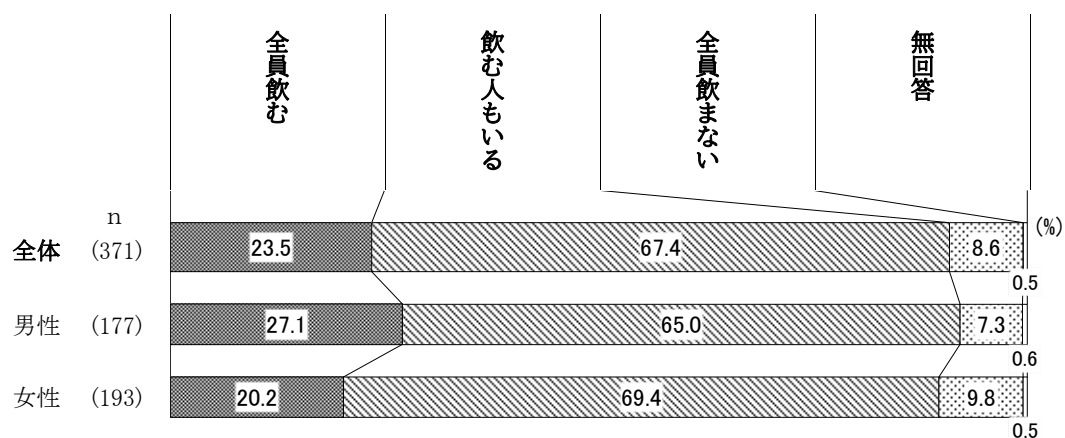
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】（参考）



家族における飲酒者の有無を聞いたところ、「いる」（87.5％）が約9割、「いない」（12.1％）が1割を超えている。

性別でみると、「いる」は男性が女性より6ポイント高く、9割、「いない」は女性が男性より6ポイント高く、1割台半ばとなっている。

過去の調査結果との比較では、全体、性別とも大きな違いはみられない。（図表Ⅳ－7－18）

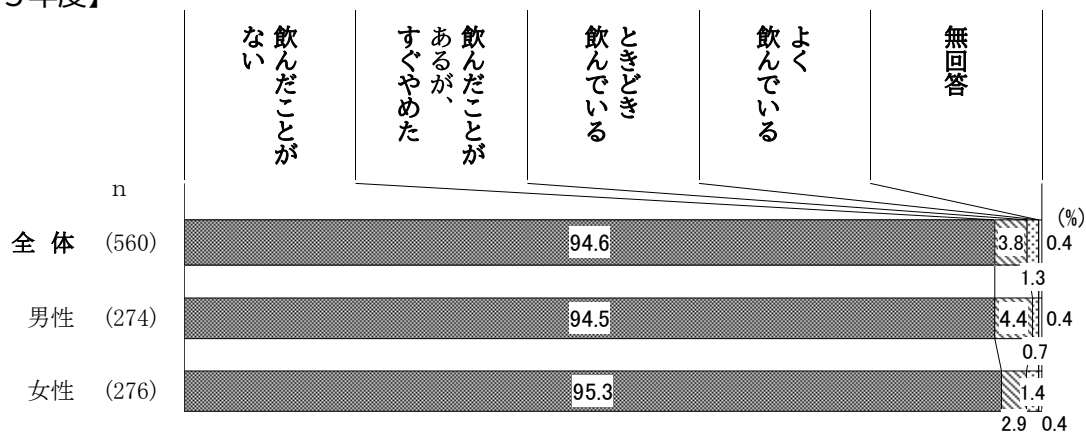
(12) アルコール摂取の有無

◇「飲んだことがない」は9割台半ば

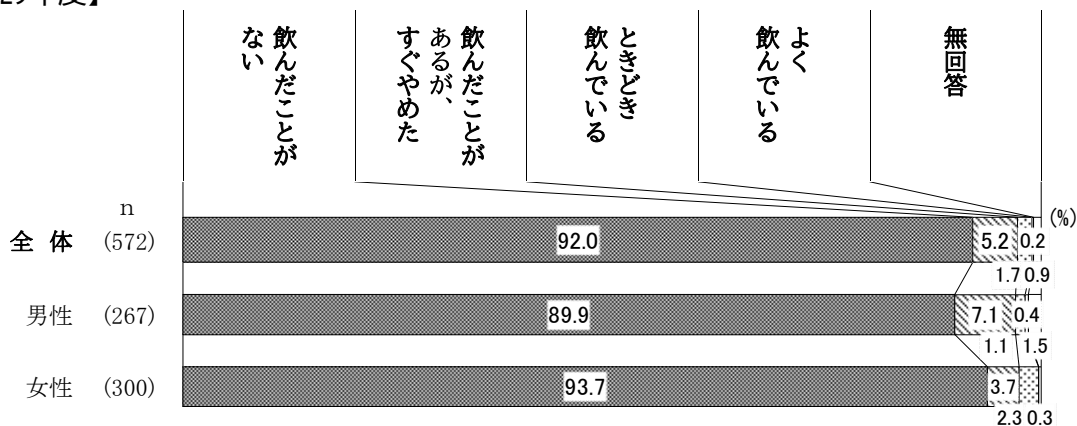
問47-1 あなたは、お酒を飲んだことがありますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ-7-19> アルコール摂取の有無

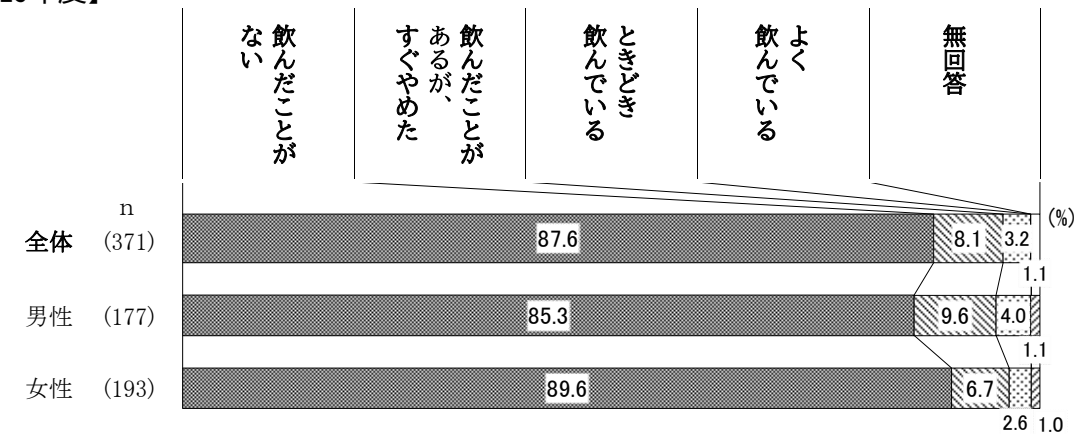
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

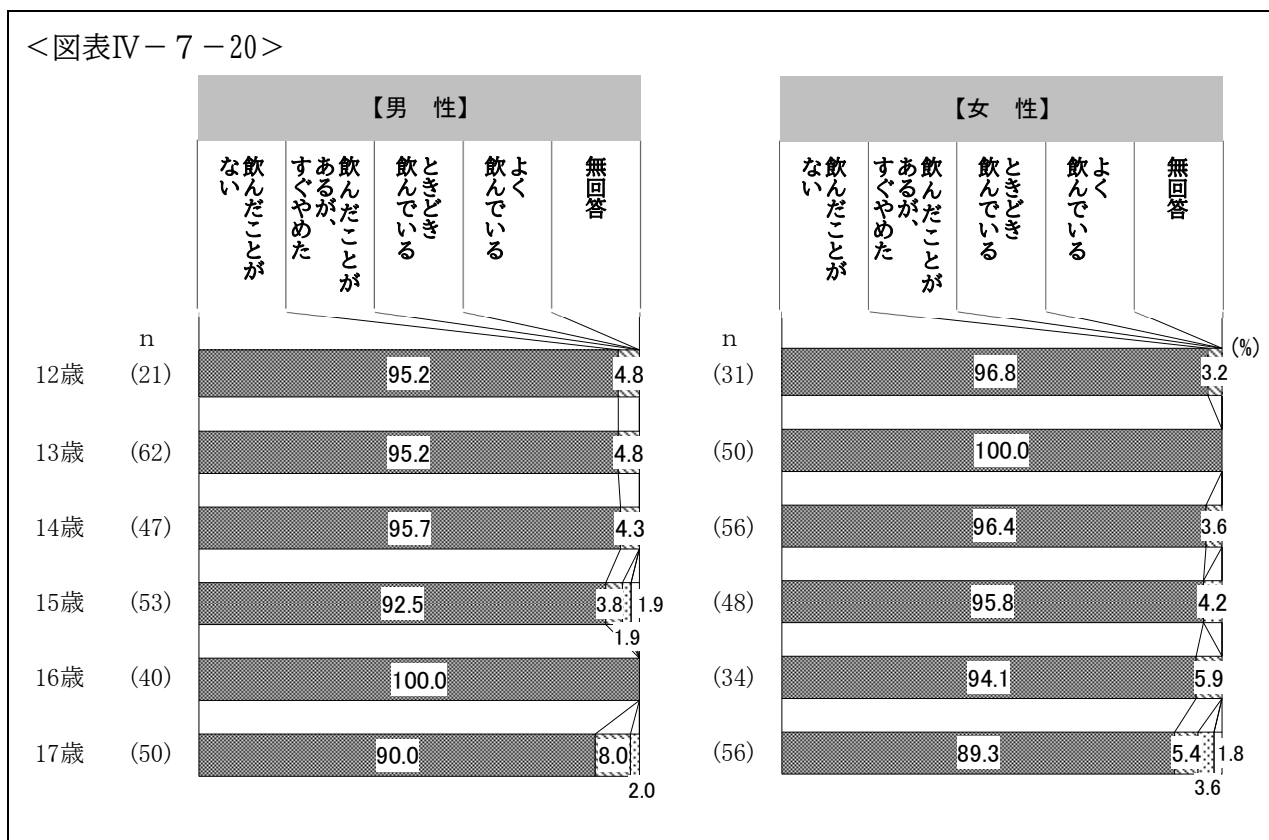


アルコール摂取の有無を聞いたところ、「飲んだことがない」（94.6％）は9割台半ばを占めている。一方、「飲んだことがあるが、すぐやめた」（3.8％）、「ときどき飲んでいる」（1.3％）は少数ながら存在する。

性別では、特に大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、「飲んだことがない」が増加傾向にあり、平成25年度からは全体で7ポイント、男性で9ポイント、女性で5ポイント増加している。（図表Ⅳ－7－19）

【性／年齢別】



男性では「飲んだことがない」は、16歳が全数で、他の年齢層でも9割台となっている。女性では「飲んだことがない」は、13歳が全数で、他の年齢層でも17歳を除き、9割台半ばとなっている。（図表Ⅳ－7－20）

(13) アルコールを初めて摂取した年齢

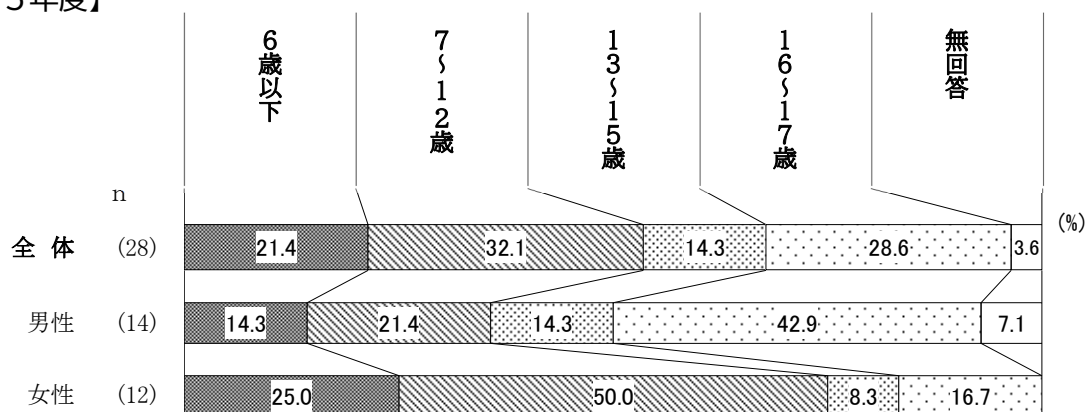
◇平均年齢は11.4歳

(問47-1で、「2」～「4」とお答えの方に)

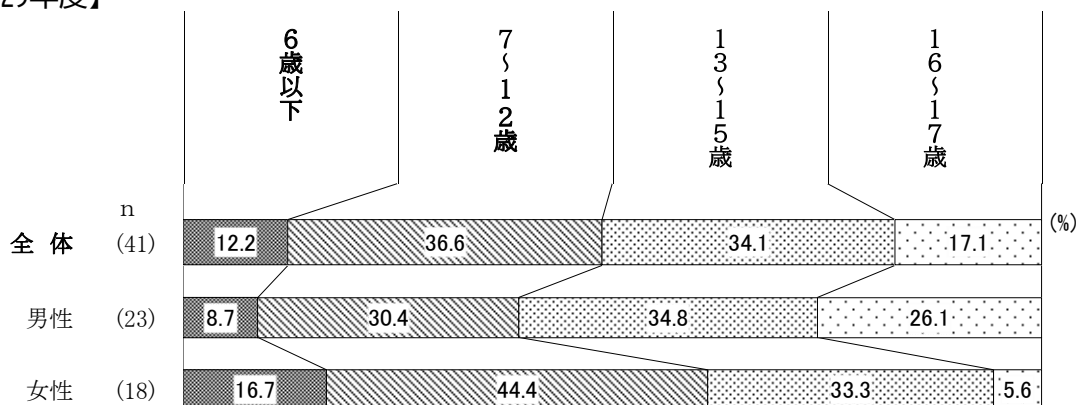
問47-2 初めてお酒を飲んだのは何歳ですか。

<図表Ⅳ-7-21> アルコールを初めて摂取した年齢

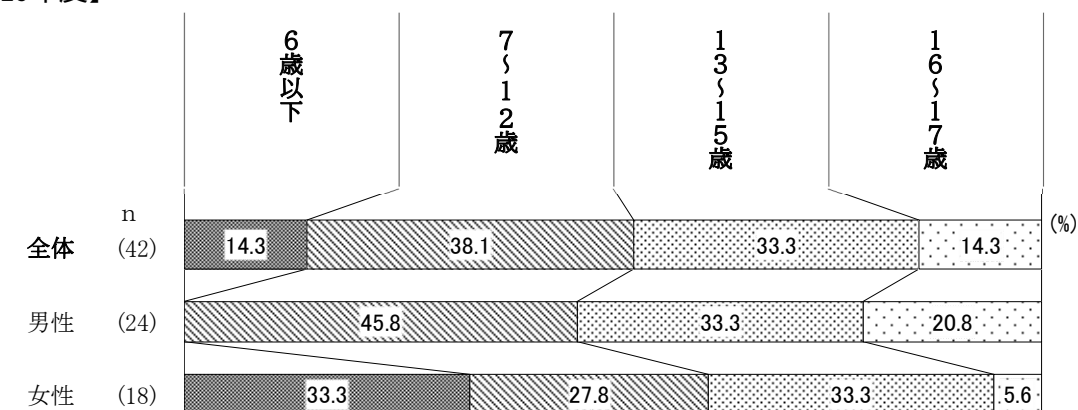
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



問47-1で、「2」～「4」と回答した人に初めてアルコールを摂取した年齢を聞いたところ、「7歳～12歳」（32.1%）が3割を超えて最も高く、「16歳～17歳」（28.6%）が約3割、「6歳以下」（21.4%）が2割を超えて、平均年齢は11.4歳となっている。なお、この設問は回答数が少ないため参考までとし、性別、過去の調査結果との比較は述べていない。（図表Ⅳ-7-21）

【性／年齢別】

<図表Ⅳ-7-22>

〔アルコールを初めて摂取した平均年齢〕

		(歳)					
	全体	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
全体	<u>11.4</u>	<u>11.0</u>	<u>8.3</u>	<u>9.0</u>	<u>10.4</u>	<u>9.5</u>	<u>13.8</u>
男性	<u>12.8</u>	-	8.3	13.0	11.0	-	16.4
女性	<u>10.5</u>	11.0	-	5.0	9.5	9.5	13.4

※「全体」には、太字で下線を施している。

すべての年齢で回答者数が少ないため、参考までに留める。（図表Ⅳ-7-22）

(14) アルコールを摂取したきっかけ

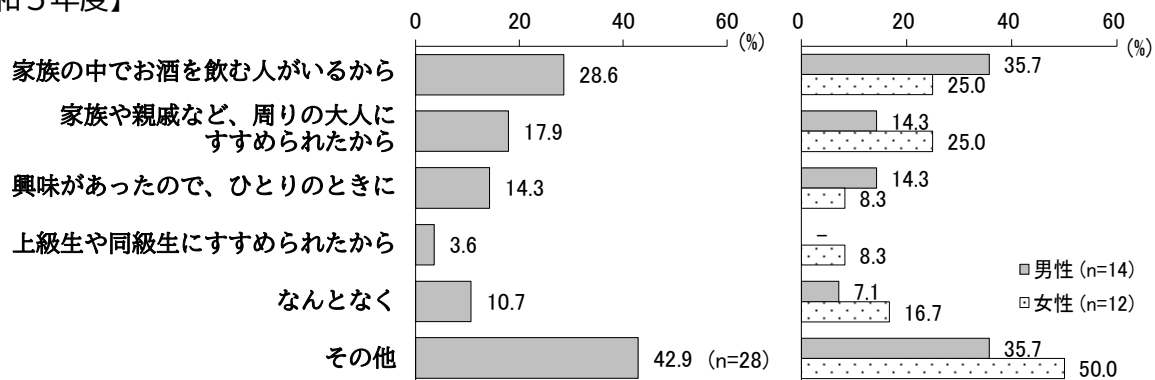
◇「家族の中でお酒を飲む人がいる」が約3割

(問47-1で、「2」～「4」とお答えの方に)

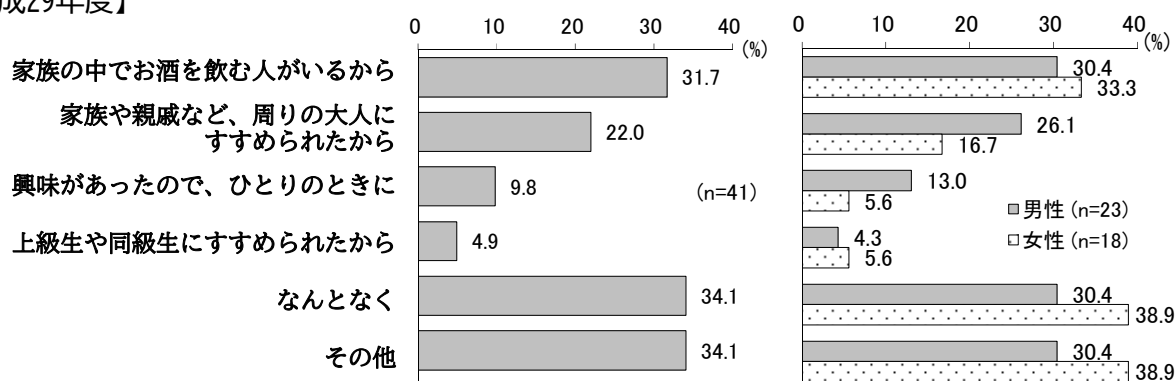
問47-3 初めてお酒を飲んだきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

<図表IV-7-23> アルコールを摂取したきっかけ

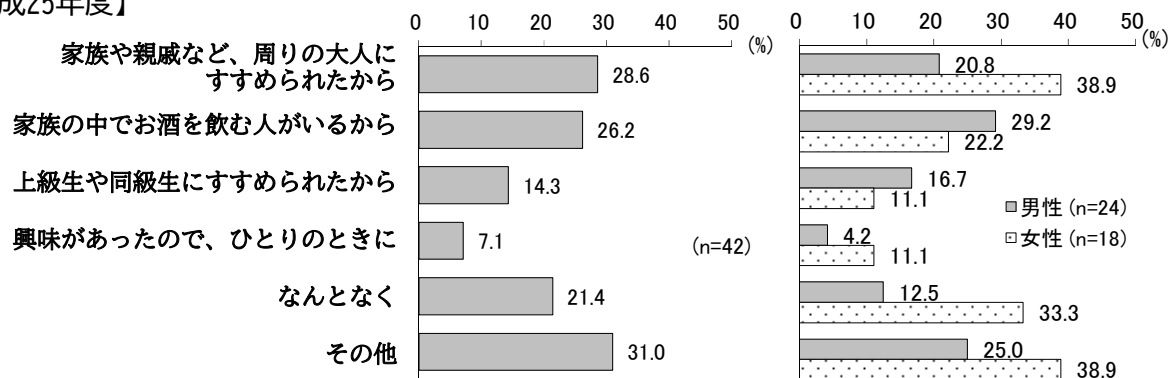
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



問47-1で、「2」～「4」と回答した人にアルコールを摂取したきっかけを聞いたところ、「家族の中でお酒を飲む人がいるから」（28.6％）が約3割で最も高く、次いで「家族や親戚など、周りの大人にすすめられたから」（17.9％）が約2割となっている。なお、この設問は回答数が少ないため参考までとし、性別、過去の調査結果との比較は述べていない。（図表IV-7-23）

【性／年齢別】

<図表IV-7-24>（全項目）

			(%)						
			n	家族や親戚など、周りの大人にすすめられたから	上級生や同級生にすすめられたから	興味があったので、ひとりのときに	家族の中でお酒を飲む人がいるから	なんとなく	その他
性／年齢別	男性	12歳	1	-	-	-	-	-	100.0
		13歳	3	-	-	-	33.3	-	66.7
		14歳	2	50.0	-	-	-	50.0	-
		15歳	3	-	-	33.3	33.3	-	33.3
		16歳	0	-	-	-	-	-	-
		17歳	5	20.0	-	20.0	60.0	-	20.0
	女性	12歳	1	-	-	-	-	-	100.0
		13歳	0	-	-	-	-	-	-
		14歳	2	-	-	-	-	-	100.0
		15歳	2	-	-	-	50.0	-	50.0
		16歳	2	100.0	-	-	50.0	-	-
		17歳	5	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	40.0

すべての年齢で回答数が少ないため、参考までに留める。（図表IV-7-24）

8 歯の健康について

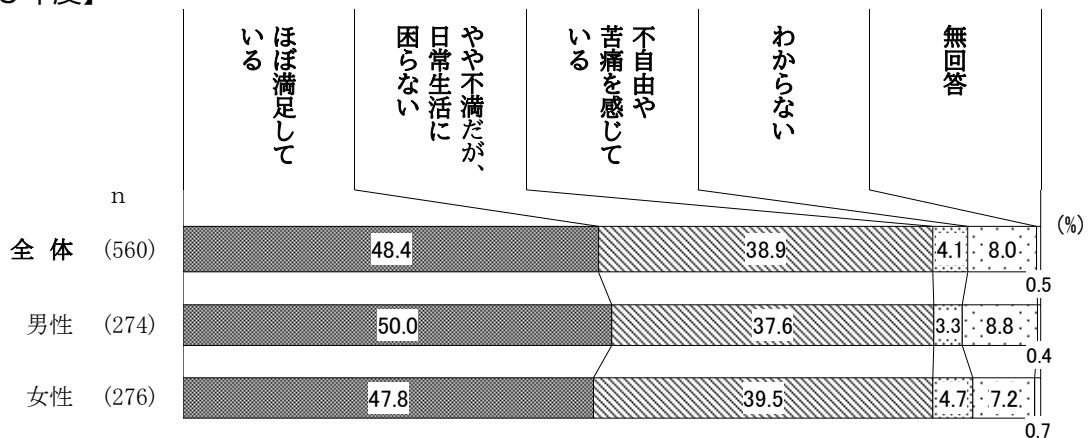
(1) 歯や歯ぐきの状態

◇「ほぼ満足している」は約5割、「やや不満だが、日常生活に困らない」は約4割

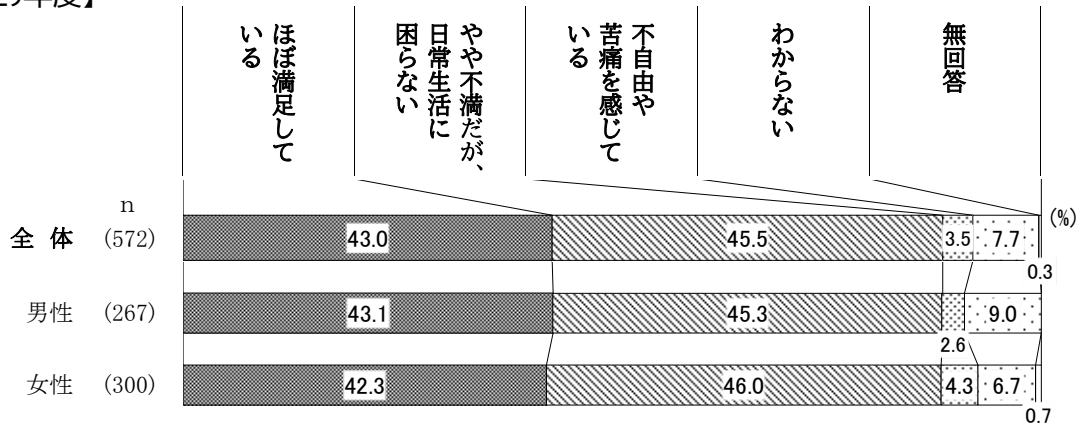
問48 あなたは、歯や歯ぐきの状態について、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－8－1> 歯や歯ぐきの状態

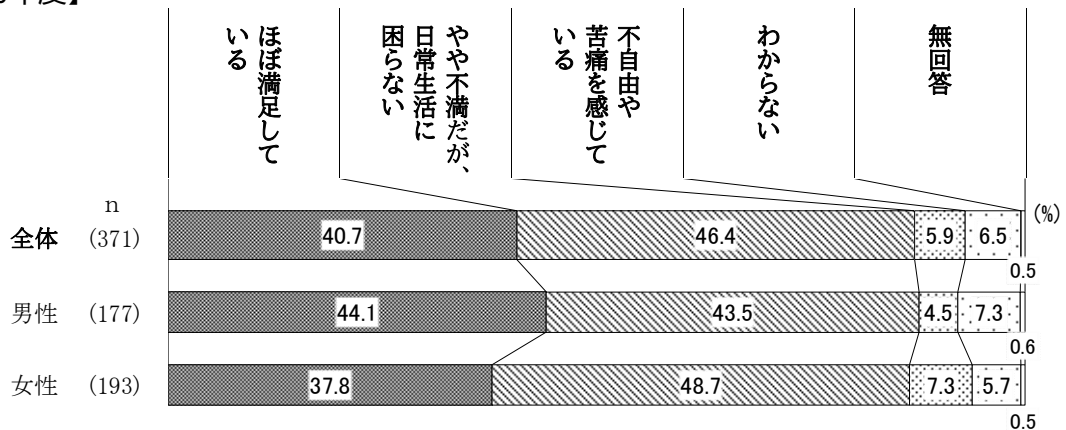
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

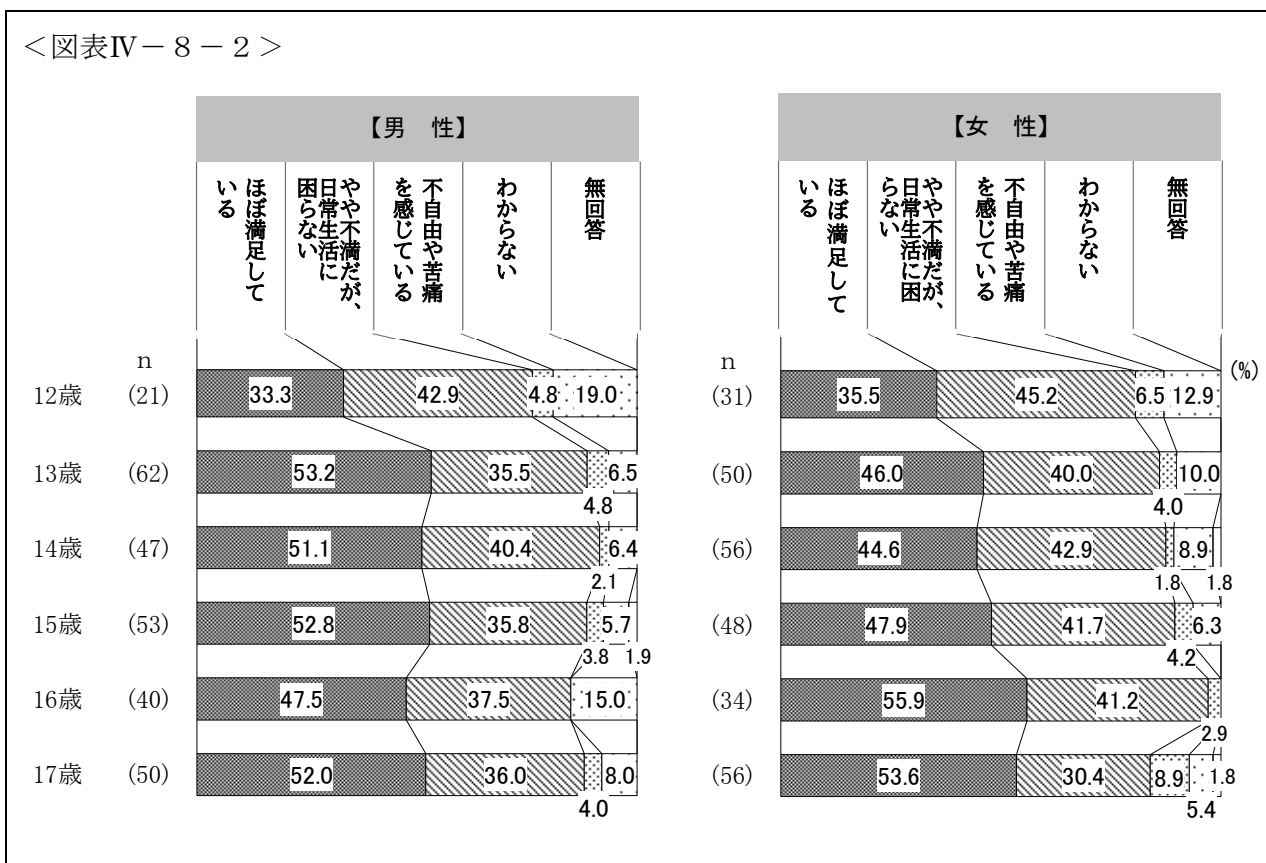


歯や歯ぐきの状態について聞いたところ、「ほぼ満足している」(48.4%)は約5割、「やや不満だが、日常生活に困らない」(38.9%)は約4割となっている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では「ほぼ満足している」は平成25年度から7ポイント、平成29年度から5ポイント増で漸増傾向にあり、「やや不満だが、日常生活に困らない」は平成29年度から6ポイント減少している。性別では平成29年度から「ほぼ満足している」が男性で6ポイント、女性で5ポイント増加している。また、「やや不満だが、日常生活に困らない」は男性が平成29年度から7ポイント、女性が平成25年度から9ポイント、平成29年度から6ポイント減少している。(図表Ⅳ－8－1)

【性／年齢別】



男性では「ほぼ満足している」は、12歳、16歳を除き、5割台となっている。「やや不満だが、日常生活に困らない」は12歳、14歳で4割台となっている。女性では「ほぼ満足している」は16歳、17歳が5割台半ばとなっている。「やや不満だが、日常生活に困らない」は、17歳を除き、4割台となっている。(図表Ⅳ－8－2)

(2) 1日1回は1本ずつていねいに歯を磨く習慣の有無

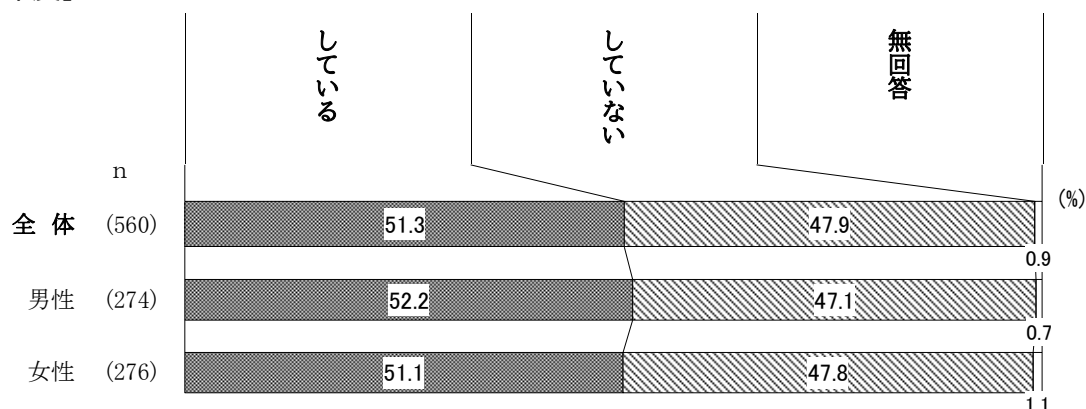
◇「している」が5割を超える

問49 あなたは、毎日1回は1本ずつていねいに歯を磨くようにしていますか。

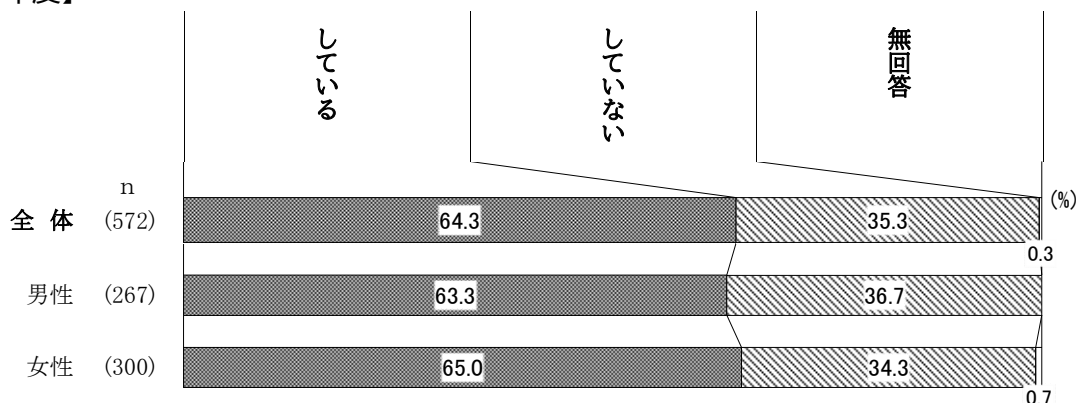
(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－8－3> 1日1回は1本ずつていねいに歯を磨く習慣の有無

【令和5年度】



【平成29年度】



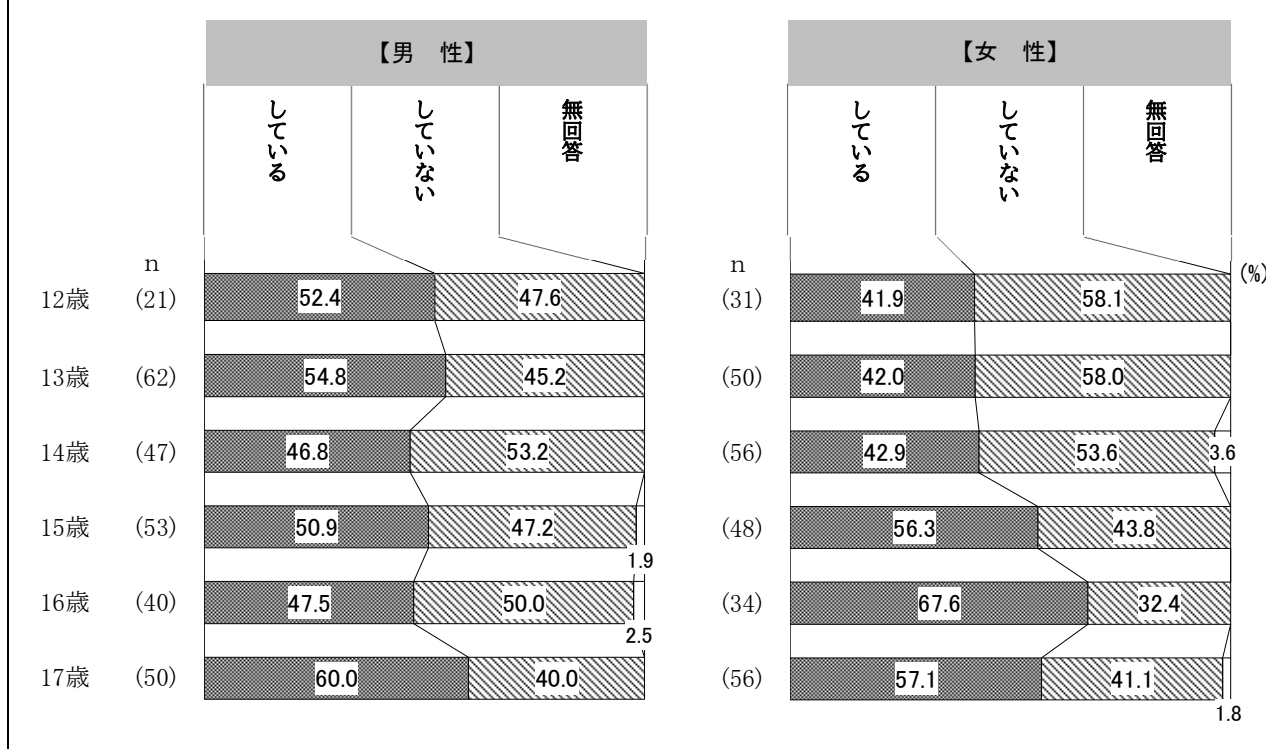
1日1回は1本ずつていねいに歯を磨く習慣の有無を聞いたところ、「している」(51.3%)が5割を超え、「していない」(47.9%)が約5割となっている。

性別では、大きな違いはみられない。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体、男女とも「している」は減少し、全体で13ポイント、男性で11ポイント、女性で13ポイント減となっている。(図表Ⅳ－8－3)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－8－4>



男性では「している」は、17歳が6割と高く、13歳でも5割台半ばとなっている。「していない」は14歳が5割台半ば、16歳が5割となっている。女性では「している」は、16歳が約7割と最も高く、17歳でも約6割となっている。「していない」は12歳、13歳が約6割と高くなっている。（図表Ⅳ－8－4）

(3) デンタル・フロスや歯間ブラシの使用頻度

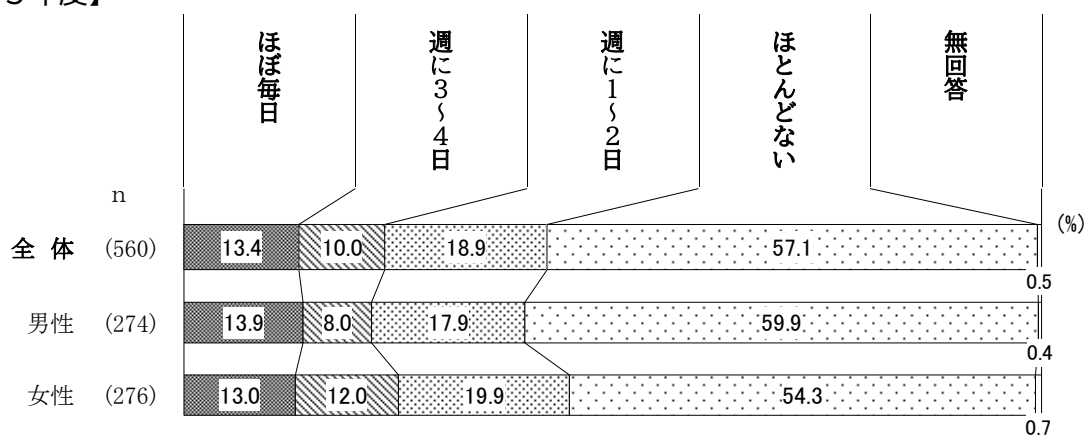
◇「ほとんどない」が約6割

問50 あなたは、デンタル・フロス（糸ようじ等）や歯間ブラシを使っていますか。

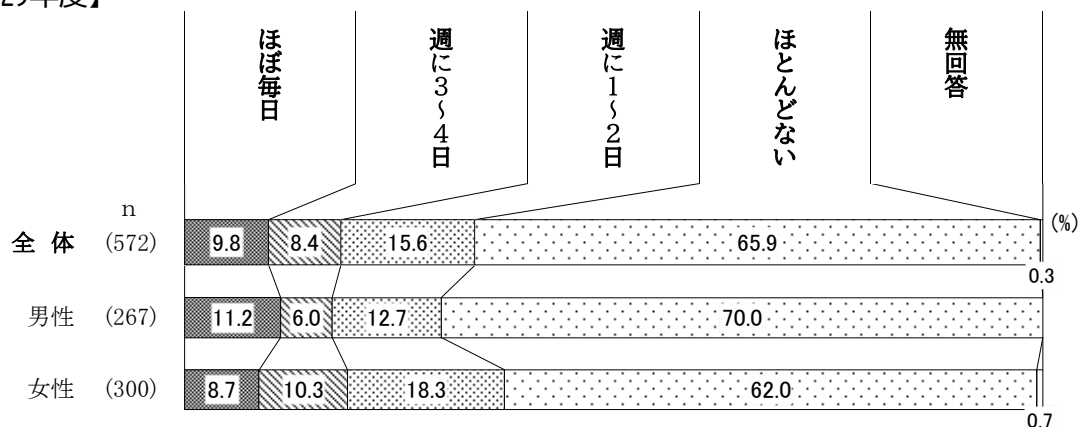
(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－8－5> デンタル・フロスや歯間ブラシの使用頻度

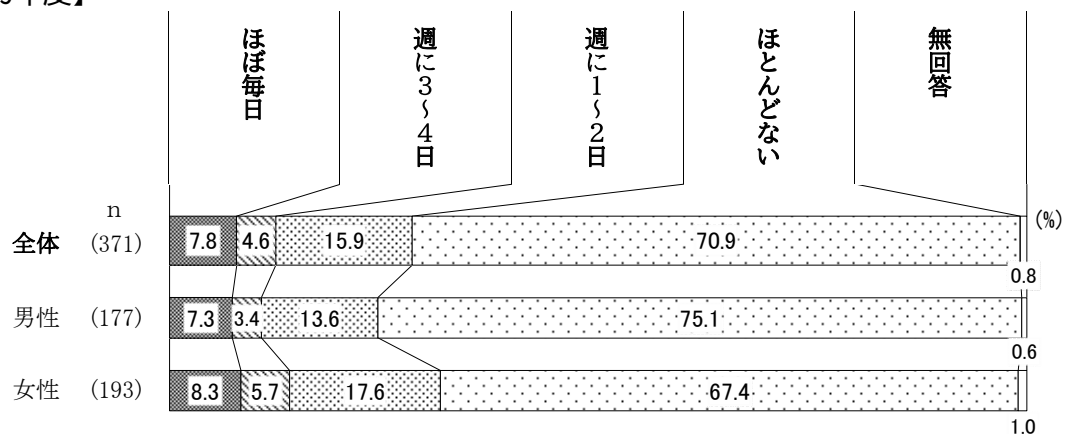
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



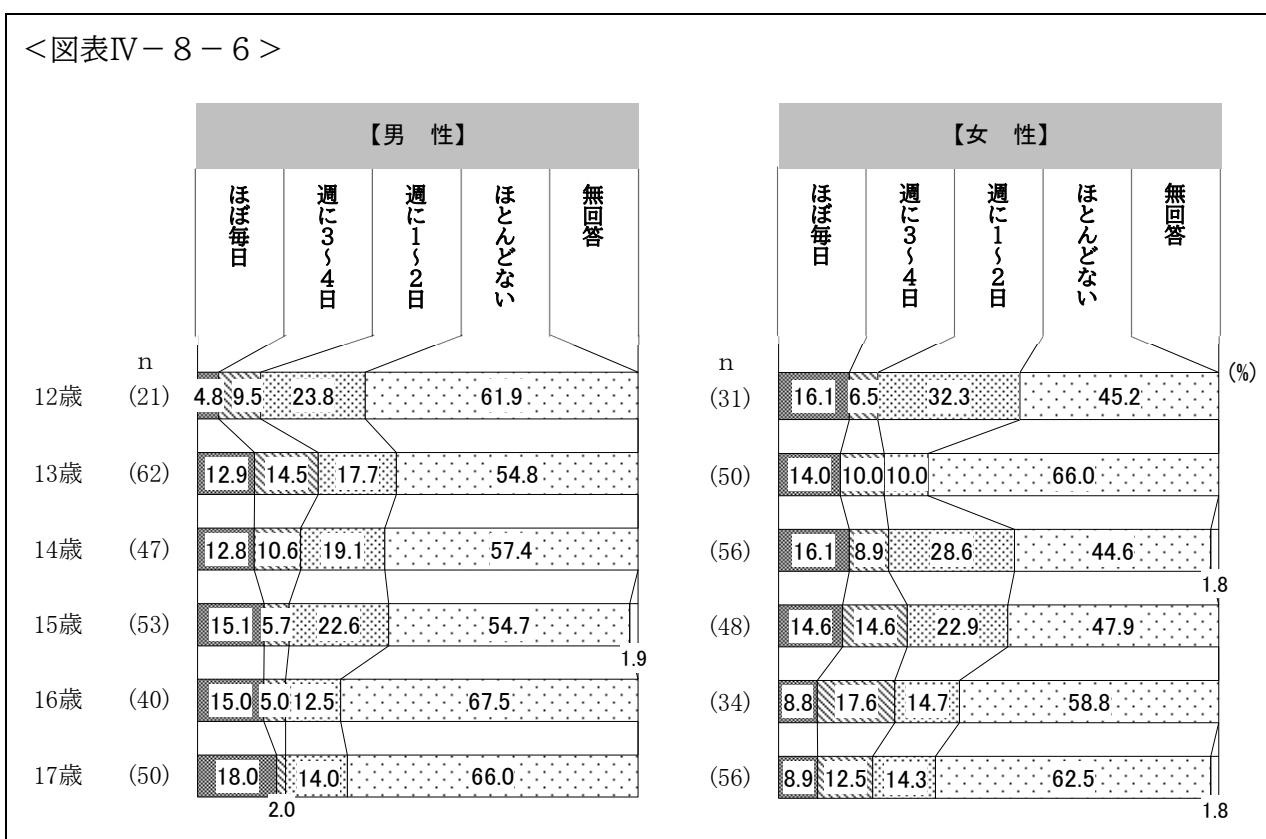
デンタル・フロスや歯間ブラシの使用頻度について聞いたところ、「週に1～2日」(18.9%)が約2割、「ほぼ毎日」(13.4%)が1割台半ば、「週に3～4日」(10.0%)が1割となっている。一方、「ほとんどない」(57.1%)は約6割となっている。

性別でみると、「ほとんどない」は男性が女性より5ポイント高く、約6割となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体、男女とも「ほぼ毎日」は漸増傾向、「ほとんどない」は減少傾向にある。「ほぼ毎日」は、平成25年度から、全体が5ポイント、男性が6ポイント増加している。「ほとんどない」は、全体で平成25年度から13ポイント、平成29年度から8ポイント、男性で平成25年度から15ポイント、平成29年度から10ポイント、女性で平成25年度から13ポイント、平成29年度から7ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅳ－8－5)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－8－6>



男性では「ほぼ毎日」は、17歳が約2割、「週に1～2日」は12歳が2割台半ば、15歳が2割を超えている。「ほとんどない」は、16歳が約7割、17歳が6割台半ばと高い。女性では「ほぼ毎日」は、12歳～15歳が1割台半ば、「週に1～2日」は、12歳が3割を超えている。「ほとんどない」は、13歳が6割台半ばと高く、17歳でも6割を超えている。(図表Ⅳ－8－6)

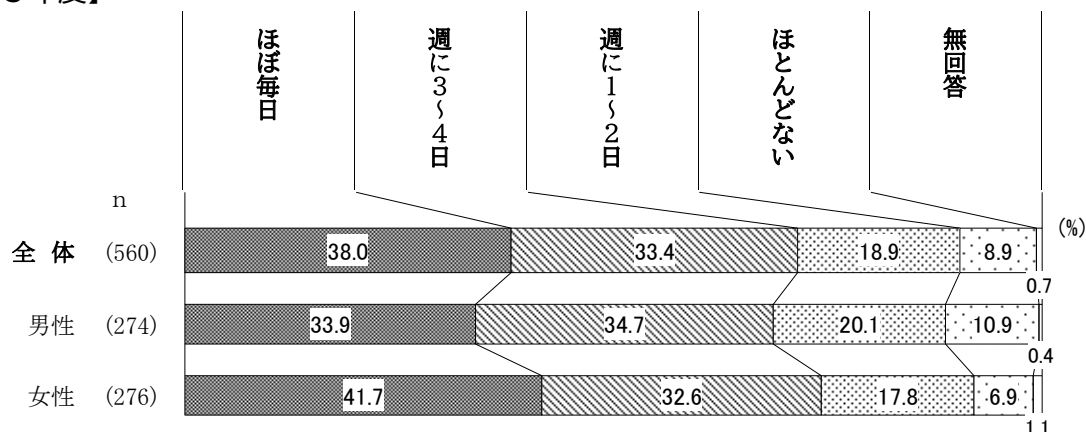
(4) 1週間に甘味食品を摂る頻度

◇「ほぼ毎日」が約4割、「週に3～4日」が3割台半ば

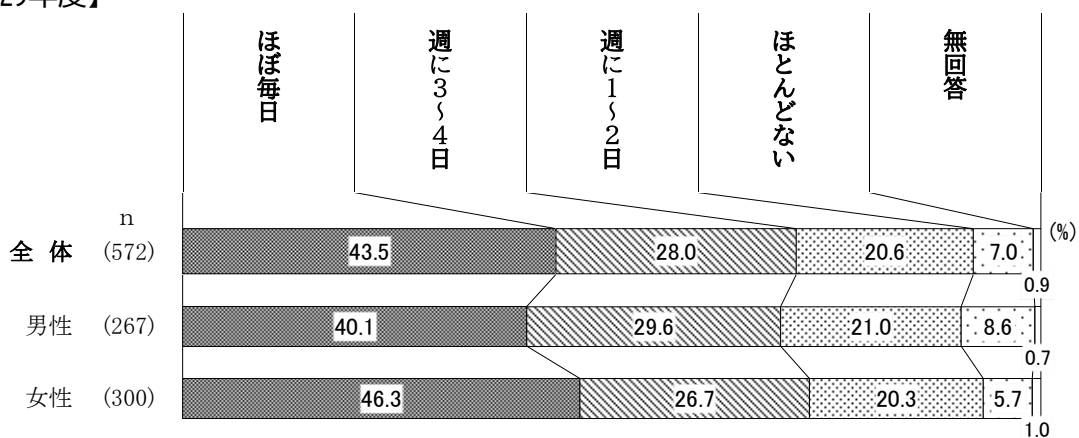
問51 あなたは、甘いお菓子（アメ・チョコ・ガム・アイスなど）を1週間にどのくらい食べますか。（○は1つだけ）

<図表Ⅳ－8－7> 1週間に甘味食品を摂る頻度

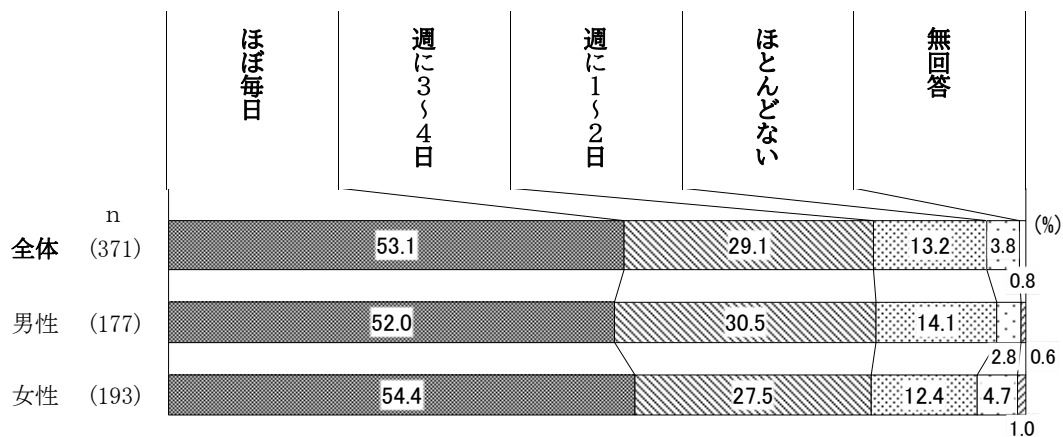
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】（参考：飲料を含む）

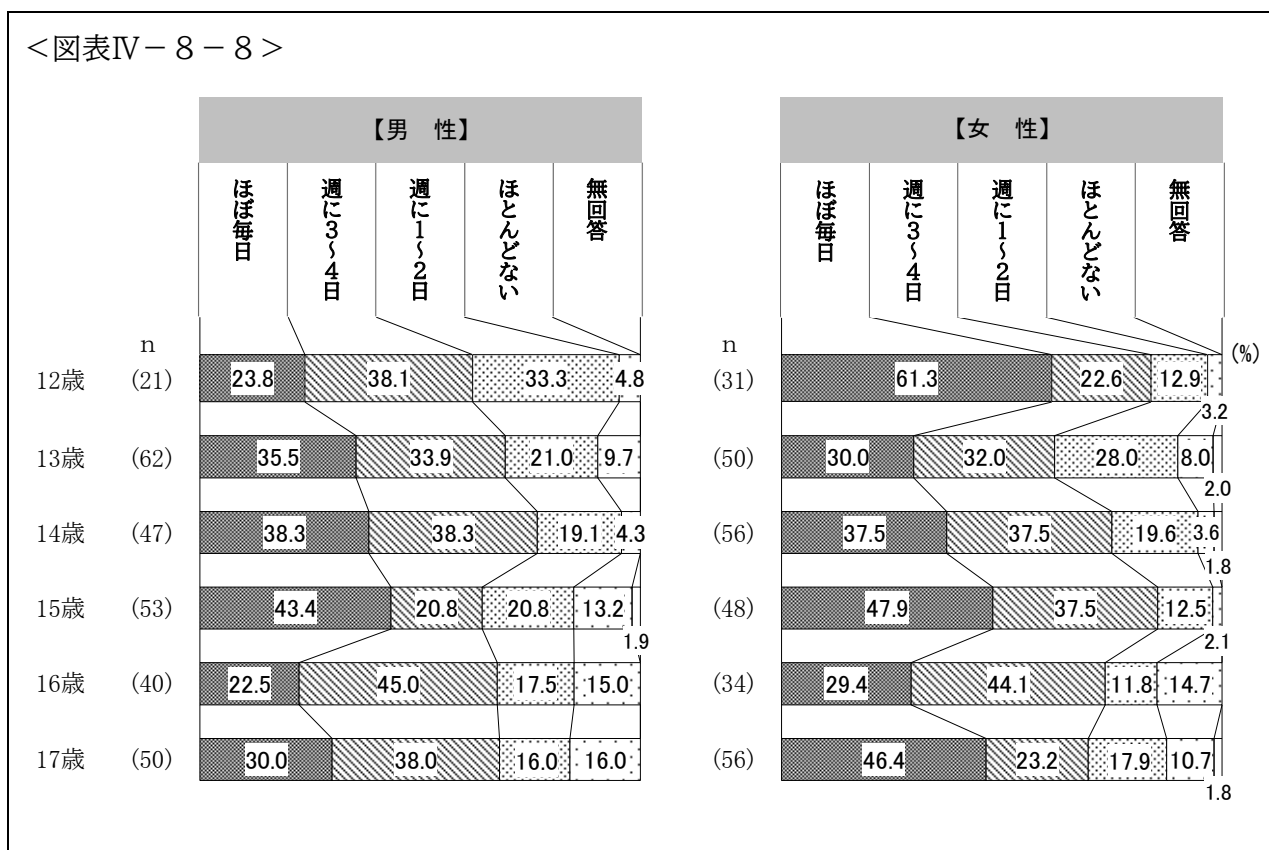


1週間に甘味食品を摂る頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」（38.0%）が約4割、「週に3～4日」（33.4%）は3割台半ば、「週に1～2日」（18.9%）は約2割となっている。

性別でみると、「ほぼ毎日」は女性が男性より7ポイント高く、4割を超えている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では「ほぼ毎日」が5ポイント減少、「週に3～4日」が5ポイント増加している。性別では、男性は「ほぼ毎日」が6ポイント減少、「週に3～4日」が5ポイント増加している。女性では「週に3～4日」が5ポイント増加している。（図表Ⅳ－8－7）

【性／年齢別】



男性では「ほぼ毎日」は、15歳が4割台半ば、「週に3～4日」は、16歳が4割台半ばとなっている。女性では「ほぼ毎日」は、12歳が6割を超えて高く、「週に3～4日」は、16歳が4割台半ばとなっている。（図表Ⅳ－8－8）

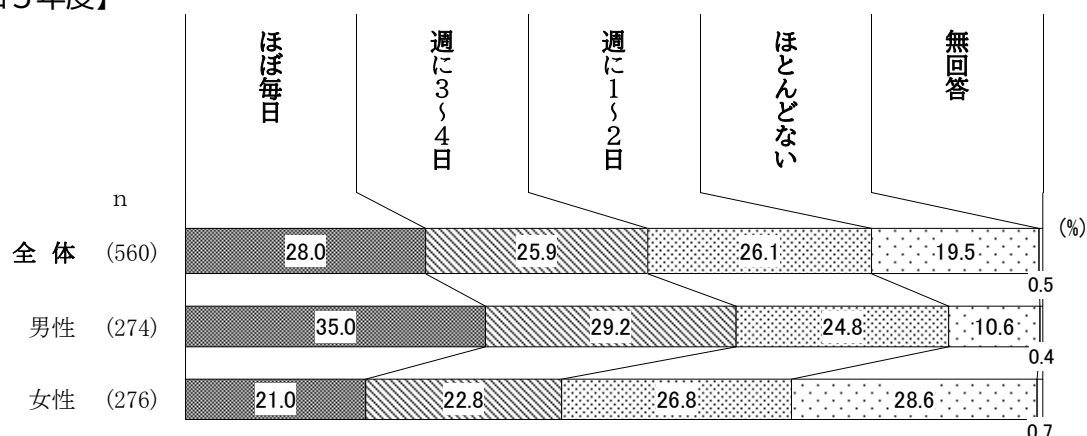
(5) 1週間に甘味飲料を摂る頻度

◇「ほぼ毎日」が約3割も「週に1～2日」「週に3～4日」が2割台半ば

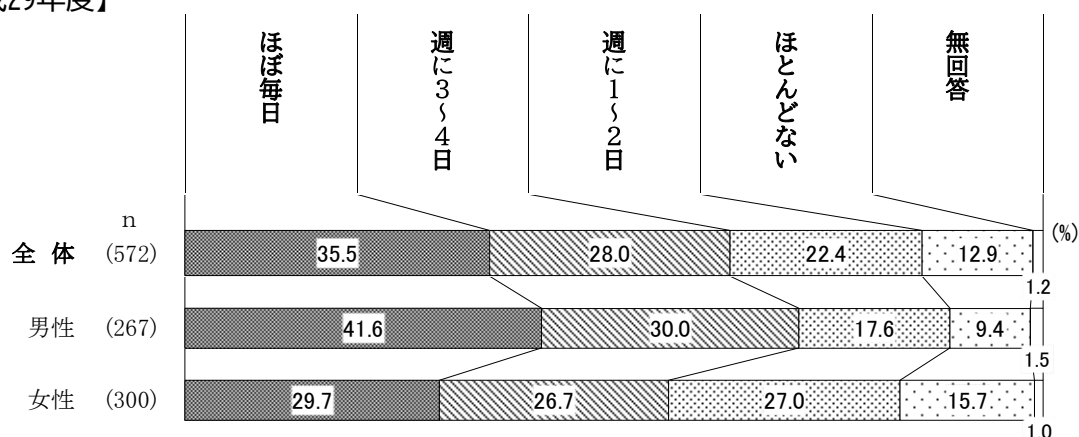
問 52 あなたは、甘い飲み物（ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなど）を1週間にどのくらい飲みますか。（○は1つだけ）

<図表Ⅳ－8－9> 1週間に甘味飲料を摂る頻度

【令和5年度】



【平成29年度】



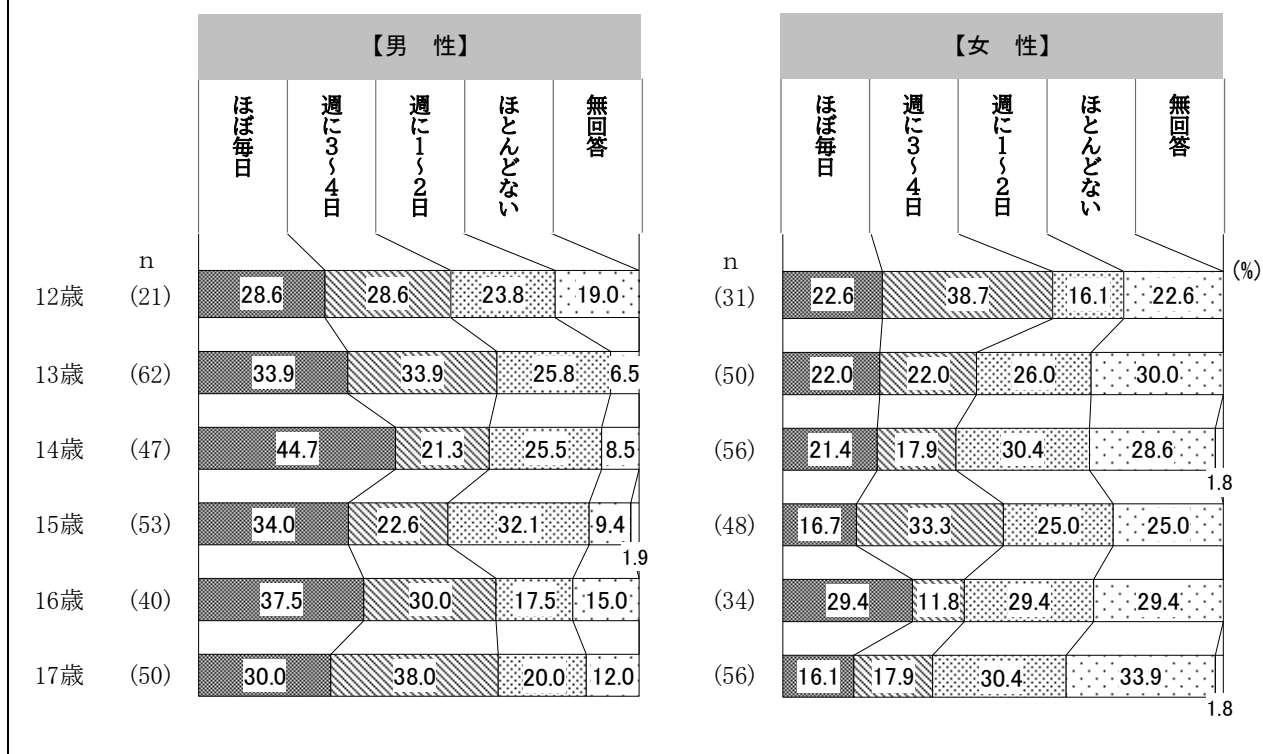
1週間に甘い飲み物を摂る頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」（28.0％）が約3割、「週に1～2日」（26.1％）と「週に3～4日」（25.9％）が2割台半ばとなっている。

性別でみると、「ほぼ毎日」は男性が女性より14ポイント高く、3割台半ば、「週に3～4日」も男性が女性より6ポイント高く、約3割となっている。一方、「ほとんどない」は女性が男性より18ポイント高く、約3割となっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では「ほぼ毎日」が7ポイント減少し、「ほとんどない」が6ポイント増加している。性別では、男性は「ほぼ毎日」が6ポイント減少、「週に1～2日」が7ポイント増加している。女性は「ほぼ毎日」が8ポイント減少し、「ほとんどない」が12ポイント増加している。（図表Ⅳ－8－9）

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－8－10>



男性では「ほぼ毎日」は、14歳が4割台半ば、「週に3～4日」は17歳が約4割、「週に1～2日」は、15歳が3割を超えて高くなっている。女性では「ほぼ毎日」は、16歳が約3割、「週に3～4日」は12歳が約4割、「週に1～2日」は、14歳、16歳、17歳で3割前後と高く、「ほとんどない」は、17歳で3割台半ばとなっている。（図表Ⅳ－8－10）

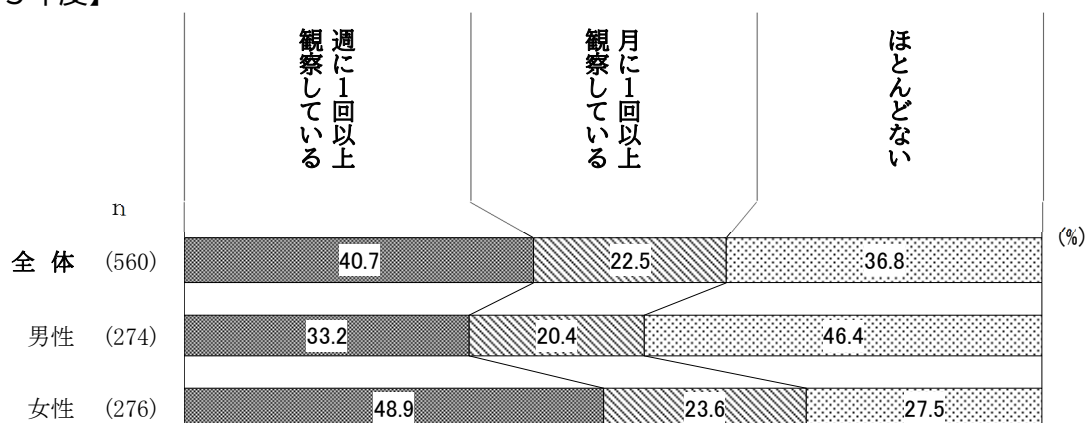
(6) 歯や歯ぐきの観察習慣

◇「週1回以上観察している」が約4割、一方、「ほとんどない」も3割台半ば

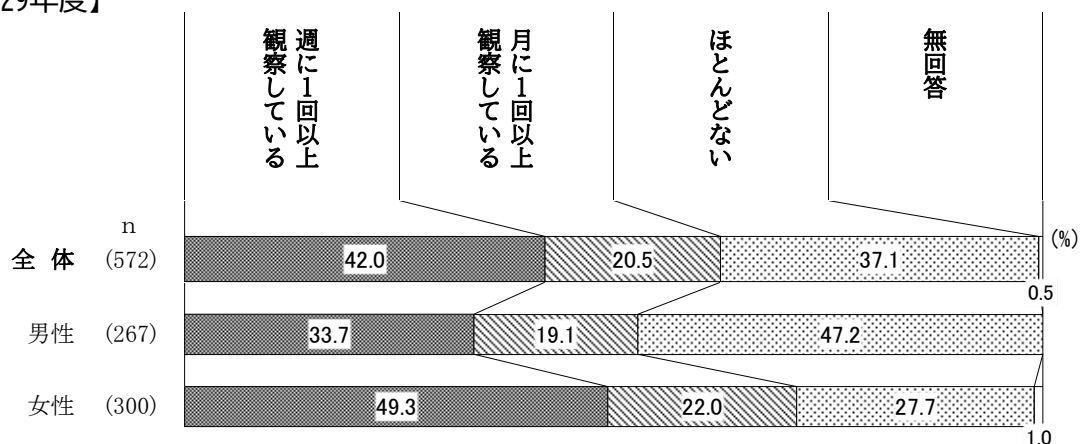
問53 あなたは、鏡などを使って、歯や歯ぐきの様子を自分で観察することがありますか。
(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－8－11> 歯や歯ぐきの観察習慣

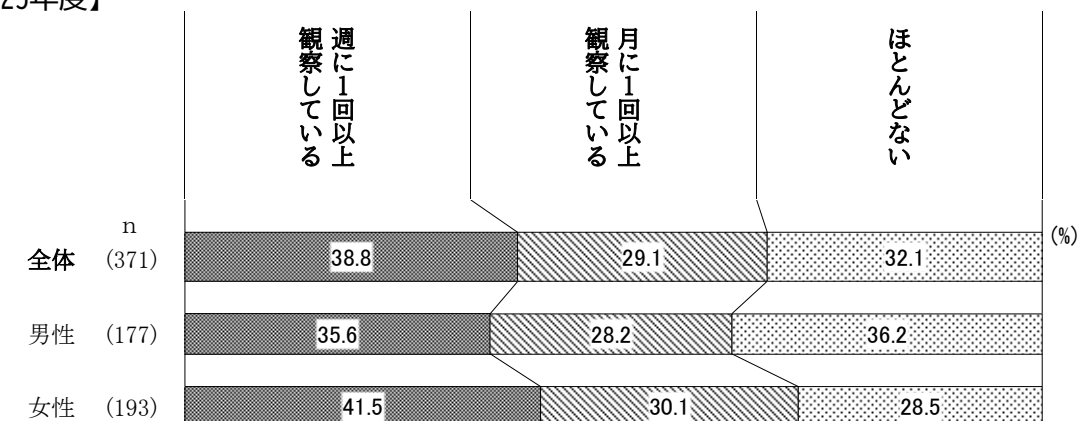
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



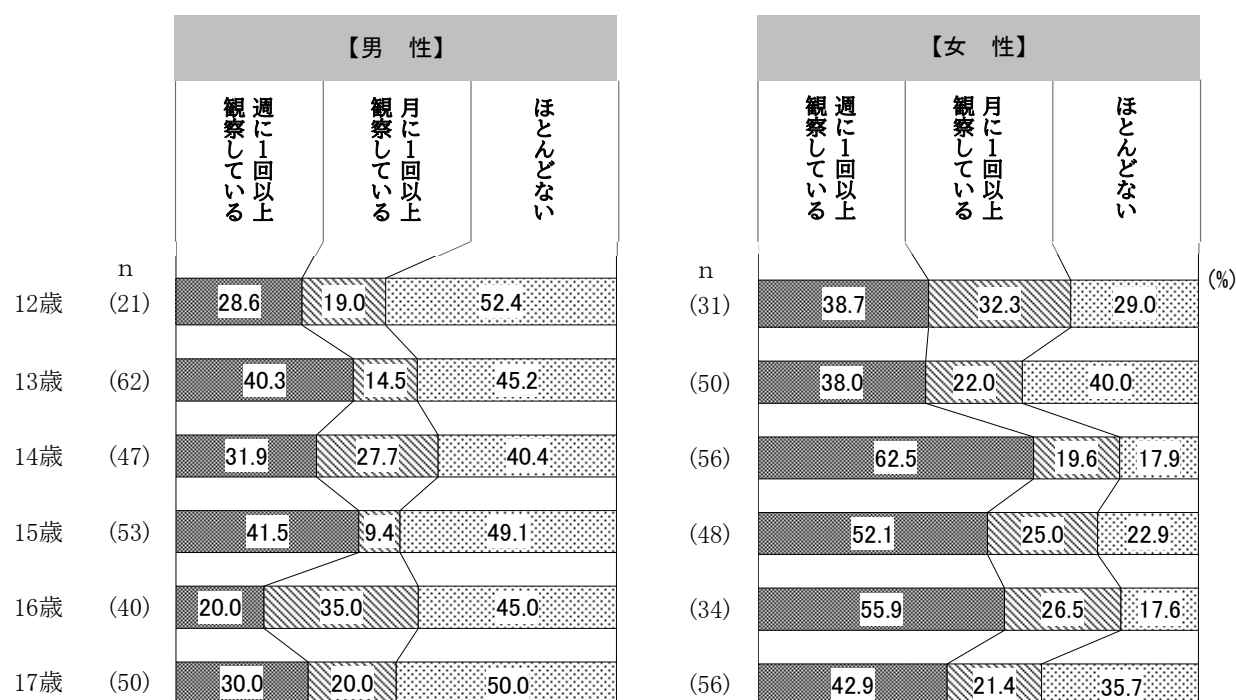
歯や歯ぐきの観察習慣について聞いたところ、「週に1回以上観察している」(40.7%)が4割、「月に1回以上観察している」(22.5%)が2割を超えている。一方、「ほとんどない」(36.8%)が3割台半ばとなっている。

性別でみると、「週に1回以上観察している」は女性が男性より15ポイント高く、約5割となっている。一方、「ほとんどない」は男性が女性より18ポイント高く、4割台半ばとなっている。

過去の調査結果との比較では、全体、性別とも大きな違いはみられない。(図表Ⅳ－8－11)

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－8－12>



男性では「週に1回以上観察している」は、15歳が4割を超え、13歳でも4割と高い。「月に1回以上観察している」は、16歳が3割台半ばとなっている。「ほとんどない」は、12歳、15歳、17歳で5割前後と高くなっている。女性では「週に1回以上観察している」は、14歳が6割を超えて高くなっている。「月に1回以上観察している」では、12歳が3割を超え、「ほとんどない」は、13歳が4割と高くなっている。(図表Ⅳ－8－12)

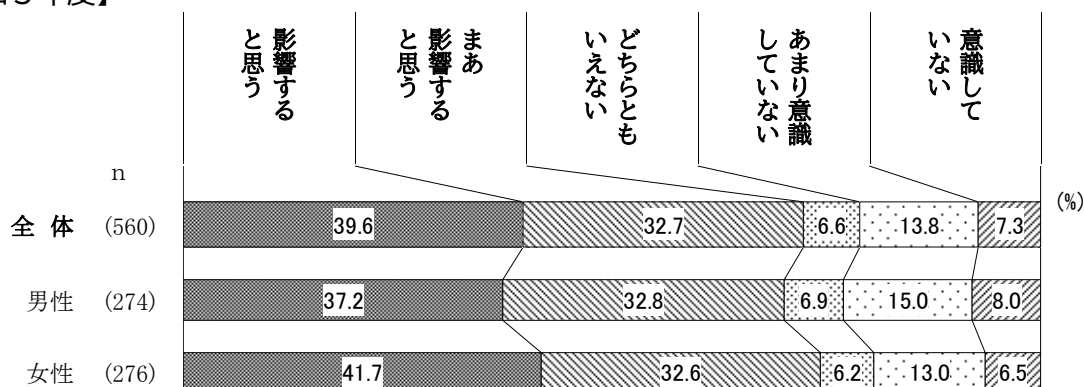
(7) 歯の健康が体全体に与える影響の認知度

◇《影響すると思う》が7割を超える

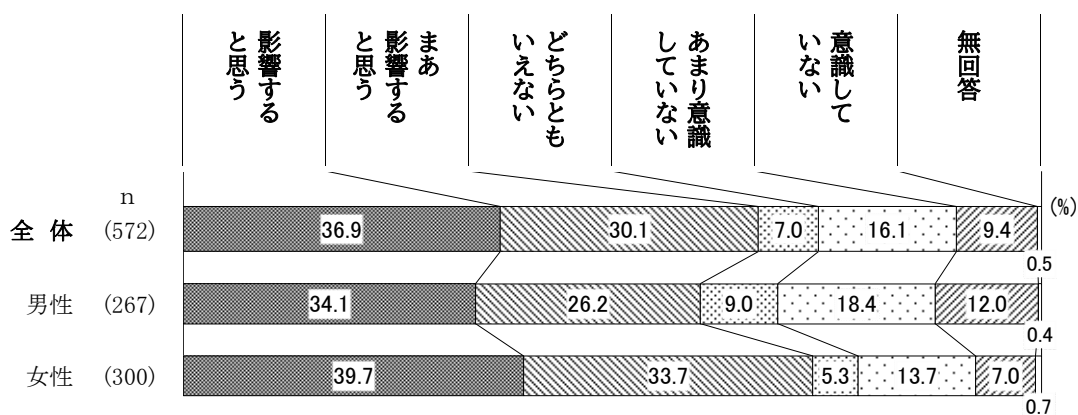
問54 あなたは、歯や歯ぐきが体全体の健康に及ぼす影響についてどう考えますか。
(○は1つだけ)

<図表Ⅳ－8－13> 歯の健康が体全体に与える影響の認知度

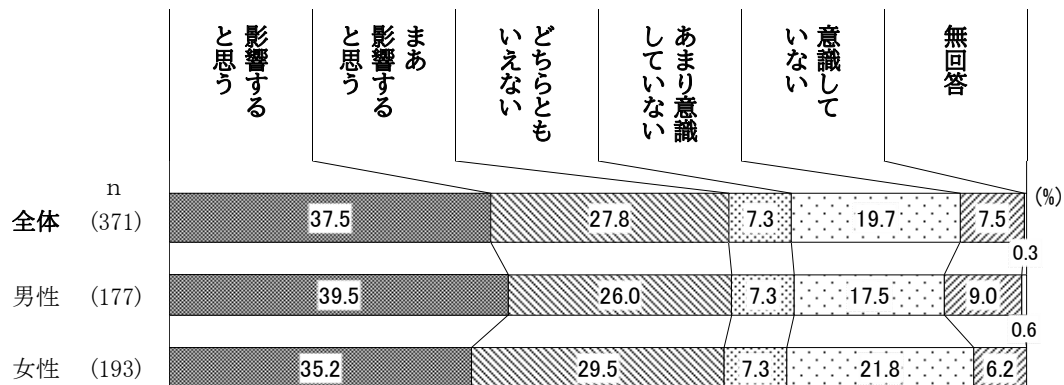
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

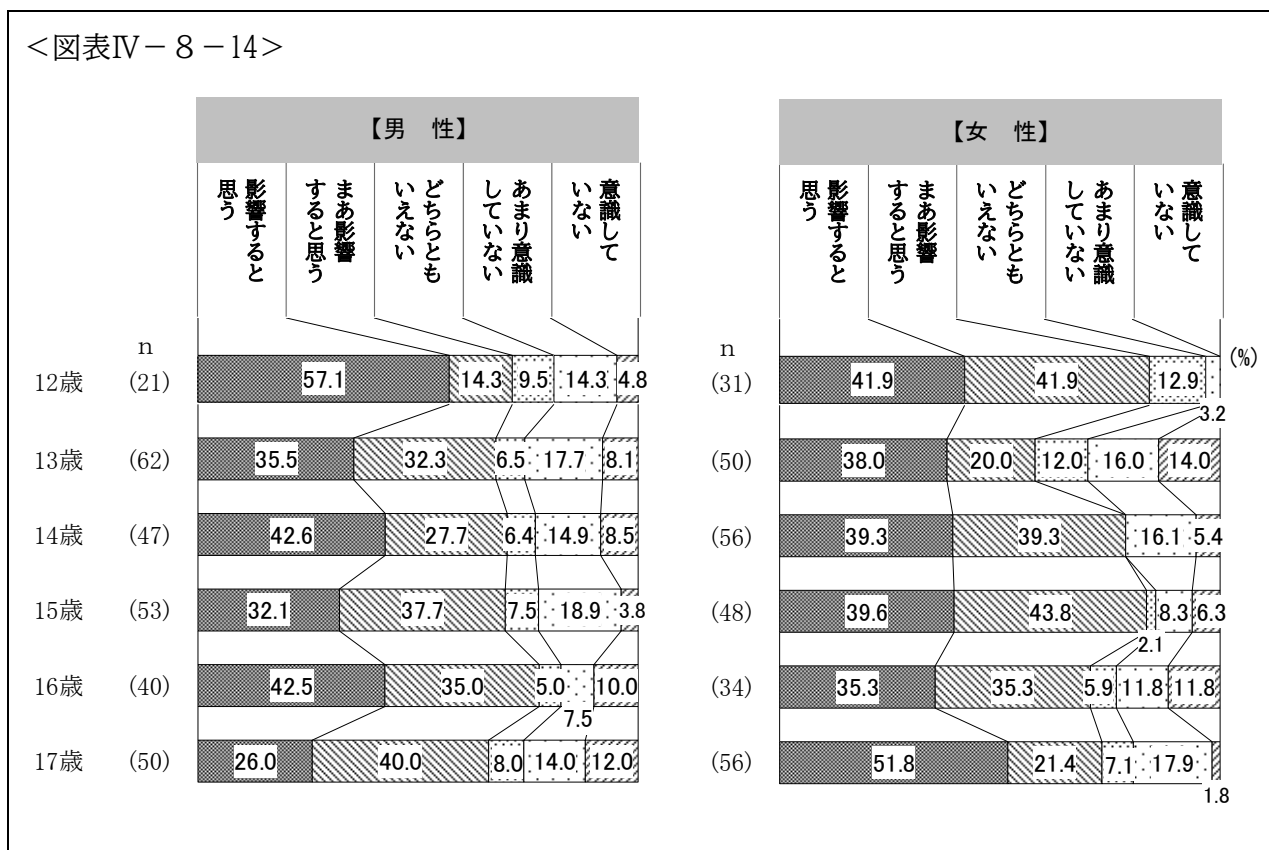


歯の健康が体全体に与える影響の認知度は、「影響すると思う」（39.6％）と「まあ影響すると思う」（32.7％）を合わせた《影響すると思う》（72.3％）は7割を超えている。一方、「あまり意識していない」（13.8％）と「意識していない」（7.3％）を合わせた《意識していない》（21.1％）は2割を超えている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では《影響すると思う》が漸増傾向にあり、平成25年度から7ポイント増加している。一方、《意識していない》は平成25年度から6ポイント減少している。性別では、男性は平成29年度から《影響すると思う》が9ポイント増加し、《意識していない》が7ポイント減少している。女性は平成25年度から《影響すると思う》が9ポイント増の漸増傾向、《意識していない》が8ポイント減の漸減傾向にある。（図表Ⅳ－8－13）

【性／年齢別】



男性では「影響すると思う」は、12歳が約6割と高く、14歳、16歳で4割を超えている。《影響すると思う》は、16歳が約8割と高くなっている。《意識していない》は、12歳、16歳を除いて2割台となっている。女性では「影響すると思う」は、17歳が5割を超え、《影響すると思う》は、12歳、15歳が8割台半ばと高くなっている。《意識していない》は、13歳が3割と高くなっている。（図表Ⅳ－8－14）。

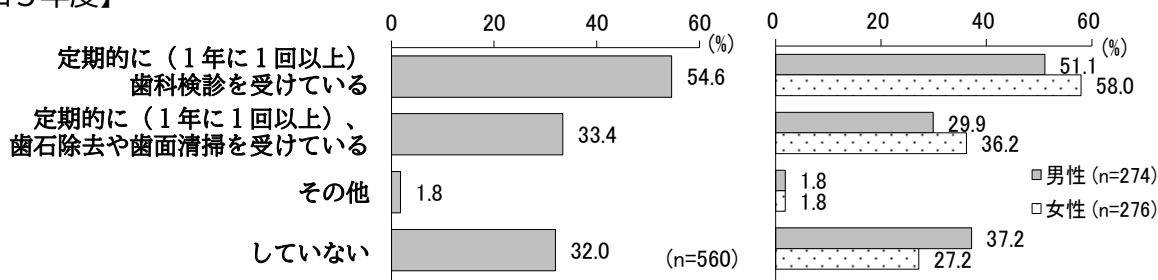
(8) 定期的な歯科検診の受診状況

◇「定期的に歯科検診を受けている」は5割台半ば

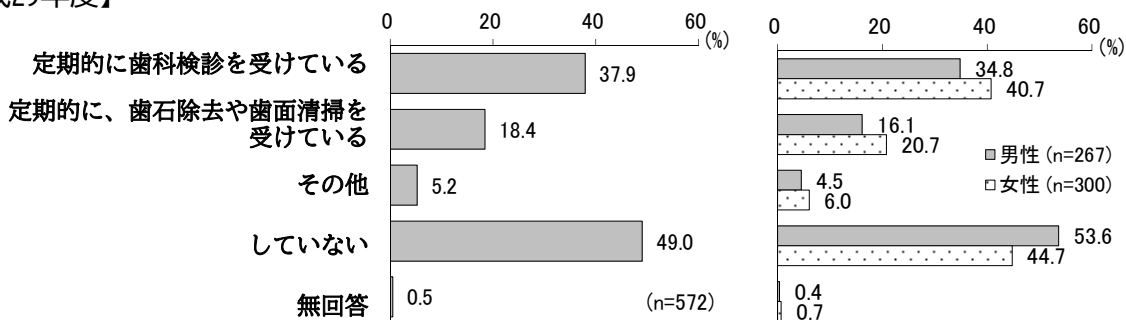
問55 あなたは、学校の歯科検診以外に、次のようなことをしていますか。(○はいくつでも)

<図表Ⅳ－8－15> 定期的な歯科検診の受診状況

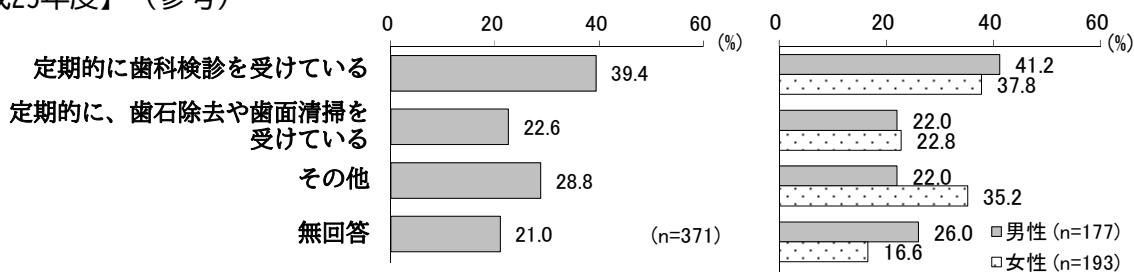
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】（参考）



定期的な歯科検診の受診状況を聞いたところ、「定期的に（1年に1回以上）歯科検診を受けている」（54.6%）が5割台半ば、「定期的に（1年に1回以上）、歯石除去や歯面清掃を受けている」（33.4%）が3割台半ばとなっている。一方、「していない」（32.0%）は3割を超えている。

性別でみると、「定期的に（１年に１回以上）歯科検診を受けている」は、女性が男性より６ポイント高く、約６割、「定期的に（１年に１回以上）、歯石除去や歯面清掃を受けている」でも、女性が男性より６ポイント高く、３割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成29年度から「定期的に（１年に１回以上）歯科検診を受けている」が16ポイント、「定期的に（１年に１回以上）、歯石除去や歯面清掃を受けている」が15ポイント増加している。一方、「していない」は17ポイント減少している。性別では、男性は平成29年度から「定期的に（１年に１回以上）歯科検診を受けている」が16ポイント、「定期的に（１年に１回以上）、歯石除去や歯面清掃を受けている」が13ポイント増加している。女性でも平成29年度から「定期的に（１年に１回以上）歯科検診を受けている」が17ポイント、「定期的に（１年に１回以上）、歯石除去や歯面清掃を受けている」は15ポイント増加している。「していない」は平成29年度から男性で16ポイント、女性で17ポイント減少している。（図表Ⅳ－８－15）

【性／年齢別】

<図表Ⅳ－８－１６>（全項目）

				定期的に（１年に１回以上） 歯科検診を受けている	定期的に（１年に１回以上）、 歯石除去や歯面清掃を受けている	その他	(%) していない
			n				
性／年齢別	男性	12歳	21	47.6	38.1	0.0	28.6
		13歳	62	69.4	35.5	4.8	22.6
		14歳	47	44.7	29.8	2.1	46.8
		15歳	53	45.3	24.5	0.0	41.5
		16歳	40	42.5	30.0	0.0	42.5
		17歳	50	48.0	24.0	2.0	42.0
	女性	12歳	31	67.7	35.5	3.2	22.6
		13歳	50	68.0	30.0	0.0	22.0
		14歳	56	62.5	39.3	3.6	23.2
		15歳	48	58.3	45.8	0.0	25.0
		16歳	34	47.1	29.4	2.9	32.4
		17歳	56	44.6	35.7	1.8	37.5

※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では「定期的に（１年に１回以上）歯科検診を受けている」は13歳が約7割と、他の年齢が4割台のなか突出している。「定期的に（１年に１回以上）、歯石除去や歯面清掃を受けている」では、12歳が約4割、13歳が3割台半ばで高くなっている。「していない」は14歳が4割台半ばと最も高くなっている。

女性では「定期的に（１年に１回以上）歯科検診を受けている」は、12歳、13歳が約7割と高くなっている。「定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている」は、15歳が4割台半ばと高くなっている。「していない」は17歳が約4割と最も高くなっている。（図表Ⅳ－８－１６）

9 自由回答

★今後の保健衛生事業・健康づくり・計画へのご要望・ご意見・ご提案等ございましたら、ご自由にご記入ください。

区への意見や要望に対しては、41人から延べ43件の回答が寄せられた。ここでは、意見や要望を分類し、各項目別で記載した。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、それぞれを各テーマに分類している。

【健康づくり・健康意識】 12

食事や健康についての考え	5
学校教育での取り組み	5
スポーツや健康に関する教室やイベントの充実	2

【環境】 11

禁煙や分煙の推進・強化	9
公共施設の充実	2

【区役所・行政】 3

行政・区役所の取り組みの充実	3
----------------	---

【情報提供】 3

健康に関する活動・指導等の情報提供を充実	3
----------------------	---

【その他】 14

アンケートに関して	5
その他	9
